

日本研究・知的交流事業に必要な経費 企画開発費

1. 文化資料事業費
 - (1) 図書寄贈〔企画調整〕

企画開発費

1. 文化資料事業費 / (1) 図書寄贈 [企画調整]

日本研究関係の定期刊行物を買上げ、ODA地域を中心とした日本研究・教育機関に対して寄贈する。

合計額 1,359,480 円

| | 事業名 | 対象機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|----------|---|----------------|-------------------------|--|
| 1 | 日本研究資料購送 | 財団法人 東方学会 上智大学 モニュメン タ・ニッポニカ ワシントン大学 The Journal of Japanese Studies | 日本 日本 米国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 海外の日本研究振興に資する図書資料寄贈事業の一環として、日本研究分野で定評のある英文定期刊行物3誌 (ACTA ASIATICA、Monumenta Nipponica、The Journal of Japanese Studies) を購入し、ODA諸国を中心とする各国日本研究機関へ寄贈した。 |

日本研究・知的交流事業に必要な経費

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費

- (1) 受託事業（日中交流センター）
- (2) 高校生等招へい事業

2. 催し等事業費

- (1) ネットワーク整備事業（催し・主催）
- (2) 交流拠点設置運営事業（催し・主催）
- (3) 交流拠点設置運営事業（催し・助成）

3. 文化資料事業費

- (1) ネットワーク整備事業（文化資料）

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費 / (1) 受託事業 (日中交流センター)

日中交流の分野で、国際交流基金の業務趣旨に合致する事業を外部から受託し実施する。

合計額 28,395,732 円

| | 事業名 | 期間 | 事業内容 |
|---|-------------------|-------------------------|---|
| 1 | 中国高校生長期招へい (第二期生) | 2007.09.04 ~ 2008.07.26 | 中国の高校生に11カ月間の日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ること、同時に彼らを取り巻く日本人々にも中国人と直接交流する機会を提供すること、これらにより”人”と”人”の心のつながりをつくり、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる信頼関係を築くことを目的とする。第二期生は計37名を招へい。 |
| 2 | コミュニティサイト運営 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本と中国の市民間の交流が続くよう、交流事業を通じて生まれた友情の輪をつなぎ、広げていくために、インターネット上で、「心連心コミュニティ・サイト」を運営。 |

日中交流センター事業費

1. 人物交流事業費 / (2) 高校生等招へい事業

中国の高校生を招へいし、日本の社会と文化を知る機会を提供するとともに、日本の人々にも中国人と直接交流し、中国の文化を知る機会を提供する。

合計額 50,021,879 円

| | 事業名 | 人数 | 期間 | 事業内容 |
|---|----------------------|----|-------------------------|--|
| 1 | 中国高校生長期招へい (第二期生) | 37 | 2007.09.04 ~ 2008.07.26 | 中国の高校生に11カ月間の日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ること、同時に彼らを取り巻く日本の人々にも中国人と直接交流する機会を提供すること、これらにより”人”と”人”の心のつながりをつくり、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる信頼関係を築くことを目的とする。第二期生は計37名を招へい。 |
| 2 | 中国高校生長期招へい (第三期生) | 26 | 2008.09.02 ~ 2009.07.25 | 中国の高校生に11カ月間の日本滞在の機会を提供し、その生活を通して日本の社会と文化を知ること、同時に彼らを取り巻く日本の人々にも中国人と直接交流する機会を提供すること、これらにより”人”と”人”の心のつながりをつくり、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる信頼関係を築くことを目的とする。第三期生は計26名を招へい。 |
| 3 | 長期 (第一期生フォローアップ) | 37 | 2007.07.28 ~ 2009.03.31 | 長期招へい事業で招へいした生徒が帰国した後、大学進学などのバックアップを含めたフォローを行う。また、連絡先を常に更新できるよう、つながりを持続する。 |

日中交流センター事業費

2. 催し等事業費 / (1) ネットワーク整備事業 (催し・主催)

将来にわたり日中間のかけ橋となり得る人々のネットワークを構築し、日中交流の基盤強化を図る。

合計額 890,879 円

| | 事業名 | 協力機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|-----------------|-------|-------------------------|--|
| 1 | 高校生招へい事業フォローアップ | 中国教育部 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 2006年の高校生招へい事業開始以来、同事業で招へいした中国青少年との交流を継続し、関係をつなぐ目的で出張訪問及び面談、交流会等を実施する。 |

日中交流センター事業費

2. 催し等事業費 / (2) 交流拠点設置運営事業 (催し・主催)

現代日本の最新情報に接する機会が比較的限られる中国の地方都市において、日本情報を発信し、中国の市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。

合計額 30,147,739 円

| | 都市 | 共催・協力機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|----|-------------|-------------------------|--|
| 1 | 南京 | 金陵図書館 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 共同設置型の「ふれあいの場」を中国江蘇省南京市の金陵図書館内に設置。2008年12月に開館。「ふれあいの場」では、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを定期的に開催。 |
| 2 | 成都 | 広島・四川中日友好会館 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 2007年4月に、中国四川省成都市の広島・四川中日友好会館内に共同設置型の「ふれあいの場」が開館。「ふれあいの場」では、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを定期的に開催。 |
| 3 | 長春 | 長春図書館 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 共同設置型の「ふれあいの場」を中国吉林省長春市の長春図書館内に設置。2008年5月に開館。「ふれあいの場」では、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる他、日中文化交流イベントを定期的に開催。 |

日中交流センター事業費

2. 催し等事業費 / (3) 交流拠点設置運営事業 (催し・助成)

現代日本の最新情報に接する機会が比較的限られる中国の地方都市において、日本情報を発信し、中国の市民、とりわけ青少年層の日本文化や社会に対する関心を喚起する。

合計額 3,451,417 円

| | 都市 | 助成機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|----|--------|-------------------------|---|
| 1 | 延吉 | 延辺大学 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 平成20年度の助成型「ふれあいの場」として、中国吉林省延吉市にある延辺大学を助成。「ふれあいの場」では、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる。 |
| 2 | 南通 | 南通職業大学 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 平成20年度の助成型「ふれあいの場」として、中国江蘇省南通市にある南通職業大学を助成。「ふれあいの場」では、日本の書籍、漫画や雑誌の閲覧、音楽の視聴ができる。 |

日中交流センター事業費

3. 文化資料事業費 / (1) ネットワーク整備事業 (文化資料)

将来にわたり日中間のかけ橋となり得る人々のネットワークを構築し、日中交流の基盤強化を図る。

合計額 27,935,642 円

| | 事業名 | 期間 | 事業内容 |
|---|---------------------------|-------------------------|---|
| 1 | 「心連心日中交流コミュニティ・サイト」 運営 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本と中国の市民間の交流が続くよう、交流事業を通じて生まれた友情の輪をつなぎ、広げていくために、インターネット上で、「心連心コミュニティ・サイト」を運営。このサイトでは、日本、中国に留学した高校生のブログや、多様なコンテンツによる日本文化紹介情報を発信。 |
| 2 | ラジオ番組制作・放送事業 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本の「流行音楽」と「流行情報」を中国語で紹介するラジオ番組を制作し、現代日本文化に関する情報が比較的少ない中国国内地域での放送を行った。平成20年度は、株式会社ナレッジ・アンド・メディアに業務委託を行ない、延べ25カ所の放送局で放送。 |

日本研究・知的交流事業に必要な経費

米州交流事業費

1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究組織強化支援（助成）〔米州〕
- (2) 日本研究機関支援〔米州〕

2. 人物交流事業費

- (1) 小渕フェローシップ（派遣）
- (2) 日本研究フェローシップ（学者・研究者）〔米州〕
- (3) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔米州〕
- (4) 日本研究フェローシップ（短期）〔米州〕
- (5) 知的リーダー交流（派遣）〔米州〕

3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（主催）〔米州〕
- (2) 知的交流会議（助成）〔米州〕

米州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究組織強化支援 (助成) [米州]

国境・学問分野を越えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 1,781,642 円

| | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|-----------|-----|-----------------------------|--|
| 1 | カナダ日本研究学会 | カナダ | 2008. 04. 01 ~ 2009. 03. 31 | 日本研究に関するカナダ唯一の学際的な学会であるカナダ日本研究学会(JSAC)の2008年次総会『日本の最先端：近代日本のイノベーション』を支援。幹事校ウォータールー大学において2008年10月3日より3日間の日程(本会議部分)で開催。カナダ、米国、日本等から75名以上が参加。各地から集まった様々な専門を持つ日本研究者のネットワーキングの機会となった。 |

米州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (2) 日本研究機関支援 [米州]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的且つ中長期的に行い、当該国の日本研究基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 70,359,233 円

| | 機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|--------------------------|--------|-------------------------|--|
| 1 | アメリカ・カナダ大学 連合日本研究センター | 米国・カナダ | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 米国・カナダの加盟大学により組織するコンソーシアム「アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター」が実施する日本専門家の養成を目的とした10カ月間の専門日本語研修事業。基金は同事業の一部（研修奨学金）を支援。平成20年度は参加した55名の大学院生に対し将来の専門活動に資する上級日本語教育研修を実施した。 |
| 2 | 京都アメリカ大学コン ソーシアム | 米国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 全米14の加盟校による京都アメリカ大学コンソーシアムは、「京都上級・古典日本語サマープログラム」と題する、夏期短期集中日本語プログラムとして歴史的文献などの研究を行う学生・研究者を対象とした「古文コース」及び上級レベルの学生ニーズに応える「上級日本語コース」を計画した。初年度となる平成20年度は、準備年度として、宣伝活動、講師・授業内容の決定、宿泊施設の準備、受講者選抜等を実施。30名の定員に対して45名の応募があった。 |
| 3 | ブリティッシュ・コロ ンビア大学 | カナダ | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | ①同大学アジア学科主催により日本文学研究会第17回年次総会をバンクーバーにおいて3日間の日程で実施した。総会は4人のスピーカーによる12パネルと2名のキーノートスピーカーにより構成され、日本やアジアからも参加者を招いた。②同大学日本研究センター主催により、北米西岸6機関による情報交換を目的とするワークショップを実施した。米国からはハワイ大学、UCバークレー、ポートランド、UCLA、ワシントンの各大学の付属日本研究センター（又は日本研究学科）の代表が参加して、日本研究センター運営や日本研究の将来について議論を深めた。 |
| 4 | エル・コレヒオ・デ・ メヒコ | メキシコ | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | ①研究会議助成：「第2回日墨教育改革シンポジウム」と題し、公教育の問題について比較分析を行う日墨二国間学術交流会議をメキシコシティにて2008年9月に開催した（3日間）。佐藤学（東京大学教授）、小国善弘（早大准教授）がゲストスピーカーとして招へいされ、日墨及び北米南米地域より計140名以上の協力者、参加者を得た。②修士課程学生訪日研修：修士学生7名と引率教員1名により、2008年6月14日から7月14日の日程で訪日し、東京、関西等を訪問して研究資料収集等の活動を行った。③日本研究分野の図書資料拡充支援（和書・洋書）を実施し、同大学の基盤整備を行った。 |
| 5 | ハワイ大学マノア校 | 米国 | 2008.06.01 ~ 2009.05.31 | 「米国における沖縄研究」と題し、国際会議、出版、カリキュラム開発、教員研究、図書資料拡充等による3カ年の総合的な沖縄研究プログラムを開始。初年度の平成20年度は、沖縄研究国際シンポジウムを2009年3月に開催し、日米より主要参加者計41名、全体で200名が参加した。また、南米で開催された沖縄日系移民100周年事業に大学関係者が参加（2008年8月-9月）し人的ネットワークを構築した。また、沖縄関連図書資料の拡充を図った。 |

米州交流事業費

| | 機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|---------------------|-----|-------------------------|---|
| 6 | 五大湖周辺私立大学連盟 (GLCA) | 米国 | 2008.07.01 ~ 2009.03.31 | 五大湖周辺12私立大学によるコンソーシアムである五大湖周辺私立大学連盟 (GLCA) は、「米国リベラル・アーツ・カレッジによる現代日本への取り組み」と題し、様々な分野・教科の非日本専門教員に対する日本理解セミナーと訪日プログラムを実施し、各大学内における日本理解と日本関連講座の拡充を目指す3ヵ年事業を実施した。平成20年度は2週間の訪日研修事業を実施。5大学6分野より計9名が参加し、大阪、京都、広島、名古屋、東京を訪問し、テーマに沿った視察や関係者との意見交換を実施し、加盟大学間の人脈形成を図った。 |
| 7 | 北米日本研究資料調整協議会 (NCC) | 米国 | 2008.07.01 ~ 2009.06.30 | 「利用者中心の情報資源共有のための国籍を越えた戦略展開」と題し、北米日本研究資料調整協議会 (NCC) は、日本研究者向けの情報活用支援目的の各種事業を実施した。2008年度においては、「イメージ・ユーズ・プロトコル (画像利用規約)」「国際的な図書館相互貸借フレームワーク」「NCC教員フォーラム」「デジタルリソースワークショップ」等の事業を実施した。 |
| 8 | モンタナ州立大学 | 米国 | 2008.07.01 ~ 2009.06.30 | 同大学における文化人類学助教授ポストの新規創設のための給与支援 (給与・社会保障費の一部) を実施した。担当教員はヤマグチ・トモミであり、平成20年度は「日本の伝統と文化」「日本文化の愛と力のイメージ」など、日本の文化・社会に関連する計7コースを担当し、延べ239名の学生が受講した。 |
| 9 | ミシシッピ大学 | 米国 | 2008.07.01 ~ 2009.06.30 | 同大学における日本史分野の助教授ポストを新規創設するための給与支援 (給与・社会保障費の一部) を実施。担当教員はNoell H. Wilsonであり、平成20年度には、近代日本史など3コースを担当し、延べ52名の学生が受講した。 |
| 10 | フロリダ国際大学 | 米国 | 2008.07.01 ~ 2009.06.30 | 同大学における社会学助教授ポストを新規創設するための給与支援 (給与・社会保障費の一部) を実施した。雇用教員はMatthew Marrであり、平成20年度において担当教員は、「日本の都市化問題」「ジェンダー問題」「高齢化社会の影響」「日本の外国人コミュニティ」など4講座を担当し、延べ61名の学生が受講した。 |
| 11 | イリノイ大学 | 米国 | 2008.08.01 ~ 2009.07.31 | 「中西部日本研究セミナー」と題し、中西部地域の大学に所属する様々な分野の教員を対象とした日本研究セミナーを、域内大学が持ち回りで年5回行う事業。平成20年度は、歴史・文学・宗教・政治などをテーマとしたセミナーを5校において実施し、合計100名以上の参加者を集めた。 |
| 12 | コロラド大学ボルダー校 | 米国 | 2008.08.01 ~ 2009.07.31 | 「日本研究大学院課程及び教員向けアウトリーチ事業の拡充」と題し、江戸文学・言語学・日本専門司書・歴史の教員ポスト新設とともに図書資料拡充を行い、新たに大学院博士課程の認可を目指すための3ヵ年事業を開始。初年度となる平成20年度は、基金の支援により、図書資料拡充、研究会議事業 (宗教、中世文学)、客員招へいによる日本講義、教員向け研修事業等の様々な拡充事業を実施した。 |

米州交流事業費

| | 機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|--|------|-------------------------|--|
| 13 | ケンタッキー大学 | 米国 | 2008.09.01 ~ 2009.06.30 | 「日本研究集中拡充プログラム」と題し、日本語及び視覚芸術の教員2ポスト新設により、全学部及び大学院の横断的な日本関連プログラム拡充をはかり、教員資格取得コース開設を通じて初中等教育への波及効果を目指す3カ年事業を開始。初年度となる平成20年度は次年度からの新規雇用教員の募集を開始し、古典文学の図書資料拡充を実施した。また、日本映画上映事業を行い学内外より400名以上の参加者を得た。 |
| 14 | モントリオール大学 | カナダ | 2008.09.01 ~ 2009.05.31 | 日本研究修士課程設立を目指し、年々増加する日本語学習ニーズに対応するため、担当講師Jacynthe Tremblayの給与・社会保障費の一部を基金が支援し、日本語及び日本文化（歴史、文化、社会、映画、文学）に関する4講座を開講。延べ63名の学生が修了した。 |
| 15 | バージニア大学 | 米国 | 2009.02.01 ~ 2009.06.30 | 「国際的な文脈における日本理解」と題し、歴史、メディア研究、人類学の3分野で教員ポストを拡充し、日本と世界の比較・関係に関する研究を深化させるため、対象分野の図書館資料を充実し、博士課程における研究者の育成と学部教育の充実を図るという3カ年事業を開始。初年度の平成20年度は歴史分野の新規教員の確保と歴史分野の図書資料拡充を実施した。 |
| 16 | メキシコ工科大学 | メキシコ | 2009.02.01 ~ 2009.03.31 | メキシコにおける日本研究の中核的機関として発展が期待されるメキシコ工科大学に対し、日本研究分野の図書資料拡充促進のため経費支援を行い、100点以上の日本研究関連資料（洋書）が拡充され同大学の日本研究基盤の整備に役立てられた。 |
| 17 | グアダハラ大学 太平洋地域研究科 | メキシコ | 2009.02.01 ~ 2009.03.31 | メキシコにおける日本研究の中核的機関として発展が期待されるグアダハラ大学太平洋地域研究科に対し、日本研究分野の図書資料（図書26点、DVD25点）を調達・送付し、同大学の日本研究基盤整備に役立てられた。 |
| 18 | コリマ大学太平洋研究センター | メキシコ | 2009.02.01 ~ 2009.03.31 | メキシコにおける日本研究の中核的機関として発展が期待されるコリマ大学太平洋研究センターに対し、日本研究分野の図書資料（洋書32点）を調達・送付し、同大学の日本研究基盤整備に役立てられた。 |
| 19 | サンパウロ大学哲学・文学・人間科学部附属 日本文化研究所 | ブラジル | 2009.02.01 ~ 2009.03.31 | ブラジルにおける日本研究の中核的機関として重要な、サンパウロ大学哲学文学人間科学部附属日本文化研究所に対する図書拡充支援として図書326点（和書、洋書）を寄贈し、同大学の日本研究分野の基盤整備を図った。 |
| 20 | オレゴン大学 | 米国 | 2009.02.01 ~ 2009.12.31 | オレゴン大学が実施する1カ年の調査及びプログラム開発プロジェクト「オレゴン日本語フラッグシップ事業：K-16日本語イマージョン教育モデルの開発」に対する支援を実施した。同事業は、全米K-12日本語教育イマージョンプログラムと同大学が連携し、連続性のあるK-16日本語教育プログラムとして高度な日本語学習者を対象とする教育プログラムを開発するというものであり、平成20年度はその事前調査とプログラム開発を実施した。 |
| 21 | 日本研究巡回セミナー アルバータ大学 コンコルディア大学 ライオンソン大学 | カナダ | 2009.03.01 ~ 2009.03.08 | 日本国内の研究者Jaqueline Berndt（横浜国立大学教育人間科学部准教授）、森川嘉一郎（明治大学国際日本学部准教授）をカナダに派遣し「アニメと現代日本社会」についてトロント、エドモントン及びモントリオールで講演会及びパネル・ディスカッションを実施。 |

米州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (1) 小渕フェローシップ (派遣)

日米両国政府の合意に基づく「小渕沖縄教育研究プログラム」の一環として、米国の東西センター（ハワイ州）を受入機関として人文・社会科学分野に係る研究活動を行う沖縄県内の研究者等に対しフェローシップを支給する。

合計額 4,834,460 円

| | 氏名 | 現職 | 期間 | 事業内容 |
|---|--------|------------------|-------------------------|---|
| 1 | 宮里 由紀子 | (有) エグゼカティブリンク会長 | 2008.10.01 ~ 2009.03.31 | 「アジア太平洋地域におけるクルーズ客船寄港地としての沖縄の可能性」のテーマによりハワイ州東西センターにおいて研究を実施。 |
| 2 | 赤嶺 守 | 琉球大学法文学部教授 | 2009.03.28 ~ 2009.09.27 | 「琉球大学とハワイ大学との連携による沖縄学研究環境の構築とネットワーク形成」のテーマによりハワイ州東西センターにおいて研究を実施。 |

米州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ (学者・研究者) [米州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 39,345,937 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|----------------------------|---------------------------|---------|------------------|-------------------------|---|
| 1 | SHOJI, Rafael | サンパウロカトリック大学 研究員 | ブラジル | 南山大学 | 2007.05.27 ~ 2008.05.25 | 日系ブラジル人のキリスト教：国際ネットワークと日本における社会的な統合 |
| 2 | PORTILLO RODRIGUEZ, Manuel | モンテレイ工科大学 メキシコシティ校 教授 | メキシコ | 東京大学 | 2007.06.02 ~ 2008.05.27 | 日本の都市開発への市民社会の参加について |
| 3 | LIPPIT, Miya Elise Mizuta | 南カリフォルニア大学 美術史学科 非常勤講師 | 米国 | 東京大学 大学院人文社会系研究科 | 2007.06.08 ~ 2008.06.07 | 影からイルミネーションへ：美術・文学と近代日本の電化 |
| 4 | ABI-SAMARA, Raquel | ブラジル国立科学技術開発評議会 研究者 | ブラジル | 国際日本文化研究センター | 2007.07.02 ~ 2008.06.01 | 都市風景と現代日本詩 |
| 5 | YANG, X. Jie | カルガリー大学 教授 | カナダ | 立教大学文学部 | 2007.08.22 ~ 2008.04.21 | 絵巻音読に関する基礎研究 |
| 6 | HELLYER, Robert Ingels | ウェイクフォレスト大学 助教授 | 米国 | 東京大学史料編纂所 | 2007.08.30 ~ 2008.08.08 | 緑茶：日本の産業化や国際化 |
| 7 | WHITE, Merry Isaacs | ボストン大学 教授 | 米国 | 金沢大学 | 2008.02.15 ~ 2008.06.14 | 社会的空間と変化する都市生活：日本のカフェ社会 |
| 8 | SANTANA, Martin | 経営管理大学院 大学 教授 | ペルー | 早稲田大学 | 2008.03.26 ~ 2009.03.09 | Eガバメントへの道：ペルーにおけるガバナンス及びパブリック・マネジメントの向上 |
| 9 | DVORAK, Gregory Eric | オーストラリア国立大学 アジア太平洋研究科 研究員 | オーストラリア | 東京大学 | 2008.06.01 ~ 2008.09.25 | 南洋ノスタルジア～日本の太平洋における過去の記憶と「環礁」～ |
| 10 | NEGAWA, Sachio | ブラジリア大学 助教授 | ブラジル | 早稲田大学大学院 | 2008.07.13 ~ 2009.02.26 | 日本の教育文化の越境・再創・展開ーブラジルにおける日系教育機関を中心にー |
| 11 | WHITMAN, John Bradford | コーネル大学 教授 | 米国 | 東京大学大学院人文社会系研究科 | 2008.08.16 ~ 2009.07.21 | 平安初期訓点資料の比較研究 |

米州交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|---------------------------------|---------------------|-------|---------|-------------------------|--|
| 12 | HORI, Genichi Victor | マギル大学 准教授 | カナダ | 南山大学 | 2008.08.23 ~ 2008.12.15 | 翡翠：禅における言語・経験そして研究 |
| 13 | ZAMBRANO MEZA, Gregory Simon | ロス・アンデス大学 教授 | ベネズエラ | 東京大学 | 2008.09.06 ~ 2009.09.05 | 「個人という概念の危機－安部公房とガブリエル・ガルシア・マルケスの小説世界」 |
| 14 | TIAMPO, Ming | カールトン大学 准教授 | カナダ | 慶応大学 | 2008.10.01 ~ 2009.09.30 | 具体のカルトグラフィ（活動地図） |
| 15 | KAWANO, Satsuki | グエルフ大学 准教授 | カナダ | 早稲田大学 | 2008.12.28 ~ 2009.04.27 | 現代日本における家族形成過程の社会文化的分析：未就学児のいる両親が第二子を授かろうとする際に利用可能なリソースの認知 |
| 16 | ANDERSON, David | ブリティッシュ・コロンビア大学 准教授 | カナダ | 神戸学院大学 | 2009.01.01 ~ 2009.06.30 | 2005年愛知万博訪問者の記憶：長期間にわたる記憶の心理学的研究 |
| 17 | MURPHY, Joseph A. | フロリダ大学 准教授 | 米国 | 横浜国立大学 | 2009.01.06 ~ 2009.08.13 | 無用/有用-日本近代における「戯れ」と文学 |
| 18 | KATADA, Saori | 南カリフォルニア大学 准教授 | 米国 | 早稲田大学 | 2009.03.20 ~ 2009.07.19 | つぎはぎ地域主義？日本と東アジアの新しい経済関係 |
| 19 | WALTHALL, Anne | カリフォルニア大学アーバイン校 教授 | 米国 | 国際基督教大学 | 2009.03.30 ~ 2009.07.29 | 信仰の実施-平田家の歴史（1800-1945） |
| 20 | SAITO, Satoru | ラトガース大学 助教授 | 米国 | 早稲田大学 | 2009.03.31 ~ 2010.01.06 | 十九世紀末・二十世紀初における日本の連載小説と文学の消費 |

米州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェローシップ (論文執筆) [米州]

人文・社会科学の研究者で博士論文作成のため来日する必要があるものを招へいする。

合計額 74,015,721 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|-----------------------------------|--|--------|-----------|-------------------------|--|
| 1 | KUNIMOTO, Thalia Namiko Athena | カリフォルニア大学 バークレイ校 博士課程 | カナダ | 上智大学 | 2007.06.15 ~ 2008.08.14 | 太陽の肖像：具体派の美術における暴力と国民性 |
| 2 | PITA CESPEDES, Gustavo | エル・コレヒオ・デ・ メヒコ 博士課程 | キューバ | 筑波大学 | 2007.07.28 ~ 2008.09.27 | 明治から昭和にかけての日本社会の発展に武士道精神が与えた影響 |
| 3 | MENDEZ VAZQUEZ, Marcela Ines | エル・コレヒオ・デ・ メヒコ アジア・アフリカ研究センター日本科 博士課程 | アルゼンチン | 慶應義塾大学 | 2007.08.04 ~ 2008.09.01 | 多様性の調整—現代日本におけるラテンアメリカの日系人および政治的想像体 |
| 4 | PALMER, Jesse D. | カリフォルニア大学 アーバイン校 博士課程 | 米国 | 東京大学史料編纂所 | 2007.08.30 ~ 2008.08.29 | 円仁：日本の学問僧と平安時代に於ける唐文化 |
| 5 | HOFER, Franz D. | コーネル大学 博士課程 | カナダ | 名古屋大学学院 | 2007.09.04 ~ 2008.11.03 | 歴史の事実を作る：戦後日本とドイツのトラウマ的な過去のビジュアル表現 |
| 6 | WALLEY, Akiko | ハーバード大学 博士課程 | 米国 | 東京大学史料編纂所 | 2007.09.11 ~ 2008.08.28 | 法隆寺西院伽藍再考—伽藍配置及び堂内総力の意義について |
| 7 | NANTAIS, Simon Michel | ビクトリア大学 博士課程 | カナダ | 立命館大学 | 2007.09.28 ~ 2008.08.31 | 米軍占領下の在日韓国人 |
| 8 | YOSHITAKE, Mika Monique | カリフォルニア大学ロサンゼルス校 博士課程 | 米国 | 多摩美術大学 | 2007.12.02 ~ 2008.07.01 | 太陽へのレクイエム：戦後日本における「もの派」「美共闘」の活動 (1968-1974) |
| 9 | O' DAY, Robin | ブリティッシュ・コロンビア大学 博士課程 | カナダ | 上智大学 | 2007.12.31 ~ 2009.02.28 | 日本再構築：若年層における雇用率の低下と社会運動の出現 |
| 10 | BLACK, Matthew Douglas | コロンビア大学 博士課程 | 米国 | 一橋大学 | 2008.03.16 ~ 2009.03.14 | 解明の9か条：日本の社会運動 |
| 11 | TONGU, Erica Ayaco Sacata | サンパウロ州 教育監理官 | ブラジル | 上智大学 | 2008.05.17 ~ 2009.05.14 | 学校組織における民族性・国民性：日本におけるブラジル人学校とブラジルにおける日本人学校の比較研究 |

米州交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|----------------------------------|--|------|---------------|-------------------------|---|
| 12 | COOPER III, Tim Ervin | カリフォルニア大学 バークレー校 博士課程 | 米国 | 東京大学資料編 纂所 | 2008.06.24 ~ 2008.12.28 | ” The Making of a Shogun” の博士論研究 |
| 13 | JACOBSON, Justin Price | ミネソタ大学 博士課程 | 米国 | 東京大学 | 2008.07.07 ~ 2009.07.06 | 日本の公共交通志向型都市開発：形式化されたマーケットと他の土地活用方法 |
| 14 | TURINO RAMOS Liset | エル・コレヒオ・デ・メ ヒコ アジア・アフリ カ研究科 博士課程 | メキシコ | 立命館大学 | 2008.07.16 ~ 2009.09.15 | 狂言と笑いの世界：16世紀日本の滑稽の研究 |
| 15 | KAFFEN, Philip James | ニューヨーク大学 博 士課程 | 米国 | 立教大学 | 2008.08.18 ~ 2009.08.10 | 終末論的なイメージの時代における暴力の働き：文化政治と現代日本の映画 |
| 16 | KAMEI-DYCHE, Andrew Terence | 南カリフォルニア大学 博士課程 | 米国 | 埼玉大学 | 2008.08.24 ~ 2009.08.23 | 近代日本思想文化の形成における岩波書店の 役割：1913-1965 |
| 17 | LINDSAY, Ethan Claude | プリンストン大学 博 士課程 | 米国 | 関西大学 国際 部 | 2008.09.01 ~ 2009.05.31 | 平安末期と鎌倉時代における高野山 |
| 18 | EASON, Paul Vincent | プリンストン大学 博 士課程 | 米国 | 九州大学 | 2008.09.04 ~ 2009.09.03 | 福岡の創造と製造：二十世紀日本の地方と発 展 |
| 19 | FLEMING, William David | ハーバード大学 博士 課程 | 米国 | 大阪商業大学 | 2008.09.10 ~ 2009.08.24 | 近代初頭日本における平賀源内（1728- 1780）、森島忠料（1754-1810）及び戯作と 蘭学の交差 |
| 20 | BRONSON, Adam Paul | コロンビア大学 博士 課程 | 米国 | 東京大学大学院 | 2008.09.14 ~ 2009.09.13 | 民主主義・科学・日常性：思想の科学研究会 と戦後日本、1946-1996 |
| 21 | DOWDLE, Brian C | ミシガン大学 博士課 程 | 米国 | 日本大学 | 2008.09.18 ~ 2009.09.17 | 歴史再認識：明治日本における時代小説と歴 史認識 |
| 22 | SHOCKEY, Nathan Powell | コロンビア大学 博士 課程 | 米国 | 早稲田大学 | 2008.10.01 ~ 2009.09.30 | 1920-1950年の日本における読む技術と文学 上の暴力 |
| 23 | KHARIN, Ilya Nikolayevich | プリンストン大学 博 士課程 | 米国 | 大阪大学 | 2008.10.02 ~ 2009.09.30 | 日本正教会の発生 |
| 24 | KELLEY, Erin Eileen | ペンシルバニア州立大 学 博士課程 | 米国 | 学習院大学 | 2008.10.07 ~ 2009.04.06 | 近代との葛藤：雑誌「白樺」と日本の前衛芸 術 |
| 25 | GLADE, Jonathan | シカゴ大学 博士課程 | 米国 | 東京大学 | 2008.10.16 ~ 2009.10.15 | 文学の戦場—社会統制と戦う日本語文学 1937-1953 |
| 26 | NETTLETON, Taro Edward Fergus | ロチェスター大学 博 士課程 | 米国 | 多摩美術大学 | 2008.10.31 ~ 2009.10.30 | 書を捨てよ、町へでよう：1960年代日本の 前衛芸術における主体性と空間の関係性につ いて |

米州交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|------------------------|-------------------|-----|-------|-------------------------|---|
| 27 | BUSHNELL, Cade Conlan | ハワイ大学 博士課程 | 米国 | 筑波大学 | 2008.11.05 ~ 2009.11.04 | 「日本人」としてのアイデンティ構築：超級日本語非母語話者における相互作用の会話分析 |
| 28 | LAW, Ricky Wai-Kei | ノースカロライナ州立大学 博士課程 | 米国 | 東京大学 | 2009.01.10 ~ 2010.01.09 | 両大戦の間の日独関係 |
| 29 | GEDACHT, Anne Gibling | ウィスコンシン大学 博士課程 | 米国 | 早稲田大学 | 2009.01.17 ~ 2010.01.15 | 東北移民の社会ネットワーク |
| 30 | LAZOPOULOS, George | カリフォルニア大学 博士課程 | 米国 | 上智大学 | 2009.03.24 ~ 2010.03.23 | 第二の維新：昭和の進歩的なナショナリズム |
| 31 | YOKOTA, Ryan Masaaki | シカゴ大学 博士課程 | 米国 | 早稲田大学 | 2009.03.25 ~ 2010.03.24 | 沖縄のナショナリズム：独立と自治、ディアスポラと先住民主義 |
| 32 | STARLING, Jessica Dawn | バージニア大学 博士課程 | 米国 | 大谷大学 | 2009.03.29 ~ 2010.01.15 | 寺の女性：現代日本仏教における伝統と変容 |
| 33 | LANDIS, Andrea Kay | ミシガン大学 博士課程 | 米国 | 日本大学 | 2009.03.30 ~ 2010.03.29 | 19世紀終わりから20世紀初頭にかけての東京の書籍市場地図 |

2. 人物交流事業費 / (4) 日本研究フェローシップ（短期） [米州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 11,087,277 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|---|----------------------------------|-------------------|------|-------|-------------------------|--------------------------|
| 1 | JESSAMYN, Abel | ボーリンググリーン州立大学 准教授 | 米国 | | 2008.05.23 ~ 2008.07.21 | 平和の国際主義-バンドン会議と東京オリンピック |
| 2 | ZIMMERMAN, Eve Kathleen | ウェルズリー大学 准教授 | 米国 | | 2008.05.26 ~ 2008.07.19 | 現代女性文学における少女のイメージ：ウチとソト |
| 3 | MENDOZA MARTINEZ, Emma | コリマ大学 教授 | メキシコ | 宇都宮大学 | 2008.06.21 ~ 2008.08.14 | 日本における政治参加の代替的形態 |
| 4 | EVERETT, Yayoi Uno | エモリー大学 准教授 | 米国 | | 2008.07.30 ~ 2008.08.19 | 戦後前衛芸術音楽及び映画 |
| 5 | ALEXANDER, Jeffrey William Scott | ウィスコンシン大学 准教授 | カナダ | | 2008.07.02 ~ 2008.07.31 | ビール醸造の成功：戦後復興と日本ビール会社の成長 |

米州交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|----------------------|------------------------------|-----|------|-------------------------|--|
| 6 | PHILIPS, Quitman E. | ウィスコンシン大学 教授 | 米国 | | 2008.08.15 ~ 2008.10.13 | 酒呑童子と十六世紀から十七世紀までの日本の妖怪についての解釈 |
| 7 | KRAUSS, Ellis S. | カリフォルニア大学サン ディエゴ校 教授 | 米国 | | 2008.09.28 ~ 2008.11.01 | 総理－日本の総理大臣の役割 |
| 8 | KIM, Marie Seong-Hak | セントクラウド州立大 学 教授 | 米国 | | 2008.12.06 ~ 2009.02.02 | 二つの民法典編纂：明治日本と韓国での梅謙次郎の法制度改革 |
| 9 | ONO, tsuyoshi | アルバータ大学東アジア 学科 准教授 | カナダ | | 2008.12.10 ~ 2009.01.17 | 池間プロジェクト：音声・映像による文法と談話の記録 |
| 10 | TOKU, Masami | カリフォルニア州立大 学チーコ校 助教授 | 米国 | | 2008.12.27 ~ 2009.01.27 | 日本ポップカルチャーパワー：近代若者社会におけるヴィジュアルリテラシーへの影響と貢献 |
| 11 | TAKEDA, Kayoko | モントレイ国際大学 翻訳通訳大学院 助教 授 | 米国 | | 2009.01.05 ~ 2009.01.25 | 東京裁判における通訳 |
| 12 | LEE, Sonya Sum-yin | 南カリフォルニア大学 教授 | 米国 | | 2009.01.24 ~ 2009.02.23 | 生き残る涅槃：中国芸術における仏陀の死と変容 |
| 13 | MORIMOTO, Risa | エッジウッドピック チャズ 監督 | 米国 | | 2009.03.29 ~ 2009.04.27 | イサム・ノグチ |

米州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (5) 知的リーダー交流（派遣） [米州]

日本と諸外国の知的対話の推進と、知的リーダー間のネットワーク構築・強化を推進するため、日本から知的リーダーを海外に派遣し、関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 813,627 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 対象機関 | 時期 | 事業内容 |
|---|-------|--------------------------|-----|---|-------------------------|---|
| 1 | 大原 盛樹 | 日本貿易振興機構アジア経済研究所副主任調査研究員 | カナダ | センター・フォー・インターナショナル・ガバナンス・イノベーション (CIGI) | 2008.10.23 ~ 2008.10.28 | カナダ・ウォータールー市で開催される国際会議「変化する世界秩序における中国」に大原盛樹（アジア経済研究所副主任研究員）をディスカッサントとして派遣 |

米州交流事業費

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議 (主催) [米州]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした国際的な知的共同事業 (国際会議、セミナー、ワークショップ等) を開催する。

合計額 3,560,006 円

| | 事業名 | 対象国 | 会場 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------------|-----|-------------------|------------|---|
| 1 | 米国における日本美術シンポジウム | 米国 | ニューヨーク・ジャパン・ソサエティ | 2009.03.16 | ジャパン・ソサエティとの共催により「米国における日本美術；新しい時代のために」と題するシンポジウムを開催。計110名が参加。日本側からは国立新美術館館長、文化庁専門官等が参加。米国からはニューヨーク近代美術館主任キュレーター、フィラデルフィア美術館、ボストン美術館、スミソニアン内フリーア・ギャラリー、サンフランシスコ美術館、ポートランド美術館、ピーボディ美術館、イサム・ノグチ美術館等全米有数の美術館の専門家が出席。 |

米州交流事業費

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議 (助成) [米州]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした国際的な知的共同事業（国際会議、セミナー、ワークショップ等）を開催する。

合計額 18,323,376 円

| | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------------------|---------|-------------------------|--|
| 1 | サンパウロ・カトリック大学 | ブラジル | 2008.08.24 ~ 2008.08.27 | 日本移民百周年を記念するプログラム。日本、メキシコ、米国及び欧州から学者を招へいし、アカデミックなレベルでブラジルにおける日本の宗教の100年史とその過去、現在、未来を分科会方式で検証。 |
| 2 | リオデジャネイロ連邦大学文学部 | ブラジル | 2008.08.28 ~ 2008.08.29 | 日本語・日本文学・日本文化の研究に携わる教師、研究者、学生を対象に実施。最新の知識を得、日本語教授法・日本語学習・日本文学や日本文化についての批判的な分析に関わる最新の概念や潮流についての知識の交換し、斬新な考察や、より専門的な知見を深めるために討論。 |
| 3 | サンパウロ州立カンピーナス大学倫理学センター | ブラジル | 2008.09.05 ~ 2008.09.06 | 科学は人類に多くの利点をもたらしたが、同時に多くの問題も発生させた。この点に関し、ブラジル、日本、ドイツから学者を招へいし、日本と他国の哲学思想を比較研究。日・ブラジル交流100周年を記念して実施。 |
| 4 | 日伯文化協会 | ブラジル | 2008.09.24 ~ 2008.09.26 | 自然環境の価値について、日本、ブラジルを中心に、社会学、経営学、倫理学といった多様な側面において研究者が研究報告を行うことによって、地球規模の環境問題を解決する上で必要な価値観を共有。 |
| 5 | ブラジリア大学 | ブラジル | 2008.09.24 ~ 2008.09.26 | 日本・ブラジル関係をマルチディシプリンの視点から検証する。日本・ブラジル両国間の相互理解とより緊密な関係を促進。 |
| 6 | 源氏物語千年紀委員会 | 全世界区分困難 | 2008.11.02 ~ 2008.11.04 | 源氏物語が宿す日本文化の美と思想を改めて広く分かち合い後世に伝えるために、海外から研究者を招へいして会議を開催。 |
| 7 | コリマ大学政治社会学部 | メキシコ | 2008.11.09 ~ 2008.11.13 | メキシコ現代社会の中でも重要性を増してきた政策決定プロセスへの市民（主にNGO）参加に関する研究。日本、米国、メキシコの大学が参加。研究者同士が情報交換のために相互利用するwebサイトを構築。 |

日本研究・知的交流事業に必要な経費

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究調査〔アジア・大洋州〕
- (2) 東南アジア元日本留生活動支援
- (3) 北京日本学研究センター派遣（北京外国語大学）
- (4) 北京日本学研究センター派遣（北京大学）
- (5) 北京日本学研究センター招へい（北京外国語大学）
- (6) 北京日本学研究センター招へい（北京大学）
- (7) 北京日本学研究センター研究支援（北京外国語大学）
- (8) 北京日本学研究センター研究支援（北京大学）
- (9) 日本研究機関支援〔アジア・大洋州〕
- (10) 日本研究組織強化支援（助成）〔アジア・大洋州〕

2. 人物交流事業費

- (1) 受託事業（アセアン）
- (2) 日本研究フェローシップ（学者・研究者）〔アジア・大洋州〕
- (3) 日本研究フェローシップ（論文執筆者）〔アジア・大洋州〕
- (4) 日本研究フェローシップ（社会科学院研究生院）
- (5) 日本研究フェローシップ（短期）〔アジア・大洋州〕
- (6) 日本研究フェローシップ（高砂熱学工業）
- (7) 知的リーダー交流（招へい）〔アジア・大洋州〕
- (8) 知的リーダー交流（派遣）〔アジア・大洋州〕
- (9) 知的交流フェローシップ（招へい）〔アジア・大洋州〕

3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（助成）〔アジア・大洋州〕
- (2) 知的交流会議（企画参画助成）〔アジア・大洋州〕
- (3) 知的交流会議（主催）〔アジア・大洋州〕
- (4) アジア地域研究センター支援（催し等）

4. 文化資料事業費

- (1) 図書寄贈〔アジア・大洋州〕

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究調査 [アジア・大洋州]

世界の主要な地域の日本研究機関調査を実施し、日本研究機関と研究者のディレクトリーを作成する。

合計額 8,743,805 円

| | 事業名 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|----------|-----|-------------------------|---|
| 1 | 中国日本研究調査 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 中国における日本研究機関・日本研究者の現状を把握するため、アンケート調査を行い、分析を行うとともに、データベースを作成 |
| 2 | 韓国日本研究調査 | 韓国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 韓国における日本研究機関・日本研究者の現状について調査を行い、出版物として刊行 |

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (2) 東南アジア元日本留生活動支援

元日本留学生の対日理解促進を目的として、ASEAN諸国の元日本留学生協会9団体に対し、集会施設借料等を助成する。

合計額 15,509,894 円

| | 事業名 | 対象国 | 期間 |
|---|--------------------------|--------|-------------------------|
| 1 | 元日本留学生フィリピン連盟 (PHILFEJA) | フィリピン | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 |
| 2 | シンガポール元日本大学卒業生協会 (JUGAS) | シンガポール | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 |
| 3 | インドネシア元日本留学生協会 (PERSADA) | インドネシア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 |
| 4 | マレーシア元留日学生協会 (JAGAM) | マレーシア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 |
| 5 | 東方政策留学生同窓会 (ALEPS) | マレーシア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 |
| 6 | タイ国元日本留学生協会 (OJSAT) | タイ | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 |
| 7 | ミャンマー日本留学者協会 (MAJA) | ミャンマー | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 |
| 8 | カンボジア元日本留学生同窓会 (JAC) | カンボジア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 |
| 9 | ベトナム元日本留学生会 (JAV) | ベトナム | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 |

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (3) 北京日本学研究センター派遣 (北京外国語大学)

北京外国語大学で実施される現代日本研究講座に対し、専門家、行政官等有識者を派遣する。

合計額 33,398,882 円

| | 氏名 | 現職 | 期間 | 事業内容 |
|----|--------|----------------------------|-------------------------|---|
| 1 | 小幡 敏行 | 横浜市立大学国際総合科学部 准教授 | 2008/04/01 ~ 2009/03/31 | 日本側主任教授として北京日本学研究センター運営を行うと共に、「日中文化比較」の講義を担当。 |
| 2 | 畔上 和子 | 北京日本学研究センター 日本側事務主任 | 2008/04/01 ~ 2009/03/31 | 日本側主任教授を補佐し、北京日本学研究センター内日本側事務局の運営業務に従事。 |
| 3 | 安藤 宏 | 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 | 2008/06/01 ~ 2008/06/14 | 北京日本学研究センターにおいて、日本文学の集中講義を担当。 |
| 4 | 池田 玲子 | 東京海洋大学海洋科学部海洋政策 文化学科 教授 | 2008/09/05 ~ 2008/10/02 | 北京日本学研究センターにおいて、言語コースの講義・学生指導を担当。 |
| 5 | 篠崎 美生子 | 恵泉女学園大学人文学部 准教授 | 2008/09/07 ~ 2008/10/01 | 北京日本学研究センターにおいて、文学コースの講義・学生指導を担当。 |
| 6 | 馬場 芳 | 鳥取大学地域学部 講師 | 2008/10/05 ~ 2008/11/23 | 北京日本学研究センターにおいて、社会コースの講義・学生指導を担当。 |
| 7 | 小峯 和明 | 立教大学文学部 教授 | 2008/10/06 ~ 2008/11/05 | 北京日本学研究センターにおいて、文学コースの講義・学生指導を担当。 |
| 8 | 青木 直子 | 大阪大学大学院文学研究科 教授 | 2008/12/08 ~ 2008/12/31 | 北京日本学研究センターにおいて、言語コースの講義・学生指導を担当。 |
| 9 | 細川 英雄 | 早稲田大学大学院日本語教育研究 科 教授 | 2009/02/28 ~ 2009/03/20 | 北京日本学研究センターにおいて、言語教育学コースの講義・学生指導を担当。 |
| 10 | 佐藤 道生 | 慶應義塾大学文学部 教授 | 2009/03/11 ~ 2009/04/09 | 北京日本学研究センターにおいて、文学コースの講義・学生指導を担当。 |
| 11 | 田野村 忠温 | 大阪大学大学院文学研究科 教授 | 2009/03/23 ~ 2009/04/21 | 北京日本学研究センターにおいて、言語コースの講義・学生指導を担当。 |

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (4) 北京日本学研究中心派遣 (北京大学)

北京大学で実施される現代日本研究講座に対し、専門家、行政官等有識者を派遣する。

合計額 4,063,599 円

| | 氏名 | 現職 | 期間 | 事業内容 |
|----|-------|-----------------|-------------------------|---------------------------------|
| 1 | 樋原 伸彦 | 立命館大学経営学部 准教授 | 2008.04.06 ~ 2008.04.09 | 「金融制度」の講義 |
| 2 | 中谷 吉彦 | 立命館大学COE推進機構 教授 | 2008.04.13 ~ 2008.04.16 | 「松下の技術戦略」の講義 |
| 3 | 角南 篤 | 政策研究大学院大学 准教授 | 2008.04.20 ~ 2008.04.23 | 「環境と科学技術」の講義 |
| 4 | 角南 篤 | 政策研究大学院大学 准教授 | 2008.09.01 ~ 2009.08.31 | 日本側主任教授として現代日本研究センター運営等を行う。 |
| 5 | 添谷 芳秀 | 慶應義塾大学法学部 教授 | 2008.11.09 ~ 2009.11.11 | 日本のアジア外交と安全保障 (博士第4期) の講義 |
| 6 | 石 弘之 | 東京農業大学生物産業学部 教授 | 2008.11.12 ~ 2009.11.15 | 日本における環境問題の経験 (博士第4期) の講義 |
| 7 | 原 洋之介 | 政策研究大学院大学 教授 | 2008.11.24 ~ 2009.11.27 | 日本における農業発展と農業経済学の歩み (博士第4期) の講義 |
| 8 | 吉野 直行 | 慶應義塾大学経済学部 教授 | 2008.12.09 ~ 2008.12.12 | 金融論 (博士第4期) の講義 |
| 9 | 堀江 正弘 | 政策研究大学院大学 教授 | 2009.03.16 ~ 2009.03.19 | 「国・地方関係と地方自治」 (博士第4期) の講義 |
| 10 | 永野 博 | 政策研究大学院大学 教授 | 2009.03.22 ~ 2009.03.25 | 科学技術政策 (博士第4期) の講義 |

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (5) 北京日本学研究中心招へい (北京外国語大学)

北京外国語大学で実施される北京日本学研究中心事業に関し、日本研究者の招へいを行う。

合計額 38,520,630 円

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 参加人数 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|----------------|--------|---------------------|------|-----------------------------|-------------------------|---|
| 1 | 07年度現地博士フェロー | 白 暁光 | 北京日本学研究中心 博士課程 | 1 | 独立行政法人国立国語研究所 日本語教育基盤情報センター | 2007.04.08 ~ 2008.04.07 | 北京日本学研究中心博士課程の学生に対して、博士論文執筆のための訪日研究フェローシップを供与。 |
| 2 | 07年度選任スタッフフェロー | 施 建軍 | 北京日本学研究中心 教授 | 1 | | 2008.02.12 ~ 2008.06.11 | 北京日本学研究中心専任スタッフに対し、研究能力向上のため日本での研修を行う。 |
| 3 | 修士第22期生訪日研究 | 修士課程学生 | 北京日本学研究中心 修士課程第22期生 | 23 | | 2008.03.27 ~ 2008.07.31 | 北京日本学研究中心修士課程の学生に対し、論文草稿作成・資料収集のための訪日研究を実施。23名が個別に日本の大学・研究機関等に在籍。 |
| 4 | 08年度現地博士フェロー | 李 珍 | 北京日本学研究中心 博士課程 | 1 | 大阪大学大学院 文学研究科 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 北京日本学研究中心博士課程の学生に対して、博士論文執筆のための訪日研究フェローシップを供与。 |
| 5 | 08年度現地博士フェロー | 梁 爽 | 北京日本学研究中心 博士課程 | 1 | 創価大学 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 北京日本学研究中心博士課程の学生に対して、博士論文執筆のための訪日研究フェローシップを供与。 |
| 6 | 修士第23期生訪日研究 | 修士課程学生 | 北京日本学研究中心 修士課程第23期生 | 20 | | 2009.03.30 ~ 2009.08.04 | 北京日本学研究中心修士課程の学生に対し、論文草稿作成・資料収集のための訪日研究を実施。20名が個別に日本の大学・研究機関等に在籍。 |

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (6) 北京日本学研究中心招へい (北京大学)

北京大学で実施される北京日本学研究中心事業に関し、日本研究者の招へいを行う。

合計額 11,107,293 円

| | 事業名 | 参加人数 | 期間 | 事業内容 |
|---|-------------------|------|-------------------------|--|
| 1 | 博士第3期生訪日研修 | 24 | 2008.05.14 ~ 2009.05.28 | 北京大学現代日本研究センターの講座受講生（第3期博士課程20名、その他随行4名）に対して、北京で受けた講義の定着を目的に訪日研修を実施。 |
| 2 | 博士第4期生訪日研修（招へい準備） | 24 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 北京大学現代日本研究センターの講座受講生（第4期博士課程20名、その他随行4名）に対して、北京で受けた講義の定着を目的に実施する訪日研修の準備。 |

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (7) 北京日本学研究中心研究支援 (北京外国語大学)

北京外国語大学北京日本学研究中心の日本研究者育成を支援する。

合計額 18,140,066 円

| | 事業名 | 期間 | 事業内容 |
|---|--------------|-------------------------|---|
| 1 | 現地経費 (教育・研究) | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 北京日本学研究中心が発行する紀要「日本学研究」ほか日本研究図書出版、研究プロジェクト及び同センター教授による地方講演にかかる経費等の支援。 |
| 2 | 教材等購送 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 北京日本学研究中心に対し講義用教材、図書館資料を購送。 |
| 3 | 文献複写 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 北京日本学研究中心図書資料館が日本国内の図書館に対して文献複写依頼を行う経費を支援。 |
| 4 | 図書館システム | 2008.11.26 ~ 2009.03.31 | 北京日本学研究中心図書資料館で使用中の図書館情報システム・ソフトウェアの移設および保守管理に係る経費の支援。 |

1. 日本研究事業費 / (8) 北京日本学研究中心研究支援 (北京大学)

北京大学北京日本学研究中心の日本研究者育成を支援する。

合計額 352,420 円

| | 事業名 | 期間 | 事業内容 |
|---|-------|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 教材等購送 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 北京大学現代日本研究センターに対して講義用教材、図書館資料を購送。 |

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (9) 日本研究機関支援 [アジア・大洋州]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的且つ中長期的に行い、当該国の日本研究基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 73,784,450 円

| | 機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|----------|-----|-------------------------|---|
| 1 | ソウル大学校 | 韓国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | ソウル大学校日本研究所が実施する日本専門家によるセミナー開催、訪日研修(学部生)、訪日資料調査(大学院生)、図書拡充の4事業に対して支援 |
| 2 | 高麗大学校 | 韓国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 高麗大学校日本研究センターに対し、人文科学系の図書を寄贈 |
| 3 | 全南大学校 | 韓国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 全南大学校日本文化研究センターが実施する国際学術シンポジウム「韓国人は日本をどうみてきたか」の開催経費支援と、研究図書の寄贈 |
| 4 | 東北師範大学 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 東北師範大学日本研究所が実施する客員教員(日本及び中国)による集中講義、学術書出版、定期学術誌「日本学論壇」の刊行、大学院生訪日調査などを支援 |
| 5 | 南開大学 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 南開大学日本研究院が実施する客員教員による集中講義、大学院生訪日調査などを支援 |
| 6 | 浙江工商大学 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 浙江工商大学日本文化研究所が実施する国際会議「東アジア文化交流—人物往来の研究」、調査事業「四庫全書(集部)における日本史料」の収集と整理、大学教員研修、学術書出版を支援するとともに、研究図書を寄贈 |
| 7 | 遼寧大学 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 遼寧大学日本研究所に対し研究図書を寄贈。また同研究所が所蔵する日本研究関係資料(古文書)の修復経費を支援 |
| 8 | 復旦大学 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 復旦大学日本研究センターが実施する国際会議「直接投資・技術移転と地域協力」、学術書出版などを支援するとともに、研究図書を寄贈 |
| 9 | 四川外語学院 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 四川外語学院が実施する国際会議「詩人黄瀛と多文化間アイデンティティ」の開催を支援するとともに、研究図書を寄贈 |
| 10 | 南開大学(評価) | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 2005(平成17)年度~2007(平成19)年度の3カ年の国際交流基金支援事業について、外部の専門家を派遣し評価を実施 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|----------------------|--------|-------------------------|--|
| 11 | 社会科学院研究生院 | 中国 | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | 社会科学院研究生院の日本研究関連博士論文集「日本問題研究博士論叢」の出版助成。 |
| 12 | モンゴル国立大学 | モンゴル | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | モンゴル国立大学が日本の研究者と共同実施する「日本語言語及び歴史・文化・経済・政治リンクの総合研究」を支援するとともに研究図書を寄贈 |
| 13 | インドネシア大学（大学院日本地域研究科） | インドネシア | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | インドネシア大学大学院日本地域研究科の修士・博士課程運営経費の支援と、客員教授2名の派遣を実施 |
| 14 | インドネシア大学（日本研究センター） | インドネシア | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | インドネシア大学日本研究センターが実施する国際シンポジウム「日本に学ぶ：インドネシアの都市交通の新しい可能性を求めて」の開催支援 |
| 15 | タマサート大学（大学院日本研究科） | タイ | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | タマサート大学大学院日本研究科に対し、客員教員の謝金助成、大学院生訪日研修への支援、研究図書の寄贈を実施 |
| 16 | タマサート大学（東アジア研究所） | タイ | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | タマサート大学東アジア研究所による日本研究ジャーナル（紀要）の発行支援 |
| 17 | チュラロンコン大学 | タイ | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | チュラロンコン大学文学部東洋言語学科（日本語学・日本文学専攻修士課程）に対し、大学院生訪日研修実施を支援するとともに、客員教授を派遣 |
| 18 | アテネオ・デ・マニラ大学 | フィリピン | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | アテネオ・デ・マニラ大学（社会科学部日本研究プログラム）が実施する国際会議「アジアにおける紛争の表象と歴史の創造」の開催支援及び研究図書の寄贈 |
| 19 | フィリピン大学アジアセンター | フィリピン | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | フィリピン大学アジアセンターが実施する国際会議「世界と東アジアにおける日比外交」への開催支援と研究図書の寄贈 |
| 20 | ハノイ国家大学人文社会科学大学 | ベトナム | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | ハノイ国家大学人文社会科学大学（東洋学部日本学科）が実施する日本学集中講座の実施支援 |
| 21 | 貿易大学 | ベトナム | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | 貿易大学（ハノイ校）に対し客員教授を派遣 |
| 22 | マラヤ大学 | マレーシア | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | マラヤ大学（人文社会科学部東アジア研究学科）が実施する調査研究事業2件を支援 |
| 23 | ジャワハルラル・ネルー大学 | インド | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | ジャワハルラル・ネルー大学（日本・韓国・東アジア研究科）が実施する教員セミナー「インドの日本語教育における文字テキストの役割」開催支援、客員教授の派遣、研究図書の寄贈を実施 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|-------------|---------|-------------------------|-------------------------------------|
| 24 | デリー大学 | インド | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | デリー大学（東アジア研究科）に対し客員教授の派遣、研究図書の寄贈を実施 |
| 25 | オーストラリア国立大学 | オーストラリア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 博士課程学生及び若手研究者向けの集中研修事業への支援 |

アジア・大洋州交流事業費

1. 日本研究事業費 / (10) 日本研究組織強化支援 (助成) [アジア・大洋州]

国境・学問分野を越えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 10,595,660 円

| | 機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|-----------------|--------|-------------------------|--|
| 1 | 大韓日語日文学会 | 韓国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 韓国の5つの日本研究関連学会の上部組織である韓国日本学連合会の定期学会。2008年7月10～12日に、釜山外国語大学において「日本学における日本語教育学の位置」というテーマで実施 |
| 2 | インドネシア日本研究学会 | インドネシア | 2008.11.01 ~ 2008.11.02 | インドネシアと日本の学術協力、日本と世界等4つのテーマで実施した日本研究国際シンポジウム。 日・インドネシア国交樹立50周年記念行事実行委員会が主催した合同学術シンポジウムのうち「人文社会・政治学における日本研究」のセッションという位置づけで実施 |
| 3 | タイ日本研究ネットワーク | タイ | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | タイ全土から選抜された日本研究者による研究発表会、翌年度年次学会の準備、WEBサイト・ディレクトリーの更新を実施 |
| 4 | ハノイ国家大学人文社会科学大学 | ベトナム | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | ベトナム国内の日本研究者が一堂に会し、ベトナムにおけるこれまでの日本研究の成果と課題について共有・討議し、今後の日本研究の発展のための方向性や取り組みを展望する会議を実施 |
| 5 | 香港大学日本研究科 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本語教育及び日本研究関連のコースが開講されている香港の大学関係者のネットワークである香港日本語教育研究会の研究大会を実施 |

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (1) 受託事業 (アセアン)

国際交流基金の業務趣旨に合致する日本研究・知的交流分野の事業を外部から受託し実施する。

合計額 83,190,566 円

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|-----------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|---------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--|
| 1 | JENESYS 東アジア大学院生日本研究特別招へいプログラム | YUEN, Shu Min | シンガポール国立大学日本研究学科 助手 | シンガポール | 東京大学大学院総合文化研究科 | 2008.05.02 ~ 2008.08.08 | 「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として実施。アジア・大洋州地域で日本研究 (東アジア研究を含む) を専攻中の、今後の活躍が期待される大学院生に対し、1~3カ月間にわたり日本の大学院・研究機関等で研究・調査活動を行う機会を提供。 |
| PURNOMO, Rowsalind | | シンガポール国立大学日本研究学科 修士課程 | シンガポール | 日本女子大学 | 2008.05.11 ~ 2008.08.08 | | |
| BENNETT, Alexander Campbell | | カンタベリー大学現代言語学部 博士課程 | ニュージーランド | 国士舘大学 | 2008.05.28 ~ 2008.08.27 | | |
| NEW NI AYE | | ヤンゴン大学 歴史学部 講師 | ミャンマー | 岡山大学アジア歴史学部 | 2008.06.09 ~ 2009.09.09 | | |
| PHAM, Hoang Hung | | ハノイ国家社会科学・人文科学大学東洋学部日本研究学科 教員 | ベトナム | 早稲田大学文学芸術院 | 2008.06.15 ~ 2008.09.11 | | |
| POBSAMAI, Natthapong | | チュラロンコン大学経済学部 大学院生 | タイ | 大阪大学経済学研究科 | 2008.06.15 ~ 2008.09.14 | | |
| HJ. SAIM, Salwah | | シティーバンク銀行国際金融部門マネージャー | ブルネイ | | 2008.06.17 ~ 2008.07.20 | | |
| WHITNEY, Justin Robert | | オーストラリア国立大学アジア太平洋研究学部 日本センター 博士課程 | オーストラリア | 早稲田大学 国際教養学部 | 2008.07.01 ~ 2008.08.29 | | |
| SANI, Audriane Ferdiani | | インドネシア大学大学院社会学専攻 大学院生 | インドネシア | 早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 | 2008.07.05 ~ 2008.09.05 | | |
| MAHER, Sasha | | オークランド大学経営・国際ビジネス学科 | ニュージーランド | 上智大学 | 2008.07.21 ~ 2008.09.20 | | |
| AUNGTRAKUL, Atchara | | ナレースワン大学人文学部日本語学科 講師 | タイ | 国際交流基金 日本語国際センター | 2008.07.27 ~ 2008.09.10 | | |
| LIEW, Nyin Tet | Chong Hwa高校 教員 | マレーシア | | 2008.07.28 ~ 2008.10.25 | | | |
| TAN, Swee Ean | マレーシア科学大学地理学部 人文学科 助手 | マレーシア | | 2008.07.29 ~ 2008.10.28 | | | |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------------------------|---|---|---|----------------------------|--|--|
| | | DANG, Thi Hoai | ホーチミン市教育大学 講師 | ベトナム | 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 | 2008.07.30 ~ 2008.10.28 | |
| | | KAUSHIKI, Nishtha | ジャワハルラル・ネルー大学 日本研究学科 東アジア研究センター 研究生 | インド | 法政大学大学院環境マネジメント研究科 | 2008.07.30 ~ 2009.10.29 | |
| | | DUGAY, Mary Christine Pesigan | デ・ラ・サール大学国際研究学 科 修士課程 | フィリピン | | 2008/07/31 ~ 2008.10.30 | |
| | | Ocaya, Raissa Faye Ozaraga | フィリピン大学 社会科学・哲学 部社会科学 修士課程 | フィリピン | | 2008/07/31 ~ 2008.10.30 | |
| | | ENVERGA, Hansen Manuel Constantino Iwan Setiya Budi | デ・ラ・サール大学国際研究学 科 修士課程 ディアン・ヌスワントロ大学文学部日本語学科 講師 | フィリピン インドネシア | 早稲田大学大学院日本語教育研究科 上越教育大学 | 2008.07.31 ~ 2008.10.30 2008.07.31 ~ 2008.10.31 | |
| | | BOUNLAVONG Sengsadon | ラオス国立大学 経済・経営学部 講師 | ラオス | 広島大学 | 2008.07.31 ~ 2008.10.31 | |
| 2 | JENESYS 次世代リーダー招へいプログラムグループA | YU, Xiaomin SENG, Hun WIDAYANI, Ida EDMUND, Ng Hoi Pin KETUNUTI, Vipunjit FONBUENA, Carmela MUSDI, Zasika | 北京師範大学 講師 名古屋大学大学院法学研究科 博士課程 インドネシア経営者連盟地域エンパワーメント・国際関係課 課長 シンガポール全国労働組合評議会 建築・林業組合シニア産業担当オフィサー 国際移住機関プログラム・マネージャー ニューズ・ブレイク誌 記者 Borneo Bulletin 新聞社 記者 | 中国 日本 インドネシア シンガポール タイ フィリピン ブルネイ | | 2008.07.17 ~ 2008.07.27 | 「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として実施。東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表。グループAのテーマは「アジア大洋州地域におけるヒトの移動～送出国―受入国及び当事者自身の利益を目指して」。 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------------------------|---|---|--|------|-------------------------|--|
| | | HUNG, Nguyen Trung MALIAMAUV, Katrina Jorene WIN, Khin Thida THAMMAVONG, Douangsy AHMED, Kazimuddin DALEY, Peter PARASNIS, Jaai WILLIAMS, Emma Joy | 労働社会研究所 研究員 TENAGANITAプログラムオフィサー ミャンマー連邦 商工会議所連合スタッフ・オフィサー 労働社会福祉省 国際協力課 課長補佐 Panos South Asia アシスタント・プログラムマネージャー オーストラリア 政府移民局政策プロジェクト課 戦略政策グループ アシスタント・ディレクター モナシユ大学 講師 RSVPプロダクションズ 研究員兼ディレクター | ベトナム マレーシア ミャンマー ラオス インド オーストラリア オーストラリア ニュージーランド | | | |
| 3 | JENESYS 次世代リーダー招へいプログラムグループB | LIN, Lan KEO, Sar | 上海社会科学院 都市化研究センター リサーチ・フェロー Chief of Cadastral Office Affair, Cadastral Office Affair, Siem Reap Provincial Hall | 中国 カンボジア | | 2008.07.29 ~ 2008.08.07 | 「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として実施。東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表。 グループBのテーマは「文化によるまちづくり：クリエイティブ・シティの可能性」。 |

アジア・大洋州交流事業費

| 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|-----|-------------------------------|--|-------|------|----|------|
| | KLINKAJORN, Karin | King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (KMITL), Department of Urban and Regional Planning 講師 | タイ | | | |
| | ZAPANTA-BATATE, Maria Silvana | Secretary, Neo-Angono Artists Collective | フィリピン | | | |
| | IDRIS, Zul' Amali | Arkitek Idris シニアアーキテクト | ブルネイ | | | |
| | VO, Dang Phong | Chief of Relics Restoration Division, Hoi An Center for Monuments Management and Preservation | ベトナム | | | |
| | PANG, Khee Teik | The Annexe, Central Market アーツプログラムディレクター | マレーシア | | | |
| | Than Htike Oo | Myanmar Consolidated Media 記者 | ミャンマー | | | |
| | PHETSIENGDA, Saysana | Housing and Town Planning Division, Department of Public Works and Transport, Vientiane Capital アカデミック・オフィサー | ラオス | | | |
| | AMUJURE, Vijaya | INTACH (Indian National Trust for Art and Cultural Heritage) 文化保存建築家 | インド | | | |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------------------------|-------------------------------|---|----------|------|-----------------------------|---|
| | | COTTER, Leanne | Green Room & Student Tix Coordinator, Adelaide Festival Centre, South Australia | オーストラリア | | | |
| | | KIM, Jang Un | 光州ビエンナーレ2008キュレーター | 韓国 | | | |
| | | LEE, Young Mi | The Hope Instituteフェロー | 韓国 | | | |
| | | NELSON, Sarah Margaret | New Zealand Planning Institute 政策アドバイザー | ニュージーランド | | | |
| 4 | JENESYS 次世代リーダー招へいプログラムグループC | KIM, Seonyeong | 失業克服国民財団青年事業チーム 職員 | 韓国 | | 2008. 12. 09 ~ 2008. 12. 19 | 「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として実施。東アジアコミュニティの異なる国々の若者が一堂に会し、寝食を共にしながら文化的背景などの差異を乗り越えて、地域に共通の課題について話し合い、思索する訪日研修を実施し、その成果をグループ発表。グループCのテーマは「社会包摂的アプローチにおける貧困の克服～グローバル経済におけるアジア・大洋州地域の現状」。 |
| | | LI, Jing | 北京師範大学社会開発公共政策学部 戦略企画アドバイザー | 中国 | | | |
| | | SHOBIRIN, Ahmad M. Si | インドネシア社会省企画部NGO協力課長 | インドネシア | | | |
| | | WISBEN, Arde | ソーシャル・ワーカー・プラクティス・リソース・センター ソーシャルワーカー | インドネシア | | | |
| | | CHHUN, Chhim | カンボジア開発資源研究所リサーチアシスタント | カンボジア | | | |
| | | ALI, Norhayati Binte Mohammad | ムンダキ財団プログラム・マネージャー | シンガポール | | | |
| | | LUANSANG, Chawanad | オープンスペース・コミュニティー・アーキテクト主宰 | タイ | | | |
| | | CRUZ, Mark Lawrence B. | Gawad Kalinga ナショナル・コーディネーター | フィリピン | | | |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|--|--|---|------------------------|------|-----------------------------|--|
| | | GANI, Sandra Puliran RSW | CFSIシニア・コミュニティ・ オーガナイザー | フィリピン | | | |
| | | AMIT, Haji Mohammad Sofian | 文化・青年・ス ポーツ省青年・ スポーツ局職員 | ブルネイ | | | |
| | | Bin Haji DANG, Huong, Giang | アクション・ フォー・ザ・シ ティ 代表 | ベトナム | | | |
| | | KOYA, Latheefa Beebi | Messrs Daim & Gamacy法律事務 所 弁護士 | マレーシア | | | |
| | | LAI, Wan Teng | マレーシア科学 大学女性開発研 究センター講師 | マレーシア | | | |
| | | HTET, Myo Tha | 7 Day News Journal紙 副編集長 | ミャンマー | | | |
| | | VANXAY, Souvannamethy | ラオス社会保険 機構 次長 | ラオス | | | |
| | | SINHA, Minati | インド・リハビリ テーション協議 会 研究員 | インド | | | |
| | | ALY, Waleed | モナシュ大学 政治社会学科 講師 | オーストラリア | | | |
| | | DE VRIES, Alaina Jay | 家族・住宅・コ ミュニティサー ビス・先住民省 課長 | オーストラリア | | | |
| | | STARRENBURG, Caleb | ジャーナリスト | ニュージーラン ド | | | |
| 5 | JENESYS 次世代 リーダー招へい プログラム グループD | JEONG, Narae LI, Jing PATUNRU, Arianto A. | 韓国環境運動連 合コーディネー ター China Daily記者 Institute for Economic and Social Change アソシエート ディレクター | 韓国 中国 インドネシア | | 2009. 03. 03 ~ 2009. 03. 14 | 「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環として 実施。東アジアコミュニティの異なる 国々の若者が一堂に会し、寝食を共に しながら文化的背景などの差異を乗り 越えて、地域に共通の課題について話 し合い、思索する訪日研修を実施し、 その成果をグループ発表。 グループDのテーマは「《生物多様 |

アジア・大洋州交流事業費

| 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|-----|--------------------------------|---|---------|------|----|---------------------------|
| | CHANN, Rithy | Quality Engineer, Pasteur Institute of Cambodia | カンボジア | | | 性》を通じた環境保全ー持続可能な発展を目指して」。 |
| | JEREMY, Ang Eng Hu | National Park Board, Conservation Officer | シンガポール | | | |
| | SUKPONG, Petchrung | International Unions for Conservation of Nature プロジェクトオフィサー | タイ | | | |
| | OLIVEROS, Vincent John D. | Palawan Conservation Corps 修復コーディネーター | フィリピン | | | |
| | ZAINAL, Norkhatijah Binti Haji | University of Brunei Darussalam 修士課程学生 | ブルネイ | | | |
| | QUAN, Chu Ngoc | 農業地方開発省 森林保護部職員 | ベトナム | | | |
| | UDIN, Saidal | KOPEL Bhd. アシスタントマネージャー | マレーシア | | | |
| | HEIN, Haymar | Ministry of Agriculture and Irrigation 副プログラムオフィサー | ミャンマー | | | |
| | BOUAHOM, Bounthanom | National Agricultural and Forestry Research Institute 天然資源調査ユニット長 | ラオス | | | |
| | NAYAK, Bibhu Prasad | Institute for Social and Economic Change 助教授 | インド | | | |
| | BURTON, Tegan | Department of Environment and Climate Change, NSW 公園保護官 | オーストラリア | | | |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|---|----------------------------|---|--------------|------|-----------------------------|---|
| | | KEATING, Rebecca Marney | Department of Sustainability and Environment, Victoria 水中 生物多様性プロ ジェクトオフィ サー | オーストラリア | | | |
| | | FULLER, Rebekah J. M. | ハワイ大学マノ ア校植物学部 Ph. D candidate | ニュージーラン ド | | | |
| 6 | JENESYS 次世代 リーダー招へい プログラム第1 回(報告書) | | | | | 2008. 04. 01 ~ 2009. 03. 31 | 2007年12月に実施したJENESYS次世代 リーダー招へいプログラム第1回目 (テーマ「東アジアの異なる文化・社 会・宗教間対話」)の報告書作成・配 布及び増刷。同プログラムは「21世紀 東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」の一環。 |

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ (学者・研究者) [アジア・大洋州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 96,754,917 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|----------------------------|--|-------|-----------------------------|-------------------------|---|
| 1 | YAP, Yuet Ngor | 翻訳家 | マレーシア | 東京大学大学院 人文社会系研究 科・文学部 | 2007.05.26 ~ 2008.05.25 | 村上春樹のマレーシア、シンガポールにおける受容に関する研究 |
| 2 | PHAR, Kim Beng | ダマンサラウタ マ・カレッジ 上級専任講師 | マレーシア | 早稲田大学アジ ア太平洋研究科 | 2007.05.31 ~ 2008.05.30 | 日本と中国におけるソフトパワーの形態と要素の分析的 解釈 |
| 3 | KYAW, Daw Mi Mi | SEAMEO-CHAT リサーチ・フェ ロー | ミャンマー | 千葉大学文学部 | 2007.06.09 ~ 2008.06.08 | 第二次世界大戦中における日本・ミャンマー関係 |
| 4 | CHEN, Yuping | 中国国家労働与 社会保障部国際 劳工研究所 副主任 | 中国 | 独立行政法人 労働政策研究・ 研修機構 | 2007.08.01 ~ 2008.04.30 | 日本の労働紛争解決システム |
| 5 | SONG, Zaixin | 四川大学外国語 学院日本語科 教授 | 中国 | 東京大学大学院 人文社会系研究 科 | 2007.08.01 ~ 2008.05.31 | 日本古代文化特質の形成の研究—古代和歌における四季 と恋との関係を中心に |
| 6 | TEEHANKEE, Julio Cabral | デ・ラ・サール 大学政治学部 学部長 | フィリピン | 東京大学大学院 法学政治学研究 科 | 2007.08.15 ~ 2008.06.14 | 憲法における継続性と変容 日比比較研究 |
| 7 | WU, Haihang | 北京師範大学法 学院 助教授 | 中国 | 首都大学東京 都市教養学部 | 2007.08.20 ~ 2008.08.19 | 東京都・北京市における少年犯罪の予防対策の比較研究 |
| 8 | CHOI, Wan Kyu | 慶南大学校北韓 大学院大学校 大学院長/教授 | 韓国 | 慶応義塾大学法 学部 | 2007.09.01 ~ 2008.06.30 | 北朝鮮の体制変換に対する韓国と日本の研究動向の比較 分析 |
| 9 | LEE, Geun | ソウル大学校外 交学科 准教授 | 韓国 | 政策研究大学院 大学 | 2007.09.20 ~ 2008.07.19 | ソフトパワーの理論化：日本の場合 |
| 10 | SETISARN, Chomna rd | チュラーロン コーン大学文学 部東洋言語学科 日本語講座 助教授 | タイ | 国立民族学博物 館民族社会研究 部 | 2007.09.29 ~ 2008.09.28 | 日本の家畜をめぐる民族と信仰 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|--------------------------|--|--------------|-----------------------------|-----------------------------|--|
| 11 | NGUYEN, Minh Van | ベトナム社会科学 学院人類学院 | ベトナム | 東京大学東洋文 化研究所 | 2007. 10. 02 ～ 2008. 10. 01 | 伝統的宗教振興からキリスト教及び新興宗教への変遷と その社会文化生活への影響—1945年～2006年における日 本・ベトナム間の比較研究 |
| 12 | HARTLEY, Barbara Toni | タスマニア大学 アジア言語・研 究学部 | オーストラリア | 北海道大学大学 院文学研究科 | 2007. 11. 01 ～ 2008. 07. 06 | 武田泰淳の文学：20世紀の日本における自己、他者そし て国家 |
| 13 | XU, Jinlong | 中国社会科学院 外国文学研究所 教授 | 中国 | 東京大学大学院 人文社会系研究 科 | 2007. 11. 17 ～ 2008. 09. 16 | 大江健三郎評伝 |
| 14 | OKAYAMA, Emiko | シドニー大学日 本韓国文化研究 学科 博士課 程・非常勤講師 | オーストラリア | 名古屋大学大学 院国際開発研究 科 | 2007. 11. 29 ～ 2008. 05. 28 | 日本の芸術・文学・E-メディアにおけるテキストと イメージの関係 |
| 15 | JEON, Jinho | 光云大学日本学 科教授 | 韓国 | 防衛省防衛研究 所 | 2007. 12. 01 ～ 2008. 09. 30 | 21世紀の日米同盟と米韓同盟 |
| 16 | LIU, Ping | 中国社会科学院 文学研究所研究 員（教授） | 中国 | 摂南大学外国語 学部 | 2007. 12. 15 ～ 2008. 10. 14 | 中国話劇に対する日本現代演劇の影響および日中文化 交流 |
| 17 | JANG, In-Sung | ソウル大学校外 交学科教授 | 韓国 | 東京大学大学院 法学政治学研究 科 | 2007. 12. 16 ～ 2008. 08. 27 | 戦後日本の国際政治思想にみる普遍性と特殊性—理想 主義-現実主義論争を中心に |
| 18 | CHO, Yong Rea | 国民日報論説委 員 | 韓国 | 慶應義塾大学商 学部 | 2008. 03. 01 ～ 2008. 12. 31 | 高齢人力活用政策の韓日比較：日本の経験の韓国への 適用可能性 |
| 19 | MEHDI, Syed Sikander | カラチ大学国際 関係学科教授 | パキスタン | 立命館大学国際 平和ミュージア ム | 2008. 03. 02 ～ 2009. 01. 01 | パキスタンにおける平和記念館の設立—日本の平和記念 館との関連性について |
| 20 | LIM, Kim Hui | マレーシア国民 大学リサーチ フェロー | マレーシア | 上智大学 | 2008. 03. 27 ～ 2009. 03. 26 | 日本とマレーシアの文化的規範に関する言説の比較 研究：日本人論とマレー人の精神性 |
| 21 | YUN, Hyekyung | 慶尙大学嬰幼兒 保育科 助教授 | 韓国 | 東京学芸大学 | 2008. 05. 10 ～ 2009. 03. 09 | 少子化社会において日本と韓国の保育政策の比較—子育 てを支援する新しいシステムの提案 |
| 22 | BARKE, Andrew John | ヴィクトリア大 学ウェリントン 校アジア欧州言 語文化学部上級 講師 | ニュージーラン ド | 東京外国語大学 留学生日本語教 育センター | 2008. 05. 12 ～ 2009. 01. 10 | 日本語会話における丁寧表現と非丁寧表現 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|-------------------------|--------------------------|---------|------------------|-------------------------|---|
| 23 | SUBANDI | 国立スラバヤ大学言語芸術学部日本語学科日本語講師 | インドネシア | 名古屋大学大学院文学研究科 | 2008.06.08 ～ 2009.04.07 | 日本語の女性語に対する日本社会の評価 |
| 24 | CHEN, Xiuwu | 東北師範大学日本研究所助教授 | 中国 | 一橋大学社会学部 | 2008.06.08 ～ 2009.06.07 | 坂本龍馬の国家意識について |
| 25 | ATHAMBAWA, Azeez Abdul | コロンボ大学経営学部 上級講師 | スリランカ | 早稲田大学 | 2008.06.23 ～ 2009.04.22 | スリランカにおける日本の外国直接投資：アメリカと日本の外国直接投資の影響の比較 |
| 26 | SEONG, Seunghyeon | 全南大学校法科大学教授 | 韓国 | 京都大学大学院法学研究科 | 2008.07.01 ～ 2009.01.31 | 積極的契約侵害論と債務不履行類型論に関する比較法史的再検討 |
| 27 | LEE, Eugene | 淑明女子大学校政治外交学科教授 | 韓国 | 慶応義塾大学法学部 | 2008.07.07 ～ 2009.03.06 | 移住外国人社会統合韓日比較研究：多文化社会の可能性 |
| 28 | WOLFF, Leon Thomas | ニューサウスウェールズ大学准教授 | オーストラリア | 立命館大学 | 2008.07.21 ～ 2009.03.20 | 法的観点から見た終身雇用制度の変化の見通し |
| 29 | LAWANDA, Ike Iswary | インドネシア大学人文学部情報・図書館学科講師 | インドネシア | 東北大学大学院文学研究科 | 2008.08.01 ～ 2008.09.30 | グローバリゼーション時代における日本企業の創業者崇拜：企業文化の象徴としての創業者信仰 |
| 30 | ZHOU, Yongsheng | 外交学院大学国際関係研究所教授 | 中国 | 政策研究大学院大学 | 2008.08.05 ～ 2009.06.04 | 日本のソフトパワーに関する研究 |
| 31 | TRINIDAD, Dennis D. | デ・ラ・サール大学国際関係学部准教授 | フィリピン | 立命館アジア太平洋大学 | 2008.09.01 ～ 2009.06.29 | 日本と東南アジアの統合 |
| 32 | KIM, Jung-rye | 全南大学校人文学部日語日文学科 教授 | 韓国 | 京都大学大学院人間・環境学研究科 | 2008.10.01 ～ 2009.05.30 | 韓・日定型詩歌における「笑い」の研究 |
| 33 | ATSUTI, Meta Sekar Puji | ハサヌディン大学日本文化研究所 日本語講師 | インドネシア | 慶應義塾大学経済学部 | 2008.10.09 ～ 2009.03.10 | 1942年以前における日本・蘭領東インド（インドネシア）関係 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|-------------------------|------------------------|---------|----------------|-------------------------|------------------------------|
| 34 | TECHAKANONT, Kriengkrai | タマサート大学 経済学部 助教授 | タイ | 広島大学 | 2008.10.27 ~ 2009.05.26 | タイ自動車産業の製造技術発展に果たす日本企業の役割 |
| 35 | SUN, Jing | デンバー大学政治学部 助教授 | 中国 | 早稲田大学国際教養学部 | 2008.11.24 ~ 2009.04.15 | 魅力の競り合う一国際競争における中国と日本の新しい対策 |
| 36 | PARK, Young-goo | 釜山外国語大学 校商経大学経済学科教授 | 韓国 | 拓殖大学 | 2009.01.07 ~ 2009.11.06 | 日本と韓国の重化学工業化比較研究 |
| 37 | STAVROS, Matthew | シドニー大学日本研究学科 助教授 | オーストラリア | 東京大学史料編纂所 | 2009.01.11 ~ 2009.06.10 | 前近代京都の空間構造史-中世を中心に- |
| 38 | KIM, Hosup | 中央大学校社会科学大学国際関係学科 教授 | 韓国 | 慶應義塾大学法学部 | 2009.01.12 ~ 2009.11.11 | 日本の対中国ODAの政策決定 |
| 39 | JANG, Yong Geoll | 慶南大学校師範大学日本語教育科 副教授 | 韓国 | 大阪大学大学院人間科学研究科 | 2009.01.13 ~ 2009.11.12 | 日本における韓国ポピュラー文化の受容と変容についての考察 |

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェローシップ (論文執筆者) [アジア・大洋州]

人文・社会科学の研究者で博士論文作成のため来日する必要があるものを招へいする。

合計額 59,754,697 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|---|---------------|-----------------------------|--------|---------------------|-------------------------|-----------------|
| 1 | PARK, Doyoung | イリノイ大学歴史学部博士課程 | 韓国 | 東京大学大学院法学政治学研究科 | 2007.09.15 ~ 2008.09.14 | 儒学転換：徳川初期の禅僧と儒学 |
| 2 | HO, Chiew Hui | スタンフォード大学宗教学科博士課程 | シンガポール | 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 | 2007.09.25 ~ 2008.09.24 | 安然-台密の系統化 |
| 3 | DU, Yang | 北京大学外国語学院日本語文化学部日本文化研究室博士課程 | 中国 | 東京大学大学院人文社会系研究科 | 2007.10.02 ~ 2008.10.01 | 上田秋成思想研究 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|--------------------------|------------------------------|----------|------------------------|-----------------------------|---|
| 4 | ZHUANG, Na | 北京大学国際関係学院博士課程 | 中国 | 成蹊大学法学部 | 2007. 10. 02 ～ 2008. 10. 01 | 日本の国体論 |
| 5 | LIU, Fang Liang | 山東大学文学与新聞伝播学院博士課程 | 中国 | 成蹊大学文学部 日本文学科 | 2007. 10. 04 ～ 2008. 08. 03 | 受容と変容—日本江戸漢詩と明代の詩学の関係についての研究 |
| 6 | GU, Hongyan | シドニー大学芸術社会科学学部政治・国際関係学科 博士課程 | 中国 | 名古屋大学大学院環境学研究科 | 2007. 11. 01 ～ 2008. 05. 31 | 継続的な協働型アドボカシーを目指して—中国と日本において政府と環境非政府組織の関係についての比較研究 |
| 7 | RYU, Yongwook | ハーバード大学政治学部 博士課程 | ニュージーランド | 慶應義塾大学法学部政治学科 | 2007. 11. 01 ～ 2008. 08. 31 | 国家アイデンティティと領土紛争の過熱化：日本のアイデンティティの変容が東北アジアの領土紛争に与える影響 |
| 8 | FULORIA, Deepika | ジャワハルラル・ネルー大学東アジア研究センター 研究員 | インド | 愛媛大学法文学部 | 2008. 02. 19 ～ 2009. 02. 18 | 東アジアの発展：1990年-2005年の日中関係の変遷を事例として |
| 9 | YOON, Jee-Young | 延世大学校大学院地域学科 博士課程 | 韓国 | 東京大学大学院総合文化研究科 | 2008. 03. 16 ～ 2009. 03. 15 | 近代日本の「国家」認識—1868～1945— |
| 10 | CHANDRA SETH, Janashruti | ジャワハルラル・ネルー大学 助教授 | インド | 大阪大学大学院言語文化研究科 | 2008. 06. 01 ～ 2009. 05. 31 | 丁寧さの曖昧表現—日本とヒンディーにおける控えめなほめ言葉の類型研究 |
| 11 | CATALINAC, Amy Louise | ハーバード大学政治学部 博士課程 | ニュージーランド | 東京大学社会科学研究所 | 2008. 06. 27 ～ 2009. 06. 28 | 外交・防衛政策の選挙政治：自衛隊の役割・任務拡大を説明する |
| 12 | LEE, Jun Kyu | 慶南大学校北韓大学院大学校 博士課程 | 韓国 | 明治学院大学国際学部 | 2008. 07. 07 ～ 2009. 07. 06 | 脱冷戦期日朝関係に関する研究：正体性と利益の相互作用 |
| 13 | SA, Rina | 中国人民大学環境学院 博士課程 | 中国 | 名古屋大学 | 2008. 07. 31 ～ 2009. 07. 30 | 中国における循環経済の構築に向けたグッドガバナンスの研究 |
| 14 | LI, Jiadong | 上海大学大学院文学研究科中国近現代史専攻 博士課程 | 中国 | 中央大学総合政策学部・同大学院総合政策研究科 | 2008. 08. 01 ～ 2009. 01. 31 | 近代上海における日本人社会—文化事業を中心に |

アジア・大洋州交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|-----------------------------|-------------------------------------|--------|------------------------------|-------------------------|---|
| 15 | SHU, Fanghong | 中国社会科学院 研究生院日本研 究科 博士課程 | 中国 | 法政大学国際日 本学研究所 | 2008.08.01 ~ 2009.07.31 | 戦後日本における平和主義思想の研究 |
| 16 | KASIM, Zainol Abidin Bin | マラヤ大学予備 教育課程 (AAJ) 日本語講師 | マレーシア | 杏林大学外国語 学部 | 2008.08.26 ~ 2009.06.25 | 東方政策プログラムにおける自己アイデンティティの研究：マレー人と日本人の自己アイデンティティの比較研究 |
| 17 | OH, Younjung | 南カリフォルニ ア大学美術史学 科 博士課程 | 韓国 | 東京大学人文社 会系研究科 | 2008.09.11 ~ 2009.09.10 | 日本の百貨店が近代的「美術」概念の認識に与えた影響 |
| 18 | YU, Ying | オハイオ州立大 学東アジア言語 文学科 博士課 程 | 中国 | 国際日本文化研 究センター | 2008.09.16 ~ 2009.09.15 | 1960年代及び1970年代の日本ファンタジー文学 |
| 19 | XU, Lin | 中国社会科学院 研究生院 博士 課程 | 中国 | 早稲田大学社会 科学総合学術院 | 2008.09.23 ~ 2009.09.22 | 行政権力の配分について——日本における経済規制改革の視点から |
| 20 | HAN, Dan | 四川大学文学与 新聞学院 博士 課程 | 中国 | 国文学研究資料 館 | 2008.09.29 ~ 2009.09.28 | 『風姿花伝』研究—江戸時代文学理論への影響および『閑情偶寄』との比較 |
| 21 | MANCHERI, Nabeel Ajmal | ジャワハルラル ネルー大学日本 研究学科 博士 課程 | インド | 広島大学 | 2008.10.02 ~ 2009.09.30 | インド、日本、オーストラリア間の貿易と通商協定：優遇措置と競争力 |
| 22 | GONG, Lili | 復旦大学国際関 係公共政策学院 博士課程 | 中国 | 慶應義塾大学 | 2008.10.03 ~ 2009.10.02 | 日中戦略的互惠関係の構築—環境協力の観点から |
| 23 | CHO, Jung Yun | 高陽市文化芸術 課 / 成均館大学 博士課程 | 韓国 | 社団法人全国公 立文化施設協会 | 2009.02.01 ~ 2009.11.30 | 地域文化財団の効率的運営管理方法：韓国と日本の地域文化財団の比較研究 |
| 24 | PARK, Myunghee | 梨花女子大学大 学院政治外交学 科 博士課程 | 韓国 | 慶應義塾大学大 学院 政策・メ ディア研究科 | 2009.03.01 ~ 2010.02.28 | 日本のODA政策過程とNGOの役割 |
| 25 | HAMZAH Nusyirwan | インドネシア大 学大学院日本地 域研究科 職員 | インドネシア | 東京大学東洋文 化研究所 | 2009.03.22 ~ 2009.10.21 | 小泉純一郎首相 日本の政治リーダーシップの研究 2001-2006 |

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (4) 日本研究フェローシップ (社会科学院研究生院)

中国社会科学院研究生院の博士課程在籍者に博士論文執筆のための日本研究フェローシップを供与する。

合計額 1,088,422 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|---|------|------|-----|----------------|-------------------------|--|
| 1 | 馮 維江 | 博士課程 | 中国 | 桜美林大学大学院国際学研究科 | 2007.05.31 ~ 2008.05.30 | 不完全契約理論による国際紛争解決構造研究-東シナ海における日中の領海紛争を事例として |
| 2 | 周 傑 | 博士課程 | 中国 | 学習院大学法学部 | 2007.05.31 ~ 2008.05.30 | 日本の選挙制度改革 |

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (5) 日本研究フェローシップ (短期) [アジア・大洋州]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 7,327,211 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|---|--------------------------|-------------------------------|---------|-------------------|-------------------------|---|
| 1 | MAHAKHAN, Nanchaya | プーラーパー大学人文社会学部 講師 | タイ | 神戸大学大学院 人文学研究科 | 2008.06.08 ~ 2008.08.07 | 日本文化における「間」の意義 |
| 2 | LI, Yan Nan | 華南師範大学外国言語文化学院 副教授 | 中国 | 神戸女子大学文 学部 | 2008.06.20 ~ 2008.08.10 | 現代日本文学における「中国像」 |
| 3 | KULSRISOMBAT, Niramon | チュラロンコン大学建築学部 都市・地域計画学科 講師 | タイ | | 2008.10.06 ~ 2008.12.04 | パートナーシップによる都心部再生： 日本の経験から学ぶ |
| 4 | GAVIN, Masako | ボンド大学人文科学部 助教授 | オーストラリア | 早稲田大学文学 学術院 | 2008.11.23 ~ 2008.12.22 | グローバルな日本を目指して：安部 磯雄の思想と生涯 |
| 5 | PATCHELL, Gerald Roe | 香港科学技術大学社会科学学部 准教授 | 中国 | | 2008.12.05 ~ 2009.01.30 | 産業生態系の地理的制限 |
| 6 | SIAMPUKDEE, Usamard | チェンマイ大学政治行政学部 講師 | タイ | | 2009.01.25 ~ 2009.03.25 | 外国人ケアワーカーと日本の高齢化危 機：政策の変化とASEANとの経済連携 協定 |
| 7 | TIAN, Ming | 中国外交学院 外国語学部 副教授 | 中国 | 跡見学園女子大 学 | 2009.03.28 ~ 2009.05.26 | 大庭みな子研究 — 60年代の初期作品 から80年代の後期作品における「家 族」のモチーフ及びその変容について |

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (6) 日本研究フェローシップ (高砂熱学工業)

インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナムの日本研究専攻の学生に奨学金を供与する。

合計額 4,070,630 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|---|---------------------------|-------------------------|--------|-----------------|-------------------------|---|
| 1 | HANDAYANI, Christina Siwi | サナタ・ダーマ大学 講師 | インドネシア | 京都大学 | 2007.08.01 ~ 2008.05.30 | 消費を通じた自己の存在：東方の文化-日本（京都）とインドネシア（ジョグジャカルタ）における若者の自己叙述における対話アプローチ |
| 2 | NGUYEN, Luong Hai Khoi | ホーチミン市教育大学 文学・言語科 教師 | ベトナム | 日本大学文理学部 哲学科 | 2008.06.01 ~ 2009.05.31 | ベトナム人作家ゲェントウンの美意識との比較にみる川端康成の美意識 |

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (7) 知的リーダー交流 (招へい) [アジア・大洋州]

諸外国の政治、経済、労働、メディア、教育等の各分野で影響力を有する人材を招へいし、日本側関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 19,932,950 円

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------------------|-----------------------------|--------------------------|-------|-------------------------|--|
| 1 | アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム | KIM, Hae Chang | 希望製作所 副所長 | 韓国 | 2008.05.01 ~ 2009.03.25 | 日本を含むアジア諸国において社会的影響力の大きい知識人（パブリック・インテレクチュアルズ）7名を、2カ月間日本に招へい。セミナー、ワークショップ、地方視察などの知的共同作業を通して、アジア域内の人的ネットワーク形成を図るとともに、地域が直面する様々な課題に対する共通の問題意識を醸成し、解決に取組むための知的基盤作りを促進。 |
| | | GU, Yi An | 上海戯劇学院演劇部門 役者・演出家・教授 | 中国 | | |
| | | LEE, Soo Im | 龍谷大学経営学部 教授 | 日本 | | |
| | | ACHAKULWISUT, Atiya | バンコク・ポスト オピニオン欄編集者 | タイ | | |
| | | GASCON, Jose Luis Martin C. | LIBERTAS（自由のための弁護士同盟） 会長 | フィリピン | | |
| | | SHARMA, Jyotrimaya | ハイデラバード大学 政治学教授 | インド | | |
| | | LAL, Chandra Kishour | コラムニスト、コメンテーター | ネパール | | |

2. 人物交流事業費 / (8) 知的リーダー交流 (派遣) [アジア・大洋州]

日本と諸外国の知的対話の促進と、知的リーダー間のネットワークの構築・強化を推進するため、日本から知的リーダーを海外に派遣し、関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 1,209,810 円

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|-------------------|-------|------------------------------|-----|-------------------|-------------------------|--|
| 1 | 核不拡散・核軍縮に関する国際委員会 | 阿部 信泰 | 財団法人日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター 所長 | 米国 | 核不拡散・核軍縮に関する国際委員会 | 2009.02.12 ~ 2009.02.22 | 2008年の日豪首脳会談を契機に設置された「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会」の第2回会合に、本分野での国際施策に日本の立場を反映させるため専門家を派遣。 |

アジア・大洋州交流事業費

2. 人物交流事業費 / (9) 知的交流フェローシップ (招へい) [アジア・大洋州]

日本において人文・社会科学分野の研究を行う諸外国の研究者にフェローシップを供与する。

合計額 8,218,095 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|---|---------------------|------------------------------------|--------|--------------------|-------------------------|---------------------------------------|
| 1 | AHN, Byung-Jik | ソウル大学西洋史学科 教授 | 韓国 | 大阪大学大学院 言語文化研究科 | 2008.05.13 ~ 2008.08.26 | 平和のために思い返すこと：戦後日本における戦争と戦没者の記憶 |
| 2 | HE, Guangwen | 中国農業大学経済管理学院金融系主任教授 | 中国 | 農林中央金庫 総合研究所 | 2008.08.20 ~ 2008.09.19 | 日本の農家及び中小企業に対する金融サービスと中国への政策面での示唆 |
| 3 | MYOE, Maung Aung | シンガポール国立大学アジア研究所 ポスト・ドクトラル・フェロー | シンガポール | 国際大学 | 2008.10.01 ~ 2009.07.31 | 台頭する中国、「普通」化する日本、東南アジアの安全保障：ミャンマーへの影響 |
| 4 | PABOTTINGI, Mochtar | インドネシア科学研究所政治学センター シニア・リサーチャー | インドネシア | 東京大学大学院 総合文化研究科 | 2009.03.01 ~ 2010.02.28 | 日本における国家民主主義共生の展望-予備研究 |
| 5 | XU, Shu | 吉林省延吉市延辺歌舞団 監督 | 中国 | 日本舞踊振興財団 | 2009.03.21 ~ 2009.04.28 | 日本伝統舞踊研究 |

アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議 (助成) [アジア・大洋州]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、世界の知的交流を推進することを目的とした国際的な知的共同事業（国際会議等）に対し、経費の一部を助成する。

合計額 49,662,134 円

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------------------------------|------------------------|---------------|-------------------------|--|
| 1 | 国際共同報道を通じたコミュニティのエンパワーメント | 世界コミュニティラジオ放送連盟日本協議会 | アジア地域区分 困難 | 2008.04.01 ~ 2008.12.31 | G8をはさんでおよそ10日間、世界のコミュニティ・ラジオと呼ばれる市民地域に根ざし、地域の課題解決のために活動する非営利放送局の関係者約20名（アジア・太平洋地域中心）を札幌等に招き、G8や関連イベント等を国内のジャーナリストらと共同で取材し、多言語で世界に報道する事業を実施 |
| 2 | ソーシャルワークにおけるイスラム的思考の統合に向けて | フィリピン大学発展のための社会行動・研究財団 | フィリピン | 2008.04.01 ~ 2009.02.28 | フィリピン・ムスリムの社会における周縁化という問題を背景に、イスラム文化・慣習に配慮したイスラム的な教義・精神に基づく社会福祉活動教育・カリキュラムを国内に導入するために、現状の把握や課題の発掘を行う会議を実施。2日間の国内会議を実施後、マレーシア、インドネシア、ブルネイから社会福祉関係者を招へいし、2日間の国際会議を実施 |
| 3 | 近代東アジア連帯論と東アジア国際理解教育 | 帝塚山学院大学国際理解研究所 | アジア地域区分 困難 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日中韓の代表的な文化人が参加し、「東アジア連帯論の系譜」（対馬）と、「東アジア国際理解教育」（北京）をテーマに国際会議を実施 |
| 4 | 東アジア文学フォーラム | 東アジア文学フォーラム日本委員会 | アジア地域区分 困難 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日中韓の文学者が「東アジアの文学」をテーマに、2008年10月にソウルおよび春川にてシンポジウムを開催。シンポジウムの他に一般向けの作品朗読会や講演会、公開討論会なども実施 |
| 5 | 東アジアの自閉症児のための治療教育プログラム開発に関する国際共同研究 | 立命館大学 | アジア地域区分 困難 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 自閉症児を中心とした発達障害児の治療教育に関し、東アジア地域の生活環境・文化・社会に適合した教育プログラムの開発をめざし、ベトナム・中国・日本の研究者や障害児教育関係者の研究交流を実施 |
| 6 | セックスツーリズムに関する東南アジア会議 | 子供の保護・研究センター | インドネシア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | インドネシアのメダンにて、児童買春旅行をテーマに9名の講演者を迎えて国際会議を実施。行政（州政府、法務層、警察、観光局、入国管理局）、業界団体（ホテル・旅行業）、NGO、国際機関等の関係者約150名が参加 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|-------------------------------|--------------|-----------|-------------------------|---|
| 7 | 国際会議「高齢化社会におけるジェンダーとセクシュアリティ」 | クイーンズランド大学 | オーストラリア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 高齢化社会における女性のジェンダーと性的問題を、日本の文学や芸術作品中での「女性の老い」の表象に着目し、検討。具体的には(1)映画『百合祭』の上映、監督講演、(2)国際会議「高齢化社会におけるジェンダーとセクシュアリティ」で構成され、2008年9月29日～10月1日にブリスベンのクイーンズランド大学で開催された「第9回アジア女性会議」(豪アジア研究学会主催)のパネルの一つとして実施 |
| 8 | 21世紀の日本の対中戦略について | 財団法人世界平和研究所 | アジア地域区分困難 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日中両国の政治、経済、学術関係者が、今後20～30年の日中関係を外交、安全保障、経済・社会にわたる幅広い観点から検討し、提言としてまとめる国際会議を実施 |
| 9 | 日・韓次世代学術フォーラム ソウル大会 | 東西大学校 | 韓国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 人文・社会科学分野における日韓両国及び中国の大学院生が東アジアに共通の関心事をテーマに採り上げ、研究発表と交流を行う学術大会の第5回目。第3回目以降の開催地は主管機関である東西大学日本研究センターの所在地(韓国・釜山)を離れ、今次大会はソウル大学(韓国・ソウル)で2008年6月に実施 |
| 10 | 外交文書公開に伴う日韓会談の国際比較研究 | 国民大学校 | 韓国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 国民大学校日本学研究所が2005年12月～08年11月に韓国学術振興財団の支援で「日韓会談外交文書公開に伴う基礎資料研究」を実施した成果を、日本側の「日韓会談外交文書研究グループ」と米・中の参加者各2名が、一般に広く発表する国際会議を2009年2月に実施。成果は単行本として出版。また、日韓会談に関わった主要人物の証言を聴取したオーラルヒストリーを作成・出版 |
| 11 | 中国の調和ある経済社会発展と中日韓協力に関するシンポジウム | 中国社会科学院日本研究所 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 中国社会科学院日本研究所と九州大学アジア総合政策センター、韓国の東国大学日本研究所が共同で行なうシンポジウムの3回目。「医療・生命倫理」、「産業連携」、「高齢化社会」、「ポピュラーカルチャー」、「環境」といった比較的身近な5つの切り口から日中韓協力の可能性について議論する。2008年10月18日、19日の2日間にわたり中国・青島で開催。 |
| 12 | 21世紀における日・中哲学の可能性 | 香港教育学院 | 中国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 西欧哲学の影響を受けながらも独自に発展した、日本の西田哲学(京都学派)と中国のNew Confucianismの比較検討を行う会議を開催。西田哲学は、欧米では広く研究されているが中国ではまだそれほど研究が進んでいないため、中国の哲学研究者に紹介する側面も持った。2008年12月13、14日の2日間、香港にて公開シンポジウムを開催。この会議に集まった学者により、国際日本哲学学会の設立についても協議 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|---|------------------------|---------------|-------------------------|--|
| 13 | 移住の時代、アジアの家族構造の変動と国家別政策比較のための国際学術交流 | アジア女性学センター | 韓国 | 2008.05.01 ~ 2008.10.30 | 90年代以降急激に増加したアジア女性たちの移住を通して見える家族構造および社会構造の変化をテーマに、アジア各国・地域（韓国、日本、中国、インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイ、台湾）の研究者、NGO活動家、政策担当者を交えて議論する専門家ワークショップおよび国際シンポジウムを実施。問題を把握するとともに、アジア域内専門家・活動家のネットワーク化を目指す。2008年10月に梨花女子大学にて実施 |
| 14 | 東南アジアにおける高等教育に関する国際会議 | 東南アジア教育省連合/高等教育・開発センター | タイ | 2008.05.01 ~ 2008.11.30 | 東南アジア諸国（主としてタイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン）における高等教育システムに共通の枠組みを構築し、域内の学位や人材の互換性、補完性を高めていくことを目指す会議。各国で準備会合を開催後、リソースパーソンとして日本、オーストラリア、ニュージーランドから開発教育に関する専門家を招へいし、政府関係者や国際関係機関を交えて10月にバンコクにて国際会議を開催 |
| 15 | インドネシアの貧困層に対する社会経済制度の改革に関する国際セミナー | ジャンパー・ステート・ポリテクニク | インドネシア | 2008.05.01 ~ 2008.12.31 | 2008年5月28日～29日にインドネシア・東ジャワのジェンベルにて、インドネシアの貧困層に対する小規模融資制度をテーマとする国際会議を実施 |
| 16 | 教員セミナー オーストラリアの大学教育における魅力ある日本文学教授法の開発 | タスマニア大学 | オーストラリア | 2008.05.01 ~ 2009.01.31 | オーストラリアの大学で、より魅力的な日本文学関連講義を実施するために、大学教員によるワークショップを2008年9月12～14日の3日間、タスマニア大学にて開催。古典～近代文学のみならず、現代文学・文化までを対象とし、かつ歴史・社会・文化など隣接学問分野との接続をも視野に入れたモデル授業・教材を開発 |
| 17 | 血液管理・HIV/AIDS問題に関する国際比較研究-シンポジウム&ワークショップ- | 学習院女子大学 | アジア地域区分 困難 | 2008.05.01 ~ 2009.03.01 | 中国でAIDS/HIV問題に取り組む研究者やNPO関係者、弁護士等を日本に招へい、中国における事例や課題の報告とともに、日本を中心にインドや南アフリカ、米国、カナダ等での取り組みや経験を共有することにより、中国における血液管理やAIDS関連の法整備と制度建設、感染者支援に役立てる。2008年11月に2日間のシンポジウムと2日間のワークショップを実施 |
| 18 | 高齢者の保護促進のための年金制度導入に関する研修・ワークショップ | ヘルプ・エイジ・インターナショナル | タイ | 2008.05.01 ~ 2009.03.31 | 東南アジア・南アジア諸国6カ国の高齢者問題に携わる行政担当者18名を対象に、タイ、日本、インド、南アフリカからリソースパーソンを迎えて、アジアの社会文化に適した社会保障制度導入に関する理論・実務に関する5日間の研修をチェンマイにて実施。6日目には、タイの学識者や専門家を交え、タイにおける社会保障制度をケーススタディとして議論を行うワークショップを開催 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|---|-----------------------------|-----------|-------------------------|--|
| 19 | アジア太平洋におけるグローバル化の影響 | ボンド大学 | オーストラリア | 2008.07.01 ~ 2008.12.31 | 2008年9月26日・27日の2日間、豪・クィーンズランド州のボンド大学にて「グローバル化はアジア・大洋州地域をいかにかたちづくるか：多様な学問分野からの分析」と題して国際会議を実施。グローバル化のうち、経済・金融・貿易などの制度変革が各国の産業・労働市場・法制度、国際関係、安全保障などに与えた影響について議論 |
| 20 | 東アジア環境食料エネルギー共同体を創る-非伝統的安全保障共通政策の形成と日本の役割 | 国際アジア共同体学会 | アジア地域区分困難 | 2008.08.01 ~ 2009.03.31 | 食料・エネルギー危機、気候変動や砂漠化、SARSや鳥インフルエンザなど、非伝統的安全保障領域における東アジア域内共通リスクの増大に対して、アセアン諸国と日中韓3国が構想する解決策やその制度化への道筋について、環境、食料、エネルギーの3分野を軸に、研究者と実務家が議論する国際会議を実施 |
| 21 | 現代イスラム研究における日本の貢献-井筒俊彦の功績 | イスラム国際大学イスラム教義・人間科学部 | マレーシア | 2008.08.05 ~ 2008.08.07 | 日本のイスラム研究のパイオニアである井筒俊彦の業績に焦点をあて、日本、米国、マレーシアのイスラム研究者が、井筒氏の業績や今日的意味に焦点をあてた論文発表を行いながら、日本と諸外国のイスラム研究者の交流を深化させることを目的とする国際会議。マレーシア国内からも研究者、外交官、NGO、宗教団体、学生、メディアなどから200名が参加し、8月5-7日の3日間、助成機関にて実施。 |
| 22 | マレーシア国際法シンポジウム-アジアにおける国際法と外交政策の適用に関する再評価 | マラヤ大学法学部 | マレーシア | 2008.08.07 ~ 2008.08.08 | アジアでは、国際法の整備と国内適用が遅れていることから解決をみない問題が多い事情に鑑み、実効性のある法という側面から諸課題解決を推進すべく、アジア14カ国から約20名の国際法の専門家、弁護士、外交官らが集まり、国際法の適用状況や阻害要因について議論し、日本の経験・政策から学ぶ2日間の国際会議を実施。8月7-8日クアラルンプールにて実施 |
| 23 | 第4回 東アジア環境市民会議 | 東アジア環境情報発信所 | アジア地域区分困難 | 2008.10.10 ~ 2008.10.14 | 北東アジアにおける環境問題、特に中国の河川・水質汚染が水俣病の公害経験に酷似して進行している現状に鑑み、日中韓の環境NGO、研究者、市民団体が集まり、日本における公害経験に学びながら予防策と対策を検討し、具体的な協力の推進にむけて討議する国際会議・視察事業を実施 |
| 24 | メコン流域における経済成長とコミュニティ創造 | オークランド大学 ニュージーランド・アジア研究所 | ニュージーランド | 2008.10.17 ~ 2008.10.19 | ラオス・ルアンプラバンのスパノボン大学にて「メコン流域における経済成長とコミュニティ創造」をテーマに国際会議を実施。会議に先立ち、メコン流域内の経済開発や灌漑が地域の信頼醸成や共同体意識にどのような影響を与えているかの事例研究を行い、その成果を会議で発表。その上で学術的な成果物を書籍として刊行 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|-------------------------------------|-------------------|-------|-----------------------------|--|
| 25 | 報道写真に関する国際シンポジウム | パキスタン・日本文化協会（シンド） | パキスタン | 2008. 11. 06 ～ 2008. 11. 12 | 報道写真家の社会的地位、認知度を高めることを目的とする国際会議及び展示会を実施。南アジア地域協力連合（SAARC）諸国および日本から報道写真家が参加 |
| 26 | 東アジア協力フォーラム 2008 中国の改革開放と東アジア：回顧と展望 | 中国人民大学東アジア研究センター | 中国 | 2008. 11. 29 ～ 2008. 11. 30 | 2005年以来東アジア各国の協力のあり方に取り組んできた東アジア協力フォーラムの4回目。中国の改革開放30周年にあたることを受けて中国の改革開放と東アジアの協力についての回顧と展望を行った。中国、日本、アメリカ、韓国、モンゴル、ロシア、アセアン諸国の学者80名が参加。2008年11月29日、30日の2日間にわたって北京にて開催 |

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議（企画参画助成）〔アジア・大洋州〕

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、世界の知的交流を推進することを目的とした国際的な知的共同事業（国際会議等）に対し、経費の一部を助成する。

合計額 37,959,923 円

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|-------------------|------------------------------|--------|-----------------------------|---|
| 1 | ミンダナオ伝統文化記録プロジェクト | ミンダナオ文化芸術センター | フィリピン | 2008. 07. 01 ～ 2009. 03. 31 | フィリピン・ミンダナオ地方のマギンダナオ族が伝承する祖先との交霊儀礼「イパット」を映像で記録すると同時に、学術比較研究のため関連調査を実施 |
| 2 | アジアにおける日米同盟－課題と展望 | Observer Research Foundation | インド | 2008. 07. 24 ～ 2008. 07. 29 | 大阪大学大学院国際公共政策研究科のロバート・エルドリッジ准教授を招へいし、インド国内の研究者を対象に、日米同盟とそのアジア諸国への影響、および今後の課題と展望をテーマにセミナーを実施 |
| 3 | 第18回世界翻訳大会 | 清華大学外国語学部 | 中国 | 2008. 08. 04 ～ 2008. 08. 07 | 上海で開かれる第18回世界翻訳者連盟大会で日本と中国の翻訳者・研究者を招き、日中間の翻訳について多様な角度から分析・討論するワークショップを開催。大衆文学の翻訳から日中間の文化交流を捉える試み |
| 4 | アチェの児童による文化祭 | Kommunitas Tikar Pandan | インドネシア | 2008. 08. 16 ～ 2008. 08. 20 | 国際交流基金では、文化・芸術による紛争地の復興支援事業として、紛争被害の経験を持つ中学生・高校生を対象とした「アチェの子どもたちと創る演劇ワークショップ」を2007年4月に開催したが、そのフォローアップ事業として前回ワークショップに参加した生徒を再び集め、2008年8月に「アチェ子ども会議」を開催 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|-----------------------|-----------------------|-----------|-------------------------|---|
| 5 | アジアの民間伝承：平和への道 | 国際民間芸術機関フィリピン支部 | フィリピン | 2008.10.01 ～ 2009.03.31 | アジア各国の文化人類学、民族学、民俗学、民族音楽学の専門家、またそのドキュメンターなどが一堂に会し、各国・地域の民間伝承の歴史やアイデンティティ形成との関連性を検討しながら、民間伝承に表現されている平和のメッセージを共有し、調和と平和を基調とする市民社会形成の端緒とする国際会議を実施 |
| 6 | 研究会議「日本近代の形成」 | シドニー大学言語・文化学部日本研究学科 | オーストラリア | 2008.10.01 ～ 2009.07.31 | 1920-50年代に都市インテリ層を読者とした雑誌「新青年」について思想・文学・ジェンダーの観点から検討を行った。研究者によるワークショップの後、概要を英文学術書として出版 |
| 7 | インド経営学院ラクナウ校 | インド経営大学ラクナウ校 | インド | 2008.11.01 ～ 2009.03.31 | 東アジア（日本、中国、台湾、韓国）、タイ、シンガポール、オーストラリア、スウェーデン、インドの研究者を招き、欧米とは異なるアジア型のビジネスモデルについての国際会議を実施 |
| 8 | 韓日連帯21 2008年度ワークショップ | 韓日・連帯21 | 韓国 | 2008.11.08 ～ 2008.11.10 | 「韓日・連帯21」は新たな日韓関係構築のために、両国ナショナリズムを超えての理解や対話が必要であると考え、両国の有志によって2004年度より活動。今回は、これまでの試みに対して自ら点検を行うワークショップを行い、日韓の「戦後」を振り返り、ポストコロナリズムとジェンダーの視点から現状を分析し、日韓の和解のための思考と行動について考察を行った。 |
| 9 | 中国四川大地震復興訪日視察計画 | 中国四川大地震復興支援委員会兵庫神戸事務局 | アジア地域区分困難 | 2008.12.14 ～ 2009.01.17 | 中国四川大地震の被災地から市・県レベルの地方行政トップ（市長・県長）および中国建設部、地震局などの中央政府関係者計160名が2回に分けて、日本の兵庫県、新潟県等の被災地を訪問し、震災復興の経験・ノウハウの交流、防災対策の学習・施設の視察などを行った |
| 10 | 台湾における日本研究調査 | 早稲田大学台湾研究所 | アジア地域区分困難 | 2008.12.01 ～ 2009.06.30 | 台湾の日本研究機関及び日本研究者に対しインタビューを行い、インタビューの結果に基づいて、台湾における日本研究の現状を分析する論文を執筆 |
| 11 | 第5回「北京-東京フォーラム」プレセミナー | 特定非営利活動法人言論NPO | アジア地域区分困難 | 2009.01.01 ～ 2009.03.31 | 金融危機に対処するために、日中両国が協力する可能性及び具体的な方法論などについて日中両国の各分野の知識人が協議し、第5回北京-東京フォーラムの実施を準備 |
| 12 | 学際的視点から読む日本とASEANの関係 | デ・ラ・サール大学日本研究センター | フィリピン | 2009.01.01 ～ 2009.06.30 | 文学、文化研究、移民、自由貿易をキーワードに、日本とASEANが共有する現代の課題について、学際的かつ多角的に議論する国際会議を実施。日本からは、作家／翻訳家と、移民問題の専門家などが参加。 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|------------------------------------|--------------------|-------|-------------------------|---|
| 13 | 日中社会起業家交流プロジェクト：被災地再建の過程での社会起業家の役割 | グローバル・リンクス・イニシアティブ | 中国 | 2009.01.13 ～ 2009.01.18 | 四川大震災の復興活動において、中国の民間組織、特に社会起業家の役割が期待されている。日本（特に関西地域）の経験を現場で学ぶために、2009年1月13日から18日まで中国の社会起業家ら関係者11名が大阪、神戸、京都、横浜、東京を訪問。日中の社会的企業の担い手が現場での経験と知恵を共有し、日中連携による社会的企業の育成を支援 |
| 14 | 変革期の北東アジアと日韓関係 | 慶應義塾大学東アジア研究所 | 日本 | 2009.02.04 ～ 2009.02.06 | 日韓両国の実務者や研究者が集まり、東アジア地域の緊急の課題である北朝鮮の非核化や国際金融危機に対する日韓の協力の方策について議論するシンポジウムを開催 |
| 15 | 世界における日本研究：変り行く日本研究のグローバル・プロフィール | ジャワハルラル・ネルー大学 | インド | 2009.03.06 ～ 2009.03.08 | 日本研究の分野における海外の著名な学者、教育者を招き、日本研究者間の情報共有、ネットワーク形成に資する会議を実施。世界各国における日本研究の現状、世界における日本研究の普及を妨げる要因、外国で実施されている慣習的、また非慣習的な日本研究の手法、インドを含めた途上国における日本研究の普及、日本研究者間のグローバルネットワークの形成などについて議論 |
| 16 | 現代日本セミナー：現代に生きる口承伝統とその現代的意味 | フィリピン大学国際研究センター | フィリピン | 2009.03.12 ～ 2009.03.13 | 口承伝統について、特に東南アジアと日本の天女/天人伝説の比較とその現代的意味に焦点をあてて検証するワークショップ・会議 |
| 17 | 2008年度日本文学・日本文化招待講演 | 韓南大学校文科大学日本語日文学科 | 韓国 | 2009.03.16 ～ 2009.03.19 | 日本古典文学研究者の増田繁夫を招へいし、韓国大田広域市、全羅北道益山市の主要3大学で講演会を実施し、講演者と韓国の日本文学研究者間で、日本文学の現在の研究動向とともに、日本古典文学研究と日本文化研究との関連についての学術交流を実施 |

アジア・大洋州交流事業費

3. 催し等事業費 / (3) 知的交流会議 (主催) [アジア・大洋州]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、世界の知的交流を推進することを目的とした国際的な知的共同事業（国際会議、セミナー、ワークショップ等）を開催する。

合計額 28,807,260 円

| | 事業名 | 対象国 | 共催機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------------------------------|----------|---------------------------------|--------------------------|--|
| 1 | 日中韓次世代リーダーフォーラム2008 | 中国 韓国 | 中華全国青年連合会 韓国国際交流財団 | 2008.07.10 ~ 2008.07.20 | 日中韓の次世代リーダー（政治家、行政官、ジャーナリスト、企業人、研究者等）計17名が各国の諸都市（南通、上海、東京、金沢、釜山、ソウル）で合宿を行いながら討論、専門家との意見交換、文化施設の見学や企業訪問等を行い信頼感を醸成 |
| 2 | インドにおける日本研究促進事業「アジアにおける日米同盟：課題と展望」 | インド | デリー大学 ジャワハルラール・ネルー大学 | 2008.07.28 2008.07.28 | インド国内の研究者を対象に、日米同盟とそのアジアへの影響及び今後の課題と展望をテーマにセミナーをデリー大学、ネルー大学でそれぞれ実施 |
| 3 | アチェの児童による文化祭 | インドネシア | Kommunitas Tikar Pandan | 2008.08.14 ~ 2008.08.22 | 文化・芸術による紛争地の復興支援事業として、紛争被害の経験を持つ中学生・高校生を対象に2007年4月に開催した「アチェの子どもたちと創る演劇ワークショップ」のフォローアップ事業。同ワークショップに参加した生徒を再び集め、2008年8月に開催した「アチェ子ども会議」に花崎攝（教育演劇専門家）を派遣 |
| 4 | 四川地震復興支援事業調査 | 中国 | 兵庫県立舞子高校環境防災科、神戸学院大学防災・社会貢献ユニット | 2008.10.22 ~ 2008.10.29 | 兵庫県立舞子高校環境防災科と神戸学院大学防災・社会貢献ユニットの合同チーム（教員・学生計8名）が阪神淡路大震災の経験を携えて中国・四川大地震の被災地を訪問、被災者を励ますとともに現地の状況を調査 |
| 5 | 日中韓文化交流フォーラム | 韓国 | 韓日文化交流会議 | 2008.11.26 ~ 2008.11.28 | 東北アジア地域で、民間主導の文化交流を積極的に展開・支援し、この地域の共同繁栄と発展に寄与することを目的とする会議の第4回目。本年度は、韓日文化交流会議が韓国・済州島にて主催、国際交流基金が日本側事務局として共催 |

アジア・大洋州交流事業費

| | 事業名 | 対象国 | 共催機関 | 期間 | 事業内容 |
|----|-----------------------------|-----------|---------------------------------|------------------------------|--|
| 6 | 四川地震復興支援調査報告会 | アジア地域区分困難 | 兵庫県立舞子高校環境防災科、神戸学院大学防災・社会貢献ユニット | 2009. 01. 24 2009. 02. 28 | 文化交流による災害復興への貢献の一環として、2008年10月に中国・四川大地震の被災地に派遣した兵庫県立舞子高校環境防災科および神戸学院大学防災・社会貢献ユニットの合同チーム（教員・学生計8名）による帰国報告会を実施 |
| 7 | 中国人研究者グループ招へい | アジア地域区分困難 | | 2009. 02. 15 ～ 2009. 02. 22 | 中国の各分野の中堅研究者・知識人8名をグループで約1週間日本へ招へい。日本の社会と文化を理解してもらい、日中協力ネットワークの構築 |
| 8 | 社会的企業に関する日韓会議 | アジア地域区分困難 | | 2009. 03. 01 ～ 2009. 03. 31 | 日韓両国の社会的企業（社会的な目的のために事業を行う非営利企業）の専門家・実践者による専門家会議と公開シンポジウム。日韓の社会的企業をとりまく状況の相違点と類似点を認識したうえで、社会的企業の発展に向けた日韓双方、あるいは共同での取り組みのあり方を報告・提言化する2年継続事業 |
| 9 | 日中科学フォーラム「2008四川大地震と自然災害防災」 | 中国 | 日本学術振興会 中国地震局 | 2009. 03. 09 ～ 2009. 03. 10 | 2008年5月に発生した四川大地震を契機に「地震学的・地質学的特徴」、「構造物被害および斜面崩壊と復旧」、「被災地社会の復旧・復興」等の分野で研究実績を有する日中の研究者が集まり最新の成果を報告するとともに、中長期的観点から今後の共同研究の方向を議論するフォーラムへ日本人研究者、専門家を派遣 |
| 10 | 中国人研究者個人招へい | アジア地域区分困難 | | 2009. 03. 18 ～ 2009. 03. 31 | 中国の各分野の指導的な研究者・知識人5名を1カ月から半年までの期間日本に招へい。日本滞在を通じて、等身大の日本を理解してもらい、日中学術交流のネットワークを構築 |

3. 催し等事業費 / (4) アジア地域研究センター支援 (催し等)

東南アジア諸国における東南アジア研究の促進と各機関の学術ネットワークの構築を目的として、東南アジアの研究者を支援する助成プログラムの運営と、東南アジア研究の基盤強化事業を実施する。

合計額 19,313,428 円

| | 事業名 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------------|-------------------------|---|
| 1 | 東南アジア研究地域交流プログラム | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 東南アジア人による東南アジア研究を促進するため、国際交流基金とトヨタ財団とが共同でSEASREP財団（本部：マニラ）に対して支援を実施している。 東南アジア研究者間の相互理解の促進とネットワーク構築を支援することにより、東南アジア地域における東南アジア研究を推進。 |

アジア・大洋州交流事業費

4. 文化資料事業費 / (1) 図書寄贈 [アジア・大洋州]

海外の日本研究・教育機関の図書館及び大規模公共図書館に対し、日本関係図書を寄贈する。

合計額 609,906 円

| | 事業名 | 対象国 | 対象機関 | 部数 | 期間 | 事業内容 |
|---|-----------------|-----|---------|-----|-------------------------|---------------------------------------|
| 1 | 渡辺健基金記念 図書寄贈 | 中国 | 天津社会科学院 | 195 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 渡辺健基金の運用益にて、中国天津の社会科学院に対して日本研究関連図書を寄贈 |

日本研究・知的交流事業に必要な経費

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究調査〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究組織強化支援（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究機関支援〔欧州・中東・アフリカ〕

2. 人物交流事業費

- (1) 日本研究フェローシップ（学者・研究者）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究フェローシップ（短期）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (4) 知的リーダー交流（招へい）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (5) 知的リーダー交流（派遣）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (6) 知的交流フェローシップ（招へい）〔欧州・中東・アフリカ〕

3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 知的交流会議（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究調査 [欧州・中東・アフリカ]

世界の主要な地域の日本研究機関を調査し、日本研究機関と研究者のディレクトリーを作成する。

合計額 4,194,807 円

| | 事業名 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|-----------|----------|-------------------------|---------------------------|
| 1 | ディレクトリー出版 | 欧州地域区分困難 | 2008.04.01 ~ 2008.12.31 | 欧州日本研究調査に関する結果を報告書にまとめ刊行。 |

1. 日本研究事業費 / (2) 日本研究組織強化支援 (助成) [欧州・中東・アフリカ]

国境・学問分野を越えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 32,851,272 円

| | 対象機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|---------------------|----------|-------------------------|--|
| 1 | 英国日本研究協会 | 英国 | 2008.04.11 ~ 2008.04.12 | 英国日本研究協会の年次総会開催経費を支援。 |
| 2 | ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS) | 欧州地域区分困難 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 欧州随一の日本研究者の協会。事務局経費、ホームページ経費、会報発行経費などの経常費を支援。そのほか、3年に一度の総会開催 (2008年9月、サレント大学 (イタリア・レッツェ市)) 経費の一部を支援。 |
| 3 | トルコ日本研究学会 | トルコ | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本及びトルコ国内からスピーカーを招き、全4回の日本研究学会を実施。 |
| 4 | フランス日本研究学会 | フランス | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | フランス唯一の日本研究学会による2年に1度の会議で、フランス内外の日本研究ネットワーク (日本研究者、研究機関間) の一層の強化を図る。今回は「多角的視座から見た日本の近代」という全体テーマのもと、共同研究によるパネル発表、シンポジウム等を実施。 |
| 5 | ロシア日本研究者協会 | ロシア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 事務局経費、紀要編集・出版、教科書作成、ウェブサイト運営経費等を含む支援。 |
| 6 | 日本資料専門家欧州協会 (EAJRS) | 欧州地域区分困難 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本資料に携わる司書・学芸員・研究者の協会。日本関連資料の情報を収集し、ネットワーク化を図る。毎年総会でテーマが設定され、今回のテーマは、イベリア半島 (ポルトガル) にある資料や関係者の情報共有化、及び日本近隣 (韓国、台湾) での日本資料・関係者の情報共有化。 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 対象機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|--------------------------------|-----|-------------------------|---|
| 7 | ジャパン・ライブラリー・グループ天理ワークショップ準備委員会 | 英国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 2007年度より天理大学において、海外の日本研究司書を対象に古典籍を中心とする3年継続の研修を実施。海外の司書約20名が参加。 |

1. 日本研究事業費 / (3) 日本研究機関支援 [欧州・中東・アフリカ]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的且つ中長期的に行い、当該国の日本研究基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 45,650,234 円

| | 事業名 | 機関所在国 | 期間 | 事業内容 |
|---|------------|--------|-------------------------|--|
| 1 | アイスランド国立大学 | アイスランド | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本研究関連の図書寄贈。 |
| 2 | ヴェネチア大学 | イタリア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 古典日本語授業担当講師の人件費助成、集中講座「漢学教育：その過去と未来」への助成、及び日本研究関連の図書寄贈。 |
| 3 | ミラノ国立大学 | イタリア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 現代日本政治外交研究者への給与助成、及び日本研究関連の図書寄贈。 |
| 4 | マンチェスター大学 | 英国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本研究関連の図書寄贈。 |
| 5 | シェフィールド大学 | 英国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | ミュンヘン大学、ライデン大学、リーズ大学、シェフィールド大学の4機関による「現代日本研究ネットワーク」事業への助成、及び日本研究関連の図書寄贈。 |
| 6 | リーズ大学 | 英国 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | ミュンヘン大学、ライデン大学、リーズ大学、シェフィールド大学の4機関による「現代日本研究ネットワーク」事業への助成。 |
| 7 | ライデン大学 | オランダ | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | ミュンヘン大学、ライデン大学、リーズ大学、シェフィールド大学の4機関による「現代日本研究ネットワーク」事業への助成、及び日本研究関連の図書寄贈。 |
| 8 | ミュンヘン大学 | ドイツ | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | ミュンヘン大学、ライデン大学、リーズ大学、シェフィールド大学の4機関による「現代日本研究ネットワーク」事業への助成、及び日本研究関連の図書寄贈。 |
| 9 | バルセロナ自治大学 | スペイン | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本研究関連の図書寄贈。 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 対象機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|--------------------------|---------|-------------------------|---|
| 10 | サラマンカ大学 | スペイン | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 国際関係論分野の客員教授を日本から派遣。日本研究関連の図書寄贈。 |
| 11 | 国立政治学院 | フランス | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本から客員教授の派遣。 |
| 12 | ルーヴァン・カトリック大学 | ベルギー | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本研究関連の図書寄贈。 |
| 13 | タシケント国立東洋学大学 | ウズベキスタン | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 思想文化史専門の客員教授を日本から派遣。 |
| 14 | ザグレブ大学哲学部 | クロアチア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本文学専門の客員教授を日本から派遣。日本研究関連の図書寄贈。 |
| 15 | コメンスキー大学 | スロバキア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本研究関連の図書寄贈。 |
| 16 | ソフィア大学 | ブルガリア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 言語学・日本語学の授業を担当する助教授の人件費助成。 |
| 17 | 極東国立総合大学東洋学大学 | ロシア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本の大学・研究機関における資料収集への支援。 |
| 18 | 北東アジア諸国現代研究センター | ロシア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本研究関連の図書寄贈。 |
| 19 | ヘブライ大学東アジア学科 | イスラエル | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 「第7回イスラエル・アジア研究学会」への助成、及び日本からの客員教授の派遣。 |
| 20 | バグダッド大学 | イラク | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本史関係を中心とした日本研究関連の図書寄贈。 |
| 21 | テヘラン大学 | イラン | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本文学及び文学史授業を担当する日本人講師の人件費助成、及び日本研究関連の図書寄贈。 |
| 22 | ダマスカス大学 | シリア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本から客員教授を派遣し日本研究方法論に関する講義を実施、及び日本研究関連の図書寄贈。 |
| 23 | ボアジッチ大学 | トルコ | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本研究関連の図書寄贈。 |
| 24 | アインシャムス大学外国語学部 | エジプト | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本から客員教授を派遣し日本文化論の講義及び論文指導を実施。日本研究関連の図書寄贈。 |
| 25 | エオトヴェシ・ロラーンド大学 (ELTE) | ハンガリー | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 国文学者の故福田秀一氏の遺族から寄贈された蔵書約2,000冊の送料の助成。 |

2. 人物交流事業費 / (1) 日本研究フェローシップ (学者・研究者) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 49,321,367 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|---|-------------------------------|--|---------|------------------------|-------------------------|--|
| 1 | MWAIGOMOLE, Emmanuel Asukenye | ダルエスサラーム大学開発研究所 | タンザニア | 神戸大学 | 2007.05.29 ~ 2008.04.28 | 経済発展のための公私協働 |
| 2 | SHEVTSOVA, Galyna Viktorovna | キエフ国立建設・建築大学建築 助教授 | ウクライナ | 近畿大学 | 2007.06.28 ~ 2008.06.26 | 日本・ウクライナの木造建築の技法と初期形成過程の比較研究 |
| 3 | RASULOV, Abdujabar | 世界経済外交大学数理経済学科教授 (副学長兼務) | ウズベキスタン | 早稲田大学 | 2007.08.15 ~ 2008.07.14 | 中央アジアにおける実証経済分析のための数学的手法の応用研究 |
| 4 | MADSEN, Yasuko | イェーテボリ大学東洋アフリカ言語学科 教授 (文学博士) | スウェーデン | 琉球大学 | 2007.09.01 ~ 2008.08.31 | 琉球方言におけるイントネーション体系の研究 |
| 5 | PIERCONTI, Jong Kuk Mauro | ヴェネチア建築大学 博士課程 | イタリア | 東京大学 | 2007.09.02 ~ 2008.08.29 | 白井晟一と日本現代建築 (1905-1983) |
| 6 | DOMENIG, Roland | ウィーン大学東アジア研究所 講師 | オーストリア | 明治学院大学 | 2008.02.03 ~ 2009.01.31 | 日本におけるスクリーンプラクティス (映写文化活動) 1800~1920 |
| 7 | BREEN, John Lawrence | ロンドン大学 SOAS 日本研究センター 教授 | 英国 | 京都大学人文科学研究所 | 2008.03.03 ~ 2008.07.22 | 日吉大社：近世、近代現代日本における神社と神道を吟味する |
| 8 | VOROS, Mihaly Laszlo | 近代経営学術大学国際経済学科 教授 | ハンガリー | 早稲田大学 | 2008.03.18 ~ 2009.03.17 | 日本における農村社会の形成に関する研究：中東欧の持続可能な農村開発に対する政策的含意 |
| 9 | KOMORI, Naoko | 英国マンチェスター・ビジネス・スクール (投資リスク研究所) 会計・財務 研究員 | 英国 | 同志社大学ワールドワイドビジネス研究センター | 2008.03.30 ~ 2008.09.29 | グローバリゼーションの日本企業・社会の影響；会計基準調和化が日本企業のコーポレート・ガバナンスに与える影響とグローバリゼーションによる金銭教育 (フィナンシャル・リテラシー) の重要性 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|--|------------------------------------|--------|-------------------------|-------------------------|--|
| 10 | RAKOTOMANANA, Solofoniaina Ambinintsoa | アンタナナリボ 大学 日本語教師 | マダガスカル | 広島大学 | 2008.06.04 ~ 2009.03.16 | 日本のテレビコマーシャルとマダガスカルテレビコマーシャルから見たコミュニケーションの比較研究 |
| 11 | KORDZINSKA- NAWROCKA, Iwona | ワルシャワ大学 東洋学研究所 准教授 | ポーランド | 信州大学 | 2008.06.15 ~ 2008.09.29 | 日本古典文芸における人間像の研究 |
| 12 | SIDERER, Yona | ヘブライ大学東 アジア学科 上級講師 | イスラエル | 東京工業大学 | 2008.07.04 ~ 2009.01.03 | 近代日本化学史の研究 |
| 13 | MALININA, Elizaveta Evgenyevna | ノボシビルスク 国立総合大学 助教授 | ロシア | 花園大学 | 2008.08.01 ~ 2009.03.31 | 禅の世界観の構造における芸術の意義と役割 |
| 14 | LEINSS, Gerhard | チューリッヒ大 学 講師 | ドイツ | 京都大学 | 2008.08.28 ~ 2009.08.06 | 日本の暦の文化史的研究 |
| 15 | PESTUSHKO, Yuri Sergeevich | 極東国立人文大 学 准教授 | ロシア | 名古屋大学大学 院国際開発研究 科 | 2008.09.01 ~ 2009.08.31 | 20世紀初頭の日露関係史 |
| 16 | LESHCHENKO, Nelli Fedorovna | ロシア科学アカ デミー東洋学研 究所 上級研究員 | ロシア | 早稲田大学 | 2008.09.28 ~ 2009.03.26 | 徳川将軍15代、時代背景を映し出す肖像画 |
| 17 | SZOMMER, Gabor | アレクサンドラ 出版社 編集者 | ハンガリー | 中央大学 | 2008.10.01 ~ 2009.03.31 | 日本におけるオランダ商館の情報システム (1608-1641) |
| 18 | KLIMOV, Vadim Yurievich | サンクトペテル ブルク大学 助教授 | ロシア | 東京大学 | 2008.10.03 ~ 2009.08.02 | 19世紀初めのロシアと日本に関する史料の研究 |
| 19 | BREZANI, Peter | スロバキア外交 政策協会研究セ ンター アナリスト | スロバキア | 東京大学 | 2009.01.16 ~ 2009.03.15 | 北朝鮮の未来に対する日本の役割は何か? 6カ国協議とその後 |

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ (論文執筆) [欧州・中東・アフリカ]

人文・社会科学の研究者で博士論文作成のため来日する必要があるものを招へいする。

合計額 41,775,202 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|----------------------------|------------------------------------|--------|---------|-------------------------|--|
| 1 | KOZIOL, Gabriele | マックス・プランク外国法・国際私法研究所 博士課程 | オーストリア | 京都大学 | 2008.03.15 ~ 2008.11.21 | 担保としての知的財産ライセンス |
| 2 | SCHERLING, Johannes | グラーツ大学 博士課程 | オーストリア | 南山大学 | 2008.05.13 ~ 2008.11.07 | 日本語における英語由来外来語の語用論 |
| 3 | STEVENS, Merieke | ケンブリッジ大学 博士課程 | オランダ | 東京大学 | 2008.06.01 ~ 2008.10.01 | 供給者関係の原動力：日産とルノーにおけるSCM (サプライ・チェーン・マネジメント) への集中 |
| 4 | HAFEZ, Naglaa Fathy | 芸術アカデミー 言語翻訳研究センター 日本研究科 准講師 | エジプト | 東京大学 | 2008.06.02 ~ 2009.08.01 | 近代日本演劇における『千夜一夜物語』 (戦後演劇について) |
| 5 | PUTNAM, David Jerome | チューリッヒ大学 博士課程 | スイス | 立命館大学 | 2008.06.17 ~ 2009.08.16 | 道成寺伝説の様々な実体化において「変身」という概念 |
| 6 | PATARI, Juho Matti | ヘルシンキ大学 アジア・アフリカ研究所 大学院生 | フィンランド | 明治学院大学 | 2008.08.05 ~ 2009.04.15 | 東京のホームレスの社会相関学 |
| 7 | GRIKUN, Yuliya | キエフ国立原語 大学哲学部 大学院生 | ウクライナ | 国際基督教大学 | 2007.08.29 ~ 2008.10.28 | グローバル社会における異文化コミュニケーションに関する日本とウクライナの比較研究：国際化の時代において伝統主義や民族意識はいかに保たれるのか |
| 8 | KARPOLUK, Jakub Aleksander | ポーランド国立 学問学院芸術研究所 博士課程 学生 | ポーランド | 早稲田大学 | 2007.08.31 ~ 2008.07.31 | 日本演劇の日本映画への影響 |
| 9 | EHLERS, Maren Annika | プリンストン大学 東アジア研究 | ドイツ | 大阪市立大学 | 2007.09.01 ~ 2008.08.15 | 徳川時代の貧民救済：大野藩の事例 |
| 10 | CIUBANCAN, Magdalena | バベシュ・ボヨイ大学 言語学 講師補助 | ルーマニア | 神戸大学 | 2007.09.04 ~ 2008.06.30 | 日本のメディアにおける使役の表現 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入機関 | 期間 | 研究テーマ |
|----|--|--|-------|-----------------------------|-------------------------|------------------------------------|
| 11 | KASZA, Justyna Weronika | リーズ大学 博士課程学生 | 英国 | 上智大学 | 2008.09.18 ～ 2009.09.15 | 遠藤周作の文学における悪の問題 |
| 12 | TUCK, Robert James | コロンビア大学 大学院生 | 英国 | 早稲田大学 | 2008.09.25 ～ 2009.11.23 | 明治時代における詩歌、小説とジャンル：鷗外、漱石、子規 |
| 13 | WOLSKA- LENARCZYK, Joanna Kamila | ヤギェウオ大学 文献学部東洋学 研究所日本中国 学科 博士論文執筆者 | ポーランド | 東京大学文学 部・大学院人文 社会系研究科 | 2007.09.28 ～ 2008.11.27 | 三島由紀夫の『豊饒の海』における美学と道徳の規範 |
| 14 | GAITANIDIS, Ioannis | ロンドン大学 博士課程学生 | 英国 | 駒沢大学 | 2008.09.30 ～ 2009.11.29 | 宮崎県におけるシャーマンの社会医療的な役割 |
| 15 | MAJSTORAC KOBILJSKI, Aleksandra | ニューヨーク市 立大学大学院セ ンター 博士課程 | セルビア | 同志社大学 | 2008.10.01 ～ 2009.09.23 | 京都とバイルートにおける近代化～キリスト教の大学を 事例として |
| 16 | EL-AMIR, Nilly, Kamal | カイロ大学政治 経済学部アジア 研究センター 研究者 | エジプト | 早稲田大学 | 2007.10.29 ～ 2008.12.29 | 環境安全保障に対する見解：日米対照研究 |
| 17 | SWITEK, Beata | ロンドン大学 博士課程学生 | 英国 | 早稲田大学 | 2008.11.27 ～ 2010.01.26 | 在日インドネシア系移民の社会政治学的アイデンティ ティ |

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェローシップ(短期) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査を行う機会を提供する。

合計額 6,025,900 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 受入期間 | 期間 | 研究テーマ |
|---|------------------------------|----------------------------|-------|------|-------------------------|--------------------------------------|
| 1 | GALAN, Nataliya | ドニエプロペトロフスク国立大学国際経済学部准教授 | ウクライナ | | 2008.05.20 ~ 2008.06.21 | 日本における知識ベース企業家精神 |
| 2 | MOGHADDAM KIYA, Reza | テヘラン大学外国語学部日本研究学科長 | イラン | 大阪大学 | 2008.07.03 ~ 2008.08.29 | 日本人のペルシア語学習者およびイラン人の日本語学習者の発音誤用の比較研究 |
| 3 | MANSOURI, Mabrouk | スース大学人間社会科学学科准教授 | チュニジア | | 2008.07.21 ~ 2008.08.31 | チュニジアと日本における宗教とアイデンティティ：イスラムと神道を中心に |
| 4 | BAR-ON COHEN, Einat | ヘブライ大学社会学人類学部 | イスラエル | | 2008.10.01 ~ 2008.11.29 | ヘリーゲルの足跡：現代日本の弓道 |
| 5 | DIMITROVA, Stefania Todorova | 文化交流学「Madara-Bulgaria」基金会長 | ブルガリア | | 2008.12.23 ~ 2009.02.20 | 日本の高校生の社会的能力 |
| 6 | HENNART, Jean-François | ティルブルフ大学 教授 | オランダ | | 2009.03.05 ~ 2009.05.03 | 米国製造業に対する日本の直接投資の歴史 |

2. 人物交流事業費 / (4) 知的リーダー交流 (招へい) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の政治、経済、労働、メディア、教育等の各分野で影響力を有する人材を招へいし、日本側関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 3,686,760 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|-----------------------|------------|-------|-------------------------|---|
| 1 | ESTERHÁZY, Péter | 作家 | ハンガリー | 2009.02.04 ~ 2009.02.12 | ハンガリー文学を代表する作家であるエステルハージ・ペーテル及びヴィクトリア・エシュバツハ・サボー (Viktoria Eschbach=Szabo: テュービンゲン大学日本学科教授) を招へいし、東京 (2月11日) 及び大阪 (2月8日) において東欧文学に関するシンポジウムを実施。 |
| 2 | Dr. AMELI, Saied Reza | テヘラン大学 副学長 | イラン | 2009.02.22 ~ 2009.03.02 | テヘラン大学大学院にて日本研究コースの開設に向けて準備作業が進展する中で、同コース開設における最高責任者であるアーメリー副学長を日本に招へいし、日本の研究機関や研究者との知的ネットワーク構築を支援。 |

2. 人物交流事業費 / (5) 知的リーダー交流 (派遣) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の知的対話の促進と、知的リーダー間のネットワークの構築、強化を推進するため、日本から知的リーダーを海外に派遣し、関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 6,039,934 円

| | 事業名 | 氏名 | 現職 | 対象国 | 対象機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|-------------------------------|------------------------|--|------|------------------|-------------------------|---|
| 1 | IISSグローバル・ストラテジック・レビュー2008 | 宮家 邦彦 村田 晃嗣 | AOI外交政策研究所 代表 同志社大学法学部 教授 | スイス | 国際戦略問題研究所 (IISS) | 2008.09.11 ~ 2008.09.16 | 国際戦略問題研究所 (IISS) 主催の会議。各国閣僚、政府関係者、有識者が参加し「グローバル・パワーの変容と紛争解決」について討議。 |
| 2 | 東アジア戦略セミナー | 浦田 秀次郎 神保 謙 田中 均 | 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授 慶應義塾大学准教授 財団法人日本国際交流センター シニア・フェロー | フランス | 国防高等研究所 (IHEDN) | 2008.11.12 ~ 2008.11.13 | 国防高等研究所 (IHEDN) 主催。日本、東アジア、欧州の専門家が一同に会し、東アジアの戦略的開発、アジアの経済的挑戦や安全保障、地域組織の役割などについて討議。 |
| 3 | 日英気候変動セミナー「気候変動：新たな展望」 | 藤野 純一 | 国立環境研究所 主任研究員 | 英国 | クライメート・ストラテジーズ | 2008.12.15 | 気候変動問題について、交渉関係者、専門家等がCOP14終了直後の国際交渉の現状を確認し、COP15に向けた国際交渉の展望、排出削減の中長期目標のあり方等に関して意見交換。 |
| 4 | 国際会議「途上国におけるシンクタンクの役割：課題と解決策」 | 加藤 普 | 総合研究開発機構 (NIRA) 理事 | エジプト | 情報・政策決定支援センター | 2009.01.15 ~ 2009.01.20 | 途上国による新たなイニシアティブとして、途上国のシンクタンク間の連携を深化すると同時に、先進国や国際機関からも参加者を迎え、シンクタンクの抱える課題や問題点について討議。 |

2. 人物交流事業費 / (6) 知的交流フェローシップ (招へい) [欧州・中東・アフリカ]

日本において人文・社会科学分野の研究を行う諸外国の研究者にフェローシップを供与する。

合計額 36,343,306 円

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 期間 | 研究テーマ |
|----|--------------------------------------|-----------------------|----------|-------------------------|--|
| 1 | RATZ, Tamara | コドラーニィ・ヤーノシュ大学 学部長 | ハンガリー | 2008.03.17 ~ 2008.04.18 | 健康志向レジャーの社会経済的環境の 側面 |
| 2 | BEN HAJ REHAJEM, Jalel | ガベス大学 准教授 | チュニジア | 2008.08.11 ~ 2008.09.24 | 北東アジアにおける日本の安全保障上 の役割：台湾交流協会日本事務所を中 心に |
| 3 | RANDRIANARY, Alice Marie Jocelyne | 週刊MIDI 編集長 | マダガスカル | 2008.08.12 ~ 2008.09.29 | 観光の潜在性：日本のケース |
| 4 | SABIROV, Farkhod | 社会経済研究センター 国際関係 課長 | ウズベキスタン | 2008.08.15 ~ 2008.10.08 | 国際安全保障と核・生物・化学 (NBC) テロリズム |
| 5 | RADHI, Sameer Jasam | バグダッド大学 教授 | イラク | 2008.08.21 ~ 2008.10.09 | イラク復興への日本の役割の研究 |
| 6 | BUTROS, Raghda Albert | ルワッド 所長 | ヨルダン | 2008.09.06 ~ 2008.10.08 | 日本における変化の担い手としての社 会企業家：アラブ世界との経験の共有 |
| 7 | AHOURE, Alban Alphonse Emmanuel | 国立ココディ大学 准教授 | コートジボワール | 2008.09.14 ~ 2008.11.12 | 外国人労働者の送金と経済発展および 日本の賃金制度と労働者の内発的・外 発的満足度の研究 |
| 8 | RASULOV, Ulugbek Abdujabarovich | ウズベキスタン民族大学 講師 | ウズベキスタン | 2008.10.20 ~ 2008.11.20 | 農・産業クラスターをベースにした経 済発展問題 (日本の経験から) |
| 9 | POPOV, Andrei Mihai | モルドバ外交政策協会 理事 | モルドバ | 2008.10.27 ~ 2008.12.15 | トランスニストリアの紛争解決に向け て |
| 10 | RAHMANI, Abdul Latif | カブール大学 准教授 | アフガニスタン | 2008.10.30 ~ 2008.12.13 | 日本の現行憲法制度とアフガニスタン における制度との比較研究 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 期間 | 研究テーマ |
|----|--|---|--|-----------------------------|--|
| 11 | 【中東グループ研修】 Ali Ali ABDULLAH Mohammad DADKHAH TEHRANI Mostafa MEHRAEEN Mohammed Shaaban EL-SAYYID Vivian TURK Ozgur SARI Amna Hamad AL-ROMAIHI Majeed Safar JASIM Sam A.F. ALFOQAHA Raed Fawzi IHMOUD Tayseer Yousef ABU ODEH Lara Mansour CHAHOUD Aomar MOHELLEBI Sidi Mohammed MOHAMMEDI Abdelhamid ADDI | 国家開発計画省モニタリング評価 部長 テルビヤット・モダッレス大学 工学研究科 博士課程 ホメイニー研究センター社会科学 部局 教授 オプシオンワン・インターナシヨ ナル 建築士 ダマスカス大学言語研究所 講師 中東工科大学社会学部 ティーチ ングアシスタント バーレーン研究センター准研究員 バーレーン大学化学工学部准教授 ナジャフ大学マーケティング学部 経済行政学科 講師 アラブ戦略研究所 研究員兼副所 長 ヨルダン大学文学部英文学科 講師 レバノン大学 社会調査員 レクスプレッション紙 記者 社会文化人類学研究センター 研究員 ムハンマド5世大学経済学部 修士課程 | イエメン イラン イラン クウェート シリア トルコ バーレーン バーレーン パレスチナ ヨルダン ヨルダン レバノン アルジェリア アルジェリア モロッコ | 2008. 11. 10 ～ 2008. 11. 29 | 「開発と社会」をテーマに中東・北ア フリカより研究者・行政官・ジャーナ リスト等を15名招へいし、3週間の訪日 グループ研修を実施。日本における戦 後の貧困克服や外交政策、日本の経済 思想の形成、現在の高齢化社会への取 り組み、またそれらに影響を与える日 本人の宗教観と国家観を学ぶことによ り、日本社会への包括的な理解を深 め、中東・北アフリカ地域における日 本研究促進へ寄与。 |
| 12 | ABBASOVA, Sabina Kilindjkan | 科学的調査・訓練センター 上級主専門家 | アゼルバイジャン | 2009. 01. 10 ～ 2009. 02. 21 | 人口学的発展及び可視的傾向 |
| 13 | BAYER, Judit | King Sigismund College 准教授 | ハンガリー | 2009. 01. 26 ～ 2009. 03. 09 | 日本におけるモバイルコンテンツの 利用と法規制 |
| 14 | SERFATI, Chakib | 農業・海洋漁業省海洋漁業庁 漁業調査官 | モロッコ | 2009. 01. 31 ～ 2009. 03. 10 | モロッコの沿岸地域管理政策:モロッ コ・日本の比較研究 |
| 15 | BORSI, Balazs | GKI経済研究所 主任研究員 | ハンガリー | 2009. 02. 01 ～ 2009. 03. 08 | 日本の技術開発研究所の運営における よい事例 |
| 16 | MAHGOUB, Mohamed Elamin Elbushra | 内務省刑事裁判大学 コンサルタント | アラブ首長国連 邦 | 2009. 02. 23 ～ 2009. 04. 14 | 「国際テロリズムの中のジハード」研 究 |
| 17 | REPECKAITE, Daiva | アドジママス ウィークリー 特派員・編集員 | リトアニア | 2009. 03. 03 ～ 2009. 05. 01 | 日本人の移民及びその空間、ジェン ダー、危険の認知 |
| 18 | LAUFER, Laszlo | ブダペスト工業経済大学 講師助手 | ハンガリー | 2009. 03. 20 ～ 2009. 05. 18 | 介助器具利用に関する心理学的、文化 的側面 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 氏名 | 現職 | 対象国 | 期間 | 研究テーマ |
|----|---------------|-------------------------|-----|-------------------------|-----------------------------------|
| 19 | HYNEK, Nikola | 国際関係研究所 リサーチフェ ロー | チェコ | 2009.03.26 ~ 2009.04.27 | 日本における人間の安全保障のパラ ダイム-戦略、問題、履行- |

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議、セミナー、ワークショップ等）を開催する。

合計額 40,224,704 円

| | 事業名 | 対象国 | 共催・協力機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|----------------------------|--------------------|----------------------|-------------------------|--|
| 1 | ゲーテ・インスティトゥート主催会議「国独自の文化」 | ドイツ | ゲーテ・インスティトゥート | 2008.04.24 ～ 2008.04.26 | ゲーテ・インスティトゥート主催の会議「国民文化再考—国境の中の文化の現代的理解に向けて」の中の1フォーラム「フォーラムⅢ：アジアにおける国民文化と地域統合」の準備とパネリストの派遣。 同会議では、現代の人々のアイデンティティが、地方や国、文化との関係でどのように形成されているかという問題を、西欧・東欧やアジアから識者が集まり様々な角度から討議。 |
| 2 | 「オルハン・パムクとの対話」講演会 | 日本 | 青山学院大学総合文化政策学部 | 2008.05.15 | 世界的に著名なトルコ人作家で、2006年にノーベル賞を受賞したオルハン・パムク来日の機会を捉え、文学の分野において日・トルコ間の交流及び相互理解を促進するため、青山学院大学にて講演会と辻井喬との対談を実施。 |
| 3 | 日露知的対話事業 | 日本 | 社会計画研究所 日本放送協会 | 2008.05.22 | メドベージェフ大統領によるロシア新政権のブレイン集団である「11月4日クラブ」の主要メンバーが来日する機会を捉え、日本国内で知的対話を行うことにより新政権の方向性につき聴取すると共に、現代日本の状況を理解する機会を提供し、日露の新たな知的交流のネットワークを構築。 |
| 4 | アルザス日欧知的交流事業／日本研究セミナー「江戸2」 | フランス | アルザス・欧州日本学研究所（CEEJA） | 2008.09.26 ～ 2008.09.27 | 欧州域内若手日本研究者による合宿形式のセミナー。アルザス欧州日本学研究所（CEEJA）との共催。欧州内日本研究者のネットワーク構築と当該テーマにおける汎領域的研究の深化を目指す。本年度のテーマとして「江戸」を設定、講師として田中優子（法政大学教授）を派遣。 |
| 5 | 中東巡回知的交流セミナー | イラン シリア ヨルダン | | 2008.10.19 ～ 2008.10.26 | 中東各国の関心層（研究者、ビジネスマン、学生）を対象に、日本の労働問題・家族政策・男女共同参画・少子化対策等をテーマとする研究者2名、および中東の女性問題に詳しい研究者1名を日本から派遣し、セミナーを実施。 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 事業名 | 対象国 | 共催・協力機関 | 期間 | 事業内容 |
|----|-----------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--|
| 6 | 日ロ文学対談 | ロシア | 光文社 毎日新聞社 | 2008.10.24 ～ 2008.10.25 | 亀山郁夫（東京外国語大学学長）をモスクワに派遣し、講演会とロシア人作家ボリス・アクーニンとの公開対談を実施。「グローバル化時代に生きつづけるドストエフスキー」をテーマに、日本でのロシア文学の受容の歴史と、現代日本におけるドストエフスキー熱について討議。 |
| 7 | アニメ・シンポジウム | ドイツ | 35MM（映画館） ベルリン日独センター | 2008.10.30 ～ 2008.10.31 | ドイツのベルリン日独センターと共催で、国際シンポジウム「グローバル文化としてのアニメ」を開催。グローバルな規模でもっとも普及しているアニメであるセル・アニメーションを技法的基盤としてきた映像メディアを取り上げる。制作および鑑賞のグローバル化、「日本性」の役割を、日独両国の研究者、アニメ製作関係者が多角的に議論。 |
| 8 | 中東欧日本研究巡回セミナー | クロアチア スロベニア ポーランド | | 2008.11.13 ～ 2008.11.22 | 中東欧諸国では未だ発展途上の社会科学分野の日本研究に知的刺激を与えるべく、2008年11月13日～22日の10日間、スロベニア・クロアチア・ポーランドの4大学に政治学、社会学の学者を派遣し、各地で講演・質疑応答を実施。 |
| 9 | ザルツブルク・グローバルセミナー報告研究会 | 日本 | ザルツブルクセミナー | 2008.12.05 | オーストリアの代表的知的交流機関であるザルツブルク・グローバルセミナーのセッション455「平和創造と平和構築：女性とシビル・ソサエティの貢献の確保」に企画参画型助成で支援し、日本から専門家3名を派遣した。帰国後、参加者が基金本部において公開のセミナーを開催し、成果を発表。 |
| 10 | ラウンドテーブル「文化が創る平和」 | 日本 | ゲーテ・インスティトゥート | 2008.12.08 ～ 2008.12.09 | 国際交流基金およびゲーテ・インスティトゥートの過去数年の事業の中から紛争地における活動を洗い出し、「国際文化交流事業が平和構築において果たし得る役割」を積極的に評価し、議論を行う。2009年5月の公開シンポジウムの準備会合として、今年度は非公開ラウンドテーブルを東京にて開催。 |
| 11 | モスクワ日本研究講演会 | ロシア | | 2008.12.18 | ヨーゼフ・クライナー（法政大学特任教授）と田中優子（法政大学教授）をモスクワに派遣し、古代日本人、帰化人、アイヌや琉球・沖縄民族などにみられる日本文化の中の様々な「異文化」の諸相や、異質に見えつつも現代日本文化の基層を成す江戸時代におけるポップカルチャーなどを紹介。またロシア日本研究者協会のドミトリー・ストレリツォフ会長も交えて討議。 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 事業名 | 対象国 | 共催・協力機関 | 期間 | 事業内容 |
|----|--|-------|-------------------------|-----------------------------|--|
| 12 | 多元性へーグローバルゼーションとアイデンティティ | 日本 | | 2009. 02. 06 | ミッテラン大統領政権を通じて文化大臣を務め、21世紀の今日も現代社会について積極的な発言・活動を繰り広げているジャック・ラングを日本に招へい。グローバルゼーション、伝統文化、文化的多様性、地域・国・地方のアイデンティティ、多極化する世界、などのテーマをめぐり、芳賀徹(京都芸術造形大学名誉学長)、小倉和夫(国際交流基金理事長)等とのパネル・ディスカッションを実施。 |
| 13 | 知的交流セミナー：女性をめぐる問題について | オマーン | スルタンカブース大学 | 2009. 02. 13 ~ 2009. 02. 21 | 遠山敦子(新国立劇場運営財団理事長)を講師として派遣し、スルタンカブース大学の協力のもと、日本の教育制度や文化、女性の社会進出に関して自身の体験もふまえた講義を実施。オマーンの女性指導者との会談や知的交流機関を訪問する機会を設け、両国の知的交流に関して意見交換を実施。 |
| 14 | 日本・アフリカ報道関係者会議 - 日本・アフリカ関係の新たな展望：さらなる相互理解に向けての課題と報道の役割 | カメルーン | | 2009. 03. 04 | 日・アフリカ双方の報道関係者及び学者が、両国の報道、さらには今後の日・アフリカの相互理解に向けた課題と報道の役割について議論する国際会議を実施。また会議終了後には、日本側参加者による特別講義を現地大学にて実施。 |
| 15 | ロシア日本理解講座 | ロシア | ロシア国立外国文献図書館 | 2009. 03. 04 ~ 2009. 03. 25 | 在ロシアの日本研究者、日本文化専門家等に依頼し、一般市民を対象に日本に関する講義を実施。 |
| 16 | 人の移動と文化的アイデンティティ | 日本 | アデナウアー財団 関西国際交流団体協議会 | 2009. 03. 11 ~ 2009. 03. 12 | アジアとヨーロッパにおける「人の移動」に関するシンポジウムを、ドイツのコンラッド・アデナウアー財団との共催により開催。日本とドイツにおける移民受入政策の違い、多文化共生の課題などの共通課題を取り上げ、アジアとヨーロッパにおける地域主義の今後の展望を議論。 |

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議 (助成) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議等）に対し、経費の一部を助成する。

合計額 50,851,253 円

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|---|--|----------------------|--------|-------------------------|---|
| 1 | 想像の日本：現代視聴覚文化における日本的なるものとファンタジー | フィンランド映画研究協会 | フィンランド | 2008.04.01 ~ 2008.10.31 | フィンランドの若者の中で急速に人気を得た日本の映像文化のグローバル化について、日本とヨーロッパの研究者が議論。特に日本的なるものや日本が生み出しているファンタジーの特質とは何かという点に焦点を当て、学者のみならず幅広い関心層が参加。 |
| 2 | ウィルトン・パーク・カンファレンス「日本：グローバル経済における挑戦と機会」 | ウィルトン・パーク | 英国 | 2008.04.01 ~ 2008.11.30 | 「日本：グローバル経済における挑戦と機会」と題し、3日間集中的に行なわれる会議。9つのセッションそれぞれに日本の学会・産業界等から1~2人が参加。 |
| 3 | 多文化主義・多言語主義と言語学習日伊比較 | トゥーシャ大学 | イタリア | 2008.04.01 ~ 2008.12.31 | 現代における多言語・多文化を背景に、外国語や外国文化がどのように学ばれるか、また自国語や自国文化にどのような影響（外来語など）を与えるか、という問題について日欧の研究者が探る学術会議。 |
| 4 | 国際会議：生物文化多様性の保護—グローバルな課題 | ウィーン農芸大学 | オーストリア | 2008.04.01 ~ 2008.12.31 | ウィーン農芸大学環境保護・自然保護研究センターが主催する国際会議。日本の里山というモデルを取り上げ、人間と自然との共存の可能性を議論。 |
| 5 | 日蘭外交関係150周年に関するシンポジウム | オランダ・クリンゲンダール国際関係研究所 | オランダ | 2008.04.01 ~ 2008.12.31 | 日蘭修交通商条約締結150周年を記念して行われる、日蘭外交関係に関するシンポジウム。歴史を振り返るとともに、より広い文脈で日蘭の果たしうる未来を討議。 |
| 6 | アジアにおける安全保障と開発 | 安全保障・開発政策研究所 | スウェーデン | 2008.04.01 ~ 2009.02.28 | 2008年6月にストックホルムで、国際政治学者や政策決定者等を集め、北東アジア及び東南アジア地域が直面する安全保障の「新たな脅威」について幅広く議論。 |
| 7 | 国際シンポジウム「日仏芸術交流の150年」 | 日仏美術学会 | 日本 | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 豊かな日仏文化交流の中でもとりわけ実りの多い美術分野の交流についての国際シンポジウム。日仏友好150周年記念。1日目は19世紀後半を対象に、ジャポニスムやパリに学んだ日本人洋画家について、2日目は20世紀前半を対象に、日本のフランス美術受容や両大戦間のパリでの日仏芸術交流について、日仏の研究者が集い考察。 |
| 8 | 第6回日・ロ学術・報道関係者会議 | 日本対外文化協会 | ロシア | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 「ユーラシアの発展の道を模索する」というテーマのもと、安全保障、資源獲得競争等の問題につきロシアの政治家、評論家、ジャーナリストとの会見及び現地視察、討議等を実施。また学生や一般市民向けの公開討論会を実施。 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|-----------------------------------|---------------------|------|-------------------------|--|
| 9 | 「検閲・自主検閲・禁忌」国際会議 | ストラスブール大学 日本学科 | フランス | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | 古今東西の検閲・自主検閲・禁忌の起源や形式を分析し、ひいては「自由」や「表現の自由」の概念を再検討する会議。 |
| 10 | 第2回国際華厳学会 | フランス極東学院 | フランス | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | 仏教のみならず西側の諸宗教にも広く影響を与えた華厳思想をめぐって、その哲学的・歴史的研究成果を深めるとともに、現代の自然と社会の問題について、心理学・社会学・宗教学それぞれに対して華厳思想の果たす役割を検討する国際会議。 |
| 11 | 越境する映画文化—異文化間対話促進における映画の役割 | 欧州評議会 | フランス | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | 欧州評議会による、コーカサス・黒海諸国間の文化協力推進を目指す「キエフ・イニシアティブ」プログラムの「越境する映画文化」企画による会議。同諸国と欧州・日本の映画関係者がエレバンの国際映画祭に集い、異文化間対話・関係構築のためのツールとしての映画について討議。 |
| 12 | 社会政治学的に見た徳川時代の思想 | ケンブリッジ大学 東アジア研究所 | 英国 | 2008.04.01 ～ 2009.03.31 | 2009年3月にケンブリッジにおいて4日間にわたり徳川時代の思想や宗教に関する研究について議論を行うための会議を開催。とくに仏教、神道、国学、儒学などに焦点を絞り、過去20年の研究成果を発表。徳川時代の研究に関する会議は40年ぶり。ヨーロッパ各国から著名な日本研究者が参加。 |
| 13 | 国際会議「アジアのソフトパワー」 | フランクフルト大学 経済学部 | ドイツ | 2008.04.02 ～ 2009.03.30 | 本会議の実施にはフランクフルト大学東アジア研究所が深く関与し、同研究所が開催する初の国際会議として、東アジアにおけるソフトパワーについて討議。様々な専門家の視点を取り入れ、各国のソフトパワーの生産、用法および影響力を考察。 |
| 14 | 研究交流：前1千年紀前半のアナトリアとシリア | 財団法人中近東文化センター | 日本 | 2008.04.19 ～ 2008.04.27 | 前鉄器時代の解明に向け、アナトリア考古学研究所が従来より発掘調査してきたトルコ共和国のカマン・カレホユック遺跡に加え、当時のもう一つの中心地であるカルケミシュの成果を参照しながら、国境にあるため発掘に制約がある同地に関し、シリア側でのこれまでの調査研究の成果を共有するための、講演会やセミナーを実施。 |
| 15 | 国際会議「日本・欧州・アジア～戦略的パートナーシップと地域統合」 | ブリュッセル自由大学 | ベルギー | 2008.05.01 ～ 2008.11.30 | ブリュッセル自由大学を中心に、ベルギーのシンクタンクであるTEPSAや国際基督教大学などの協力を得て開催する国際会議。日EU間の戦略的協力関係を深めるべく、アジア欧州の両地域が直面する諸問題について幅広く議論。 |
| 16 | 持続可能な開発に関する社会科教科書づくりに向けた日独ワークショップ | ベルリン日独センター | ドイツ | 2008.05.01 ～ 2008.10.31 | 持続可能な開発について、どのように教育し、そのためには、どのような教材が求められているかを考察、議論する日独教師のワークショップを実施。 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|---|----------------------------------|---------|-------------------------|--|
| 17 | 国際ワークショップ「十字路口にたつロシアのヴォルガ・ウラル地域：帝国・イスラーム・ナショナリティ」 | 「十字路口にたつロシアのヴォルガ・ウラル地域」実行委員会 | 日本 | 2008.05.01 ～ 2009.03.31 | 日本・欧米・ロシアから専門家がカザンに集まり、沿ヴォルガ・ウラル地域に着目し、「境界」の視点からロシアとイスラーム世界の関わりについて研究した成果を報告するワークショップを実施。 |
| 18 | 国際会議「グローバル・ガバナンスー日米英独のアプローチ比較」 | ベルリン日独センター | ドイツ | 2008.06.01 ～ 2009.02.28 | 日米関係を、英米、独米等の外国関係と比較・考察する会議をベルリンにて開催。二国間関係の比較にとどまらず、グローバルガバナンスという視点からも討議。 |
| 19 | 国際会議「日本の文化の伝統と現在」 | ウクライナ国立科学アカデミーイルスキー芸術学・民族・民俗学研究所 | ウクライナ | 2008.06.01 ～ 2009.03.31 | 日本を特集した紀要の刊行に合わせ、紀要の執筆者をキエフに招へいして「日本文化の伝統と現在」と題する講演会と学術会議を実施。 |
| 20 | 「生への存在」シンポジウム | フランス国立社会科学高等研究院日本研究所 | フランス | 2008.08.23 ～ 2008.08.30 | 和辻哲郎の「生への存在」という概念を軸に、現代社会が陥っている袋小路（例えば環境問題）を打開する方途につき、西欧の「個人」重視の思想と日本の「場」重視の思想の相互補完性をめぐる会議。 |
| 21 | 社会起業とソーシャル・イノベーションに関する日英研究会議 | リンクス・ジャパン | 英国 | 2008.09.01 ～ 2008.11.30 | 2008年11月に英国の社会起業家および社会起業に関する研究者が日本を訪問し、日本のカウンターパートと共に社会起業家を訪問して意見交換を実施。合わせてワークショップを開催し、日英両国の現状と問題点を検証。 |
| 22 | ザルツブルク・グローバル・セミナー | ザルツブルクセミナー | オーストリア | 2008.09.07 ～ 2008.09.12 | 平和構築における市民社会の役割というテーマのもと、50人の知的リーダーを集め、5日間にわたりワークショップおよび会議を実施。 |
| 23 | 「途上国の法制度改革における慣習法と制定法の制度的優位比較」ワークショップ | ルーヴァン・カトリック大学 | ベルギー | 2007.10.01 ～ 2009.12.31 | 日独仏米等の国から専門家が集まり「途上国の法制度改革における慣習法と制定法の制度的優位比較」について討議するワークショップを実施。 |
| 24 | 国際会議「少子化問題と格差社会ー日独比較」 | ドイツ-日本研究所 | 日本 | 2007.11.01 ～ 2008.12.01 | ドイツも日本も直面している少子化問題をテーマとした会議。社会階層化と少子化との関係を分析する、という新しいアプローチである。社会階層化という問題における地域・教育・職種など様々なファクターを考察。 |
| 25 | 国際シンポジウム「現代における価値観の変容」 | 青山学院大学 | 全世界区分困難 | 2008.11.08 | 国内の複数の大学、研究所が、海外研究機関との連携により現代における価値の変容、価値観の国際比較調査の方法論、社会調査のインフラストラクチャー構築を視野に、今後の世界における価値観の変化の方向性を探求。 |

欧州・中東・アフリカ交流事業費

| | 事業名 | 助成機関 | 対象国 | 期間 | 事業内容 |
|----|--|---------------------|------|-----------------------------|--|
| 26 | 国際ワークショップ「長期的アラブ諸国研究ネットワークの構築—グローバル化時代における相互理解と共同研究のために」 | 中東統計データ・アーカイブ・フォーラム | 日本 | 2008. 12. 05 ～ 2008. 12. 08 | 日本独自の社会科学的アラブ地域研究を構築するために国際ワークショップを開催。同ワークショップでは研究者・実務家間で意見交換を行い、今後の日本とアラブ諸国の社会科学における調査・連携のあり方について討論。 |
| 27 | 国際会議「翻訳とトランスカルチュラル研究」 | テュービンゲン大学 | ドイツ | 2009. 03. 01 ～ 2009. 03. 31 | 異文化研究における「翻訳」のあり方につき、ドイツ、日本、韓国の研究者が集い、国際会議を開催。成果はウェブサイトにて公開。 |
| 28 | 異文化間都市会議 | 欧州評議会 | フランス | 2009. 03. 01 ～ 2009. 04. 30 | 異なる文化的背景を持つ人々の社会統合を、価値創造も含めて、都市レベルで探る試みとしての「インターカルチュラル・シティ・プログラム」の一環として、ティルブルク市（オランダ）にて開催される国際会議。同プログラム参加都市の代表のほか、米豪南アなどから研究者が参加。日本からは、北脇保之（東京外国語大学教授）、桜井啓子（早稲田大学教授）が出席。 |
| 29 | 国際会議「国の栄光の時代の想起」 | ゲント大学 | ベルギー | 2009. 03. 18 ～ 2009. 03. 20 | 歴史的・社会的・民俗学的、またスポーツ研究をベースにしたアプローチにより、日欧米の著名な研究者が集い、スポーツと国民のアイデンティティの関係を討議。 |

日本研究・知的交流事業に必要な経費

日米センター運営管理費

1. ニューヨーク日米センター事業費
 - (1) 知的交流小規模助成
 - (2) 市民交流小規模助成
 - (3) 教育アウトリーチ小規模助成
 - (4) 日米協会支援
 - (5) 企画開発事業

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (1) 知的交流小規模助成

米国内の新たなニーズに対応した先駆的事業や、米国内の大学・シンクタンク・政府・財団関係者等のアジェンダ・セッティングやネットワーク会合などに機動的に対応し、通常の助成事業の企画開発へとつなげていくために小規模の助成を実施。

合計額 12,381,096 円

| | 事業名 | 助成機関 | 期 間 | 事業内容 |
|----|-------------------------------------|---------------------------------|-------------------------|--|
| 1 | 坂茂：紙の家、建築による災害救援 | メリディアン・インターナショナルセンター | 2008.04.01 ~ 2008.05.31 | 建築家・坂茂氏の取組みをケーススタディとして、持続可能な環境および災害救援における、建築家やデザインの役割に関して議論するシンポジウム |
| 2 | 第60回日米学生会議 | 国際学生会議 (ISC) | 2008.04.01 ~ 2008.08.31 | 第60回記念の日米学生会議開催。ラウンドテーブル、パネルディスカッションその他のイベントを通じて日米双方の将来リーダー層の間に相互信頼関係を醸成 |
| 3 | 2008 北東アジア・ジャーナリスト・ダイアログ | 東西センター (EWC) | 2008.07.01 ~ 2008.11.30 | 日本、アメリカ、中国、韓国のジャーナリストが北東アジア外交、オリンピック後の中国、6者協議等の動向について議論 |
| 4 | エネルギーと環境問題：日米関係への示唆 | 全米日米協会連合 (NAJAS) | 2008.11.01 ~ 2009.01.31 | 米国南部三州において、エネルギーと環境問題が生み出しうる経済機会と日米協働の可能性についてキャラバンセミナーを実施 |
| 5 | 北東アジアの安定確保に向けて | 外交問題評議会 (CFR) | 2009.02.01 ~ 2009.05.31 | 北東アジアの安全保障情勢を巡る日米関係者間の意見交換およびそれに基づく報告書の作成 |
| 6 | 日米関係におけるアジェンダの拡大 (成果普及フェイズ) | 日本国際交流センター (JCIE米国) | 2009.02.01 ~ 2010.09.30 | 日米の若手研究者による政策提言プロジェクトの成果普及フェイズとして政策提言のディセミネーションを実施 |
| 7 | 日米コーポレートガバナンス会議 | 北カリフォルニア日本協会 | 2009.03.01 ~ 2010.02.28 | 日米の産官学関係者が集まり、日本のコーポレートガバナンスに関する最新動向について議論 |
| 8 | 核の無い世界構築に向けて：日米若手専門家ダイアログ | ヘンリー・スティムソンセンター | 2009.03.01 ~ 2009.03.31 | 日米同盟/不拡散問題の若手研究者によるアジェンダ設定会議の開催 |
| 9 | 太平洋の友情：日米関係の過去・現在・未来 | バンダービルト大学 | 2009.03.01 ~ 2009.05.31 | 安全保障を巡る環境の大きな変化の中、海賊対策等新しい課題を巡る日米協力のあり方についてセミナーを開催 |
| 10 | 日本-NATO協力関係構築に向けた次のステップ | プロジェクト2049・インスティテュート | 2009.03.01 ~ 2010.05.31 | NATOと日本の将来連携可能性についての日米欧ダイアログ常設化に向けた調査 |
| 11 | グローバルな衝撃波：アジア太平洋対話 | ノースカロライナ大学チャペルヒル校 | 2009.03.01 ~ 2009.10.31 | 京都大学との共同による金融危機メカニズムに関する共同研究立ち上げに向けた準備会合の実施 |
| 12 | 金融危機がアジア及び米国のフィランソロピー・市民社会に及ぼす影響の検証 | ジョンズホプキンス大学・第三セクター研究国際協会 (ISTR) | 2009.03.01 ~ 2009.11.30 | 金融危機によるフィランソロピー、市民社会への影響を検討するワークショップの開催 |

日米センター運営管理費

| | 事業名 | 助成機関 | 期 間 | 事業内容 |
|----|-----------------------------------|-------------------|-------------------------|---------------------------------------|
| 13 | 沿岸マネジメントにおける合意形成過程に関するグローバル・ダイアログ | キーストン・センター | 2009.03.01 ~ 2009.12.31 | 沿岸・海洋資源のマネジメントに関する日米共同研究の実施 |
| 14 | グローバリゼーション・雇用保護と格差問題 | ハーバード大学 | 2009.03.01 ~ 2010.02.28 | 雇用法制、規制緩和等をめぐる日本とその他のOECD加盟国間の比較研究を実施 |
| 15 | バブルと銀行救済、自動車産業の今後：日米比較 | ミシガン大学 | 2009.03.01 ~ 2010.03.31 | 金融危機対応を巡る日米比較。自動車産業の今後を占うセミナーの実施 |
| 16 | 国際的な債務に対する国際的対応枠組について | カリフォルニア州立大学アーバイン校 | 2009.03.01 ~ 2010.09.30 | 米国の過剰債務と金融危機に関するマネジメントの研究（パイロットフェイズ） |

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (2) 市民交流小規模助成

米国内で開催される日米間の地域・草の根レベルでの交流事業に対し、小規模の助成を実施。

合計額 3,814,520 円

| | 事業名 | 助成機関 | 期 間 | 事業内容 |
|---|--------------------------------------|------------------------|-------------------------|--|
| 1 | 持続可能な姉妹都市交流のために：日米パートナーシップ・モデルを考える | シスターシティ・インターナショナル | 2008.06.01 ~ 2008.12.31 | 米国において、姉妹都市交流の促進活動を行っているシスターシティ・インターナショナルが、日米の持続可能な姉妹都市交流のパートナーシップモデルを構築するため、日本から専門家を招いてパネル・ディスカッションを開催 |
| 2 | 新潟非営利アクション・ツアー | ペンシルヴァニア非営利団体協会 (PANO) | 2008.09.01 ~ 2008.11.30 | ペンシルヴァニア非営利団体協会が、新潟県の非営利団体を視察すると共に各地で非営利団体の運営・資金調達に関するセミナーを開催 |
| 3 | 「グローバル・ガバナンスの根幹としての市民社会」日米交流及びシンポジウム | ネイバーフッドUSA (NUSA) | 2009.03.01 ~ 2009.10.31 | 住民参加によるコミュニティの活性化に取り組んでいる全米組織のネイバーフッドUSAが、日本に新たに設立された日本コミュニティ政策学会との交流を通じて、日米両国における住民参加の活性化を目指すプロジェクト |
| 4 | 「居住空間とデザインのスタンダード再考」日米交流プロジェクト | 住宅政策市民協議会 | 2009.03.01 ~ 2009.12.31 | ニューヨークの住宅問題解決のために、アドボカシーや政策提言を行っている住宅政策市民協議会が、コンパクトで効率的な居住空間及びデザインを追求している日本の事例に学び、これを米国に普及するための各種イベントを開催 |

日米センター運営管理費

| | 事業名 | 助成機関 | 期 間 | 事業内容 |
|---|------------------------|--------------|-------------------------|---|
| 5 | グローバル・ボランティア交流のための訪日調査 | ユナイテッド・プラネット | 2009.03.31 ~ 2010.03.31 | 海外とのボランティア交流やコミュニティレベルの異文化理解事業を行っており、CNNのBeTheChangeプログラムにも紹介された実績のあるユナイテッド・プラネットが日米両国の協力によるグローバルなボランティア交流を促進するため、訪日調査を実施 |

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (3) 教育アウトリーチ小規模助成

米国内で開催される日本理解に資する教育アウトリーチ事業（日本講座や教員向けセミナー等）に対し、小規模の助成を実施。

合計額 8,201,289 円

| | 事業名 | 助成機関 | 期 間 | 事業内容 |
|---|----------------------------------|------------------------|-------------------------|---|
| 1 | 国連国際映画祭 | インターナショナル・シネマ・エデュケーション | 2008.05.01 ~ 2008.05.31 | ニューヨーク近郊の恵まれない高校生を国連での映画上映会に招待し、国際理解を深めるという「グローバル・クラスルーム」活動の一環として、日本映画「ハンナリ芸者モダン」の上映会に高校生114名を招待。映画上映にあわせて、国連見学ツアーも実施 |
| 2 | 俳句コンテスト | 北東部日本語教師協議会 | 2008.05.01 ~ 2008.08.31 | 北東部日本語教師協議会が、国連インターナショナル・スクール、国連日本代表部の協力を得て児童・生徒を対象に俳句コンテストを実施。日本語231、英語217、計488作品の応募があり、小、中、高校各分野でそれぞれ賞を授与 |
| 3 | メンフィス・ボタニカル・ガーデン ジャパン・フェスティバル | メンフィス・ボタニカル・ガーデン | 2008.08.01 ~ 2008.10.31 | メンフィス・ボタニカル・ガーデン内の日本庭園を利用し、ジャパン・フェスティバルを開催。和太鼓公演や茶道のデモンストレーションを行うと共に、児童・生徒向けのアウトリーチとして、折り紙、紙芝居、俳句などのレクチャーを実施 |
| 4 | ジャパン・フェスティバル2008 | ハート・オブ・アメリカ、カンザス日米協会 | 2008.09.01 ~ 2008.11.30 | 日本文化に触れる機会の少ないカンザス市において日本文化を総合的に紹介するジャパン・フェスティバルを開催。フェスティバルでは、太鼓や落語公演等を行うと共に、児童を対象とした折り紙のレクデモや、一般を対象とした現代美術の講演会などのアウトリーチ事業を実施 |
| 5 | 青空劇場 | ピエモント芸術協会 | 2009.01.01 ~ 2009.08.31 | ヴァージニア州マーティンズ・ヴィル郡とヘンリー郡において、ピエモント芸術協会が日本の凧及び版画の展示会を開催するにあたり、現地の、主に低所得者層の中・高校生を対象に、日本の凧及び版画制作に関するワークショップを開催 |

日米センター運営管理費

| | 事業名 | 助成機関 | 期 間 | 事業内容 |
|----|-----------------------------|----------------------|-------------------------|---|
| 6 | 新しい日本の構築：世紀の変わり目の激動の時代を振り返る | デトロイト&ウィンザー日米協会 | 2009.01.12 ～ 2009.04.30 | 幕末から明治にかけて、新しく発行された新聞に掲載された木版画やリトグラフ作品の展覧会をデトロイトで開催するのに合わせて、専門家を招いて一般向けレクチャーを開催 |
| 7 | 桜の植樹と椎茸の植付を通じたアウトリーチ・プロジェクト | ハリファックス郡公立学校グループ | 2009.01.05 ～ 2009.05.31 | ヴァージニア州ハリファックス郡の児童、農民、一般を対象に、日本の環境を志向した営林・農業技術を伝えるため、桜の植樹と椎茸の植え付けイベントとレクチャーを実施 |
| 8 | ジャパン・プロジェクト | プライマリー・ソース | 2009.02.01 ～ 2009.03.31 | 主としてニューイングランド地域において、12歳以下の児童を対象に異文化理解事業を行っているプライマリー・ソースが、2009年の京都・ボストン姉妹都市交流50周年記念事業の一環として、ボストン周辺の教師を対象に、日本のアウトリーチに関するトレーニング・ワークショップを開催 |
| 9 | 未来へのチームワーク：チャールストン日本文化紹介事業 | チャールストン・カレッジ | 2009.02.01 ～ 2009.05.31 | チャールストン・カレッジの年少児童能力開発センターの主導により、サウス・キャロライナ州チャールストンの小学校でジャパン・フェスティバルを開催。同時に、日本アウトリーチに関する教師ワークショップ、カリキュラム開発などを実施 |
| 10 | 第一回ヘンドリックス小学校桜祭り | ヘンドリックス小学校 | 2009.02.01 ～ 2009.05.31 | サウスキャロライナ州のヘンドリックス小学校と岐阜県和泉中央幼稚園との交流の成果を踏まえ、同小学校で桜祭りを実施。ゆかたやはっぴの試着、児童との交流事業、北斎複製画の展示等の様々なイベントを通じて、児童のみならず、コミュニティ・レベルでのアウトリーチ事業を展開 |
| 11 | アニメ・プロジェクト：アニメを活用した日本の教育事業 | イリノイ大学東アジア・太平洋研究センター | 2009.02.21 ～ 2009.06.30 | アジアに関する教育アウトリーチ活動の促進のための研究・教育活動を行っているイリノイ大学東アジア・太平洋研究センターが、日本のアニメーションを活用した教育アウトリーチ・カリキュラムの開発を目的に、教師を対象としたワークショップを開催 |
| 12 | グローバル・コネクション：日米教育交流事業 | コミュニティ・ワークス | 2009.02.21 ～ 2009.05.31 | 第2次世界大戦中の日系人収容キャンプの歴史に対する理解を深めるため、ニューヨークの高校生を対象にワークショップを開催すると共に、日本の高校生との交流事業を実施。同時に、日系人収容キャンプに関するパネル展示を開催 |
| 13 | 第15回ホノルル・フェスティバル | ホノルル・フェスティバル財団 | 2009.03.01 ～ 2009.04.30 | ハワイ州ホノルル市でホノルル・フェスティバルを開催するのにあわせ、アニメ大使のドラえもん映画の上映と縁日紹介イベントを実施。アウトリーチ活動として、現地の12歳以下の児童・生徒を主な対象とするイメージョン・プログラムを用意 |

日米センター運営管理費

| | 事業名 | 助成機関 | 期 間 | 事業内容 |
|----|----------------------|---------------------------|-------------------------|---|
| 14 | 和風と共に新たな高みへ | ローレンス中学校 | 2009.03.01 ~ 2009.06.05 | 米国在住の日本人アーティストが、サウス・キャロライナ州ローレンス郡に滞在し、現地の中学校の生徒を対象に、墨絵、折り紙、和風制作に関するワークショップを開催。制作された作品は、凧揚げ大会の際に展示され、広く一般に公開される予定 |
| 15 | 日本の芸術文化アウトリーチ・プロジェクト | マーキス・スタジオ | 2009.03.01 ~ 2009.12.31 | ニューヨーク在住のアーティストが、多様な人種を抱えるニューヨークのジャクソン・ハイツの公立小学校を対象に、太鼓演奏を中心とした日本文化に関するワークショップを開催 |
| 16 | 放課後日本文化探検プログラム | ニューヨークでボランティア | 2009.03.06 ~ 2009.06.30 | ニューヨークの日本人コミュニティが参加するボランティア組織である「ニューヨークでボランティア」が、主にワシントン・ハイツの障害を持った児童を対象に、放課後の課外活動時間を利用して、日本文化・社会に関するアウトリーチ活動を実施 |
| 17 | サクセス・イン・ジャパニーズ | ヒルズボロ郡公立学校グループ | 2009.03.09 ~ 2010.03.09 | フロリダ州ヒルズボロ郡の公立学校の教師を対象に、日本語・日本文化についての教育アウトリーチ手法に関するトレーニング・ワークショップを開催 |
| 18 | ピース・プロジェクト | ワールド・トレード・センター記念ビジター・センター | 2009.03.15 ~ 2010.03.15 | 9.11同時多発テロにより破壊されたワールド・トレード・センターの記憶を伝えるために設立されたワールド・トレード・センター記念ビジター・センターが、佐々木貞子の折鶴の寄贈を受けたことを機に、9.11テロや広島への原爆投下のような惨事を二度と起こさないよう平和教育を進めるためのカリキュラム及び教材を開発 |
| 19 | 文楽キャンプ | アイオワ大学国際プログラム | 2009.03.31 ~ 2009.07.31 | 毎年、小中学生を対象に異文化理解のためのサマーキャンプを実施しているアイオワ大学が、プログラムの一環として、アメリカ人の文楽演者を招き、レクチャー・デモンストレーションを行うことによって、日本文化の理解促進を目指すプロジェクト |

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (4) 日米協会支援

米国における日米協会のネットワーク化とキャパシティ・ビルディングを図り、日米間の地域・草の根交流の担い手としての日米協会を育成するために支援を実施。

合計額 13,409,776 円

| | 事業名 | 助成機関 | 期 間 | 事業内容 |
|---|---|----------|-------------------------|---|
| 1 | 地域アウトリーチ&活動センター設立を通じたキャパシティ・ビルディング (第1年次) | テネシー日米協会 | 2008.07.01 ~ 2009.06.30 | テネシー州内での活動を広域化するため、新たにメンフィスとメリーヴィルに地域アウトリーチ&活動センターを設立 |

日米センター運営管理費

| | 事業名 | 助成機関 | 期 間 | 事業内容 |
|---|--|-------------------|-------------------------|---|
| 2 | 組織評価に基づく中長期戦略の立案 | ダラス・フォート・ワース日米協会 | 2008.08.01 ~ 2009.10.31 | 外部コンサルタントに依頼し、組織及び活動の現状と課題を分析、これに基づいて中長期戦略及び実行計画を策定 |
| 3 | メンバーシップ&コミュニケーション・マネージャー確保を通じたキャパシティ・ビルディング (第1年次) | サンディエゴ・ティファアナ日米協会 | 2008.09.01 ~ 2009.08.31 | 会員数の拡大及び他団体との連携を強化するため、メンバーシップ&コミュニケーション・マネージャーを新たに採用 |
| 4 | TRIAJE：日本語教育アウトリーチ・イニシアチブ (第1年次) | ペンシルベニア日米協会 | 2008.09.01 ~ 2009.08.31 | 日本語弁論大会、スカラシップ、ジャパン・イン・スクール・プログラムなどの日本語を通じたアウトリーチ・プログラムを強化するため、専属コーディネーターを新たに採用 |
| 5 | 日本フェスティバルの企画・運営に関するベスト・プラクティスの共有とネットワーキング | ワシントンDC日米協会 | 2008.10.01 ~ 2009.03.31 | 各地の日米協会が実施している日本関連フェスティバルの企画・運営に関するベスト・プラクティスを収集し、これを共有するためにマニュアルを作成 |
| 6 | 中西部日米協会のネットワーキング | 中部オハイオ日米協会 | 2008.10.01 ~ 2009.09.30 | 定期会合の開催、共有ウェブサイトの立ち上げ、情報共有等を通じた中西部日米協会のネットワーク形成 |
| 7 | 事業開発ディレクター確保を通じたキャパシティ・ビルディング (第1年次) | ジョージア日米協会 | 2008.10.01 ~ 2010.06.30 | アトランタ市周辺の都市に活動範囲を拡大し、会員数の拡大を図るため、事業開発ディレクターを新たに採用 |

1. ニューヨーク日米センター事業費 / (5) 企画開発事業

日米間の知的交流・市民草の根交流を促進し、米国内での関係団体とのネットワークを形成し、新たなニーズに即した事業を積極的に企画・開発してゆくために、ニューヨーク日米センターのイニシアチブにより各種事業を実施。

合計額 865,307 円

| | 事業名 | 期 間 | 事業内容 |
|---|---------------------------|-------------------------|---|
| 1 | 南部地域日米協会向けインフォメーション・セッション | 2008.01.30 ~ 2008.01.31 | 南部地域の日米協会関係者が一堂に会し、様々な経験やグッド・プラクティス事例の共有を行うとともに、事業実施の際の相互協力を含むネットワーク形成の可能性を討議 |

日本研究・知的交流事業に必要な経費

日米交流推進費

1. 人物交流事業費

- (1) 安倍フェローシップ
- (2) 日米センターNPOフェローシップ
- (3) 市民交流支援（日米草の根交流コーディネーター派遣／JOI）

2. 催し等事業費

- (1) 日米交流支援（助成）
- (2) 日米交流支援（主催）

日米交流推進費

1. 人物交流事業費 / (1) 安倍フェローシップ

社会科学・人文科学の分野における質の高い政策研究を促進し、日米の専門家間の新しい協働関係とネットワーク形成を推進するため、学術研究者、各分野の専門家に対しフェローシップを供与する。

合計額 164,695,479 円

| | 氏名 | 現職 | 研究テーマ |
|---------------|-----------------|-------------------------------|---|
| ■安倍フェロー (13名) | | | |
| 1 | マルガリータ・エステベス-アベ | ハーバード大学行政学部准教授 | 既婚女性労働の比較政治経済 |
| 2 | 有田 伸 | 東京大学大学院総合文化研究科准教授 | ポスト産業国家における雇用構造変動と社会的不平等：日本・韓国・米国の比較 |
| 3 | ローレン・イーストウッド | ニューヨーク州立大学ブラッツバーグ校社会学・刑法学部助教授 | グローバルな環境ガバナンスにおける市民社会：国連の環境政策審議におけるNGOの参画に関する比較分析 |
| 4 | エリン・チュン | ジョンズ・ホプキンス大学政治学部助教授 | 民族民主主義社会における移民の取り込み：オーストリア・ドイツ・日本・韓国における市民権制度と外国籍居住者の政治参画について |
| 5 | 彦谷 貴子 | 防衛大学校公共政策学科准教授 | 多国間軍事作戦における政軍関係 |
| 6 | 上田 路子 | カリフォルニア工科大学人文社会科学部助教授 | マイノリティーの議会進出とその効果 |
| 7 | 大久保 祐子 | シンガポール国立大学博士後研究員 | 多文化教育のローカル化と中国・ベトナム移民二世－日米比較 |
| 8 | イン・ホア | コーネル大学デザイン環境学部助教授 | ポスト京都時代の低炭素な建設セクター：政策フレームワークの日米比較と排出削減における政策の影響についての研究 |
| 9 | ロバート・クナップ・ジュニア | エバグリーン州立大学講師 | 持続可能な商業等施設に関する比較研究 |
| 10 | 三浦 俊章 | 朝日新聞論説委員 | 東アジアにおける歴史摩擦－日米関係からの視点 |
| 11 | サリル・メーラ | テンプル大学ビーズリー法科大学院教授 | 法に関する文化的認識：インタラクティブなマンガによる実験 |
| 12 | 清水 美香 | 東西センター客員研究員 | アジアにおけるグローバルリスクマネジメント・アプローチのための機構設計：日米のイニシアチブから |
| 13 | 増島 健 | 神戸大学大学院法学研究科教授 | 地域主義のための開発-ヨーロッパ(EU)・南アメリカ(メルコスール)における地域開発政策の政治的動態とそのアジアへの含意 |

日米交流推進費

| | 氏名 | 現職 | 研究テーマ |
|---------------------|-----------|---------------------|-----------------------------------|
| ■安倍ジャーナリスト・フェロー（4名） | | | |
| 1 | ステファニー・ジリ | 「フォーリン・アフェアーズ」誌副編集長 | エネルギーを巡る日本・中国・ロシアの三角関係 |
| 2 | ロブ・シュミッツ | KQEDラジオ ロサンゼルス支局長 | より良いエネルギー効率への道：カリフォルニアが日本から学ぶこと |
| 3 | 布施 哲 | テレビ朝日政治部記者 | 中国海軍の近代化と日米同盟への影響 |
| 4 | ゴードン・フェラー | フリーランス | アジアの地方自治体による地球温暖化に対する革新的な都市レベルの対策 |

日米交流推進費

1. 人物交流事業費 / (2) 日米センターNPOフェローシップ

日米間の架け橋となり国際的に活躍できる次世代の人材の育成と、日米両国の非営利セクター間の相互理解の促進とネットワークの拡大強化、国内の非営利セクターの人的基盤強化を目的として、日本の民間非営利セクターに従事する中堅層に、米国のNPOでの中長期の現場経験を通じ、非営利組織のマネジメントに関する研修を行う機会を提供する。

合計額 7,278,852 円

| | 事業名 | 現職 | 受入機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|---------------------|------------------------------|----------------------------------|-------------------------|--|
| 1 | 鈴木 歩 (第8期) | シーズ=市民活動を支える制度をつくる会 事務局次長 | United Way of Central Indiana | 2007.08.15 ~ 2008.05.14 | ファンドレイジングを実践するための組織運営のあり方を米国の非営利セクターに学ぶ |
| 2 | 藤原 航 (第8期) | 市民社会研究所研究員 | Common Ground Community | 2007.10.01 ~ 2008.06.30 | 自立的なNPOセクターの環境整備に関して学ぶ |
| 3 | 第8期NPOフェロー 帰国報告会 | | | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | NPOフェロー帰国後、日米センター職員や外部NPO関係者の前で研修の報告を行うとともに、今後の活動について意見交換を実施。各フェローに義務として課し、フェローシップの成果の定着・向上を図るもの。 |
| 4 | シンポジウム | | | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | NPOフェローシップ・プログラムを通じて米国のNPOで研修を積み、帰国後も日本の非営利セクターの第一線で主導的役割を担っているNPOフェローを講師とし、それぞれの経験から米国NPOの知見を複数の地域（名古屋、神戸、和歌山、上越）に紹介するシンポジウムを開催 |

日米交流推進費

1. 人物交流事業費 / (3) 市民交流支援 (日米草の根交流コーディネーター派遣/JOI)

日本との交流の機会が比較的少ない地域における対日関心の喚起や日本理解の促進、 および、草の根交流の担い手育成を目的に、ボランティアとして草の根交流のコーディネーターを米国に派遣する。コーディネーターは、主に米国南部の日米協会や大学等の地域交流活動の拠点に配置され、学校やコミュニティで、日本の文化、社会、生活、日本語に関する知識や情報を提供し、また日米交流を深めるための活動を展開する。

合計額 30,356,456 円

| | | 派遣者氏名 | 派遣先機関 | 派遣期間 |
|----|-----|--------|-------------------------------------|-------------------------|
| 1 | 第5期 | 小島 祥子 | アラバマ日米協会 | 2006.08.01 ~ 2008.07.31 |
| 2 | 第5期 | 織田 美千子 | ベサニー大学 | 2006.08.01 ~ 2008.07.31 |
| 3 | 第5期 | 木谷 公子 | モリカミ博物館 | 2006.08.01 ~ 2008.07.31 |
| 4 | 第6期 | 山田 悠花子 | クロフト・インスティテュート・フォー・インターナショナル・スタディース | 2007.08.01 ~ 2008.07.31 |
| 5 | 第6期 | 西脇 笑子 | ウェスタン・カロライナ大学 | 2007.08.01 ~ 2008.07.31 |
| 6 | 第6期 | 松下 佐智子 | メンフィス大学国際プログラム&サービスセンター | 2007.08.01 ~ 2008.07.31 |
| 7 | 第6期 | 山崎 和子 | ハリファックス公立学校区 | 2007.08.01 ~ 2008.07.31 |
| 8 | 第6期 | 増田 環 | 多文化教育のローカル化と中国・ベトナム移民二世－日米比較 | 2007.08.01 ~ 2008.07.31 |
| 9 | 第7期 | 鈴木 和子 | バージニア大学東アジア言語文学文化学部 | 2008.07.29 ~ 2009.02.28 |
| 10 | 第7期 | 服部 聖 | ジョージア大学アジア研究センター | 2008.07.29 ~ 2009.07.28 |
| 11 | 第7期 | 萩島 光男 | 南フロリダ大学国際センター | 2008.07.29 ~ 2009.07.28 |
| 12 | 第7期 | 福崎 恵子 | ケンタッキー大学アジアセンター | 2008.07.29 ~ 2009.07.28 |

日米交流推進費

2. 催し等事業費 / (1) 日米交流支援 (助成)

日米両国の研究機関、大学等が行う政策指向の共同研究や、セミナー、シンポジウム等の知的対話を支援する。

合計額 183,034,403 円

| | 事業名 | 助成機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|--|------------------------|-------------------------|--|
| 1 | 「日本史をイメージする」教材開発・普及事業 (2年目) | コロラド大学ボルダー校 | 2008.03.01 ~ 2009.06.30 | 中等教育レベルを対象とした日本に関する教材開発・普及事業。世界のナショナル・スタンダードに合わせ、歴史と社会科のカリキュラムに芸術史を組み込み、世界史の授業で使用可能な教材を開発。日本の6つの時代 (平安、中世、徳川、明治、20世紀初頭、戦後) のアートが対象 |
| 2 | 「認知症患者と介護者へのケアの質的向上：日米草の根交流ネットワーク構築」 (2年目) | ミシガン大学老年医学センター | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 認知症患者と介護者をめぐる環境の改善を目指し、日米の介護関係者が知見を交換し、認知症ケアに関する日米草の根パートナーシップを構築するプロジェクト。2007年8月に1週間、米国 (アンアーバー) に日米の専門家・実務者が集い、認知症政策に関する情報交換会議を実施。2008年10月には東京で同様の会議とサイトビジット・シンポジウムを開催。会議結果は政策提言としてまとめ、政策立案者、関係機関に冊子を配布 |
| 3 | 「平成20年度安全保障研究奨学プログラム」 | 財団法人 平和・安全保障研究所 (RIPS) | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 日本における若手の安全保障専門家の育成を目的として、選考された奨学プログラム生に対して、夏期集中セミナー、定例セミナー、合同セミナーの実施を内容とする教育プログラム。プログラム終了後は、研究論文を執筆し、最終論文発表会で発表 |
| 4 | 「エネルギー安全保障イニシアチブ及び客員フェロープログラム」 (1年目) | ブルッキングス研究所 | 2008.07.01 ~ 2009.06.30 | 日米共同で主要国のエネルギー利用による温室効果ガスの排出に伴う気候変動を分析。中国の急速な経済成長に焦点を当て、エネルギー資源の確保と温室効果ガス排出抑制のために中国が果たすべき役割と政策を提言。また日本人1名を客員フェローとして招へいし、論文を執筆し、発表。3年計画事業の1年目 |
| 5 | 名古屋アメリカ研究夏期セミナー | 南山大学 | 2008.07.01 ~ 2009.03.31 | グローバル化が急速に進展する今日的な問題の共有と解決の共同作業、また来るべき地球化社会で真に共有されるべき倫理構築の共同作業の必要性に鑑み、日米を機軸に好ましい国際関係を築き得る人材育成を急務と捉え、米国、アジア、オセアニア諸国の研究者及び大学院生による討論、発表会を通じ米国研究の国際化と将来の指導人材の国際的ネットワークを構築 |

日米交流推進費

| | 事業名 | 助成機関 | 期間 | 事業内容 |
|----|--|----------------------------|-------------------------|---|
| 6 | 「大戦略の中の日米同盟が近隣諸国との関係で果たす役割」 | 中央大学 | 2008.09.01 ～ 2009.03.31 | 対近隣諸国外交で日米同盟が果たすべき役割を提言する事業。近隣諸国を①中国、台湾、②韓国、北朝鮮、③ロシア、④アセアン諸国と限定した上で、日米同盟の性格づけを(a)同盟終焉、(b)和而不同、(c)有志連合、(d)運命としての同盟と4通り設定して分析。2009年1月に専門家会議を開催 |
| 7 | 「パブリック・ドメイン資料のフェア・ユース促進のための研究フォーラム・クリエイティブ・ソサエティの持続的発展を支えるために」 | 慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構 | 2008.09.01 ～ 2009.03.31 | 日本やアジア諸国で遅れているとされる「パブリック・ドメイン」や「フェア・ユース」の定義明確化およびガイドラインの設定を目指し、2009年1月に日米に加え韓国などから関係者を招き、東京で公開シンポジウムを行なうプロジェクト |
| 8 | 「日・米国際ワークショップ『核の脅威の低減にむけて：日米協力の可能性』」 | 明治学院大学国際学部附属研究所 | 2008.09.01 ～ 2009.03.31 | 核廃絶への具体的な道筋模索のため、日米の科学者、国際政治学者、政策担当者、実務家、NGO関係者らを集め、核兵器に依存しない安全保障に移行するための条件や道筋、原子力平和利用をめぐる新たな多国間管理構想等について検討、極東地域版「フーパープラン」作成を目指す事業。2009年1月に専門家会議を開催 |
| 9 | 「21世紀の日米韓中関係」 | 太平洋フォーラム（戦略・国際問題研究所） | 2008.09.01 ～ 2009.08.31 | 日米韓中間の更なる相互信頼の構築を可能とする、実践的な提言及びアプローチの発展を目的として、四カ国間の対話構築を行い、相互不信の原因分析を図るプロジェクト。専門家による会議に加えて、米国及びアジアの学生・若手研究者を参加させ、人材育成も図る事業 |
| 10 | 「難民支援に関する日米・アジア・オセアニアのネットワーク作り～難民の自立支援を中心に～」 | 特定非営利活動法人難民支援協会 | 2008.09.01 ～ 2009.11.30 | これまで難民支援ネットワークが希薄であったアジア太平洋地域における市民主導の難民自立支援のあり方を検討し、NGO/NPO、法律家、難民等多様な関係者間でベストプラクティスの共有やネットワーク構築を目指すプロジェクト。2009年6月に東京でシンポジウムを、10月にバンコクでワークショップを実施 |
| 11 | 「文化資産を活用した災害復興・経済再建」 | 神戸とニューオーリンズのジャズ交流実行委員会 | 2008.10.01 ～ 2009.03.31 | 大規模な都市災害を経験した神戸市とニューオーリンズ市がジャズという共通の音楽文化を用いて被災地の再活性化や人々の心の癒しに取り組んだ経験や災害復興過程における文化芸術の役割について2008年10月から2009年2月にかけて両市のコミュニティリーダー、市議員、芸術家、学者など様々な立場の関係者による対話を行なうプロジェクト |
| 12 | 「復興支援日米市民交流会議」 | 復興支援コンサート実行委員会 | 2008.10.01 ～ 2009.03.31 | 阪神淡路大震災の被災体験及びその復興過程から学んだ創造的まちづくりや被災者の心の癒しを支援する「こころの復興」について、2008年11月にサンフランシスコにて講演会及びワークショップを、2009年1月に日米中の関係者によるシンポジウムを神戸で開催 |

日米交流推進費

| | 事業名 | 助成機関 | 期間 | 事業内容 |
|----|---|-------------------------|-------------------------|---|
| 13 | 「日米国際貿易の新展開様式の数量的分析」(1年目) | ミシガン大学 | 2008.10.01 ~ 2009.03.31 | 多国籍企業が生産工程のうち組み立て作業など労働集約的な部分を開発途上国に輸出(外注)する日米にも共通して見られる国際貿易形態の構成要素を定量的に測るためのメソッドとデータの開発に新たに取り組み、世界貿易や海外直接投資の将来発展の予測、自由貿易協定の影響力の測定、効果的な貿易政策の策定などに役立てることを目指す日米共同研究。2年計画事業の1年目。 |
| 14 | 「ローカルフードネットワークによる地域社会醸成」(1年目) | カンザス・ルーラル・センター | 2008.10.01 ~ 2009.09.30 | 「有機農業」を切り口に日米双方の地域社会が直面する持続可能性の問題に取り組む日米NP0の交流プロジェクト。カンザスと埼玉の農業関係者および専門家による相互訪問、知見の交換ならびにワークショップ等を実施。2年計画事業の1年目。 |
| 15 | 「建築の専門性および専門教育に対するグローバル・プレッシャーへの対応」 | カリフォルニア大学ロサンゼルス校 | 2008.10.01 ~ 2009.09.30 | グローバリゼーションの影響によって専門教育に欧米主導のスタンダード化が推進されている建築分野の課題について、グローバリゼーションと建築、文化、専門教育の関係を検証し、各分野の専門家によるパネル形式で2009年7月に東京で国際会議を実施 |
| 16 | 「紛争後の安全保障と外交の強化：日米の平和構築戦略における資源管理・インフラ再整備」(1年目) | エンバイロンメンタル・ロー・インスティテュート | 2008.10.01 ~ 2009.09.30 | 紛争収拾後の、関係当事者間による天然資源マネジメントおよびインフラ整備事業を融合させることで平和構築プロセスにどのように効果的に寄与するか、ケーススタディに基づき共同研究・政策提言を行う3年間プロジェクト。ニューヨークと東京で研究成果や提言をテーマにした国際シンポジウムを開催。1年目は2009年5月にニューヨークで国際シンポジウムを開催。3年計画事業の1年目。 |
| 17 | 「海上キャパシティ・ビルディングについての国際会議」 | ミシシッピ州立大学(CISS) | 2008.10.01 ~ 2009.09.30 | 貿易やエネルギー輸送のための海上水路の安全確保のため、海洋安全保障をテーマに、インド洋～西太平洋沿岸諸国の国際協調や海上警備のあり方、課題・対策について日・米・豪・中・韓・シンガポール等の専門家を集結して2009年6月にミシシッピ州立大学にて2日間にわたる国際シンポジウムを開催 |
| 18 | 「アジアをつなぐ：アジアにおける協調的フレームワークのための米日戦略」(1年目) | 米国戦略国際問題研究所 | 2008.10.01 ~ 2009.03.31 | アジア太平洋諸国の地域秩序と日米関係について分析、政策提言を目指す。広範なコンセンサスや将来の組織的枠組み議論の推進、地域枠組み及びモデルを提案。日・印・米3カ国戦略対話のアイデアを紹介し、アジアの政治の安定、経済の開放、民主主義、法の支配、グッド・ガバナンス、アジアにおける民主主義の機能形成の鍵となる行動指針を提案。3年計画事業の1年目。 |

日米交流推進費

| | 事業名 | 助成機関 | 期間 | 事業内容 |
|----|---|-----------------------|-------------------------|---|
| 19 | 「社会起業の地域モデルの拡散を通じた、社会イノベーションの普及に関する研究プロジェクトおよびシンポジウム—日米事例の比較を通じて」 | 慶應義塾大学 | 2008.10.01 ~ 2010.02.28 | 社会起業（ソーシャル・イノベーション）の分野において特定地域での成功事例を他地域に現地適合させ展開・普及（スケールアウト）させる上での課題と対策を検討するプロジェクト。 |
| 20 | 「アジア安全保障におけるロシアの役割：日米対話」 | ニクソン・センター | 2008.11.01 ~ 2009.03.31 | オイル景気を背景にしたロシアの強気の外交や中露の接近がアジアの安定における日米関係にも影響を与える可能性があるなかで、中露関係、上海協力機構における参画、六者会議における関与、アジアにおけるロシアの役割などを検証し、対露関係における日米協力のアプローチの提案を目的とするプロジェクト |
| 21 | HIV/AIDSの治療や予防に取り組む人々の日米草の根交流プロジェクト(2年目) | パブリック・ヘルス・インスティテュート | 2007.11.01 ~ 2009.03.31 | 日米でHIV/AIDSの治療や予防に取り組む、研究者や実践家たちによる2年間の交流事業。日米の研究者とNPO関係者等実践者の知見の交換を実施 |
| 22 | 「日米の計量モデルによる政策分析」 | 日米・世界モデル研究所 | 2008.11.01 ~ 2009.10.31 | 米国のサブプライムローンによる金融不安や日本のデフレによる不安定な世界経済の景気後退に政策的に対応し、再活性化に貢献するため、日米の計量モデル（データベース）を補強・改善して、為替レート変動、貿易自由化、財政・金融政策等のシミュレーション分析を行う事業。専門家会合やシンポジウムを2009年1月と9月の2回東京で開催 |
| 23 | 「精神保健福祉政策の形成及び実施においてNPOが果たすべき役割と日米のNPOの相互連携がもたらす効果についての国際比較研究」（1年目） | 特定非営利活動法人自律支援センターさぼーと | 2008.11.01 ~ 2009.10.31 | 精神障害者の権利擁護や生活・社会参加支援を目的として、どのような発言や運動を行うことが公共政策に有意義な影響を与えることができるかの解明を目指すプロジェクト。日米比較調査・資料収集、シンポジウム・ワークショップ、NPOの社会的認知度の向上とスタッフ養成の実践的試行、提言のまとめ、成果発表を行なう2年計画事業の1年目。 |
| 24 | 「台頭する中国とインド：日米にとって挑戦か好機か」（1年目） | 外交問題評議会 | 2008.12.01 ~ 2009.11.30 | グローバルな課題における中国とインドの台頭を分析し、両国が国際関係マネジメントに及ぼす影響を解明。さらに、現代の国際的なパワーシフトと、日米の政策選択のリンクを研究。日米の官民両セクター方針決定者に、協力の機会に関する政策関連指針を提供することを目指す事業。3年計画事業の1年目。 |
| 25 | 「アジアの海洋安全保障：挑戦と選択」（1年目） | アメリカン・エンタープライズ研究所 | 2008.12.01 ~ 2009.11.30 | アジアにおける海洋環境の変化と、そうした変化が日米の地域力学にもたらすインパクトを検証。アジア諸国の海洋安全における潮流や課題を認識し、海軍能力の情報提供や技術革新の調査、海洋保全を促進する政策提言を行う事業。2年計画事業の1年目。 |

日米交流推進費

| | 事業名 | 助成機関 | 期間 | 事業内容 |
|----|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------|--|
| 26 | 「中国・広東省の持続可能な発展に向けた教育」(1年目) | インスティテュート・フォー・サステイナブル・コミュニティズ | 2008.12.01 ~ 2009.11.30 | 中国における持続可能な発展に向けた教育(Education for Sustainable Development)の開発・普及を目的とする3年間プロジェクト。日米のNPOが主体となり、相互訪問・相互学習を通じて日米中のネットワークを形成し、広東省に適したカリキュラムを開発・試行し実践モデルを提案する協働事業。3年計画事業の1年目。 |
| 27 | CARTプロジェクト | カートプロジェクト事務局 | 2009.03.01 ~ 2009.03.31 | 日本、米国、中国、東南アジアから第一線のジャーナリスト、メディア関係者、研究者が会し、日米関係の強化に資する重要な政策課題や問題領域に関して、トラックII形式で会議を実施。中国やインドの台頭を念頭にアジアを舞台にした日米共通の課題を見出し、その解決についてジャーナリスト的な視点で討議 |
| 28 | 日米研究インスティテュート設立国際シンポジウム | 日米研究インスティテュート | 2009.03.05 ~ 2009.04.30 | 「日米研究インスティテュート」設立にあたり、日米間の課題を広く問題提起し、その解決策・日本の取るべき道などにつき京都大学、慶應義塾大学、東京大学、立命館大学、早稲田大学の日米研究者たちによる基調講演、意見交換、マスメディア報道を通じて、当インスティテュートの設立意義を広める会議を2009年3月に日本で開催 |
| 29 | ブリュッセル・フォーラム | ジャーマン・マーシャル・ファン ド | 2009.03.01 ~ 2009.06.30 | 米欧を中心としたハイレベルの政府関係者や有識者、グローバル企業経営陣等が参加する、非常に発信力の高いフォーラム。本年のフォーラムでは、米新政権と欧州、ロシアとの対話、移民問題、気候変動問題、テロ対策、食料安全保障、新たな金融体制、金融危機、エネルギー安全保障、ボスニア情勢、ウクライナ情勢、アフリカ情勢等について討論 |
| 30 | 「グローバル経済の開放性と日米間のパートナーシップ」(1年目) | ランド研究所 | 2009.03.01 ~ 2010.02.28 | 地球規模の信用収縮に直面する世界経済において、とくに多角的開放性(multilateral openness)という観点から、開かれた貿易・投資政策を構築するための日米の環境整備や、ワールドワイドにも有益な両国の協力体制につき研究提言する。省エネ自動車など、日米で開放性や経済競争力を維持することにより技術開発が促進される可能性のある分野にフォーカスすると同時に、貿易のマイナス面を緩和する施策を模索。2年計画事業の1年目。 |
| 31 | 「太平洋エネルギー・サミット」 | 全米アジア研究所 | 2009.03.01 ~ 2010.03.31 | 拡大するエネルギー需要とそれに伴う環境問題への対策をテーマに、日米ならびにアジア太平洋諸国から専門家や有識者を集めた「太平洋エネルギーサミット」を2009年11月に東京で実施 |

日米交流推進費

2. 催し等事業費 / (2) 日米交流支援 (主催)

日米間の知的交流を推進するために、セミナー・シンポジウム等を開催する。

合計額 44,453,964 円

| | 事業名 | 共催・協力機関 | 期間 | 事業内容 |
|---|---------------------------|--------------------------|-------------------------|--|
| 1 | マンスフィールド財団との協働事業評価 | モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団 | 2008.04.01 ~ 2008.09.30 | 日米センターは、マンスフィールド財団と共催で過去3回(平成17年度~19年度)にわたりシンポジウムを実施。今後の関与・継続の是非を検討するにあたり、日米の外部専門家に評価を依頼し、インタビュー・ヒアリング調査等を実施。 |
| 2 | 日本-日系人交流促進プロジェクト | | 2008.04.01 ~ 2009.03.31 | 在米日系人社会と日本との相互理解を促進し、日米の長期的な関係強化を目的に、全米各地から、多様な分野で活躍する在米日系人13名を2~3月に10日間招聘。外務省との共催により、東京、京都、沖縄にて各界の日本人との対話、歴史文化視察、公開シンポジウムを実施。前年度(2008年3月)に福岡市で開催のシンポジウムの報告書を日・英両語で作成し、関係機関に配布 |
| 3 | 米国の東アジア専門家との対話と日米関係の将来的展望 | 財団法人日本国際交流センター | 2008.07.01 ~ 2009.03.31 | 米国知識層におけるアジアへの関心がどの程度米国政策形成に影響を与えているか、日米が共同でアジアに関与してゆく上での主要課題について考察。成果については報告書を刊行 |
| 4 | 日米青年政治指導者交流プログラム | 財団法人日本国際交流センター | 2008.08.01 ~ 2009.03.31 | 日米の若手政治家、政治家政策秘書、政党スタッフ等、両国の将来の政治指導者となる人材の交流を行ない、政策形成過程と密接に関わる政治の世界における日米理解と対話を促進し、二国間関係の基盤を整備する。日米の共催・協力機関との連携の下、超党派による米国人青年政治指導者(8名)の本邦への招へいを実施 |
| 5 | 第4回日米中会議 | 外務省 | 2008.09.21 ~ 2008.09.24 | 本会議は、米国の外交政策研究所ならびにニュー・ワールド・インスティテュート、中国の上海国際問題研究所、そして日本国際問題研究所が共催して、2004年から行なっている会議。今回で4回目となる本会議は、変貌していく世界に噴出する問題群に対し、日、米、中の3カ国が如何に強制的に対処していくことができるか、そのための関係を如何に築いていくことができるかを検討することを目的として実施 |

日米交流推進費

| | 事業名 | 共催・協力機関 | 期間 | 事業内容 |
|----|-----------------------------|------------------------|-------------------------|--|
| 6 | 米国若手指導者ネットワーク・プログラム | 外務省 | 2008.10.04 ～ 2008.10.11 | 日米知的交流事業の一環として、将来、米国の外交政策及び世論形成過程に関与し得る、次世代の対日関心層の拡大を目的とした本邦招へい・対話事業。米国の若手・中堅パブリック・インテレクチュアル6名を日本に8日間招へいし、政・官・財・学・メディア等各界リーダーとの意見交換や、ネットワーク形成の機会を提供。最新の日本の政治経済社会に関するレクチャーや歴史文化に触れる地方視察も実施 |
| 7 | 新米国安全保障研究所 (CNAS) セミナー | 外務省 | 2008.10.14 ～ 2008.10.15 | 本ワークショップは、カート・キャンベル元国防次官補等が中心となって設立した新米国安全保障研究所 (CNAS) が7月に立ち上げた「日米同盟タスクフォース」が報告書を執筆するに当たり、日米二国間関係のみならず、国際社会が直面する幅広い課題について意見交換を行なうことを目的として開催 |
| 8 | 日米韓トラック1.5会議 | 外務省 | 2008.11.20 ～ 2008.11.21 | 日米韓それぞれで、可能な限り政府と一定の関係を持っているシンクタンク (米国：平和研究所 (USIP)、韓国：外交安保研究院 (IFANS)、日本：財団法人世界平和研究所 (IIPS)) が共催者となり、日米韓各国の議会関係者並びに各国政府 (国防・外交関係省庁) の課長級の参加を得て、国際情勢、外交、安全保障等についてトラック1.5レベルでワシントンD.C.において意見交換を行うことを目的に会議を開催 |
| 9 | 米国における日系企業の社会貢献活動 (CSR) の調査 | 特定非営利活動法人パブリックリソースセンター | 2007.12.04 ～ 2009.03.31 | 日本及び日系企業に対するイメージ向上と親日層の拡大を目的として2006年より開始した調査事業。これまで中国、韓国、インド、マレーシア、メキシコ、英国、フランス、ドイツにて在外日系企業が行っている社会貢献活動に関する調査を実施。民間企業との連携強化および日米交流事業の新たなアイデア構想と一層の拡充のため、在米日系企業の社会貢献活動の実態把握をするべく、今般米国においても調査を実施 |
| 10 | 文化による災害からの復興・防災に関する日米協力事業 | | 2009.02.01 ～ 2009.02.08 | 2009年2月、防災教育・心のケアなどに焦点を当てて、アート等を用いて斬新な取り組みを行ってきた日本のNGO、教育者やメディア関係者を、ニューオリンズ及び、防災分野で米国をリードしてきた西海岸 (ベイエリア) に1週間程度派遣。2005年のハリケーン・カトリーナに端を発する復興交流の発展形として、日米の専門家・市民団体が、双方の教訓やクリエイティブな知見を学び合い、今後の協力の可能性を探るために対話を実施 |

日米交流推進費

| | 事業名 | 共催・協力機関 | 期間 | 事業内容 |
|----|--|---------|-------------------------|--|
| 11 | パシフィック・カウンシル2009 メンバーズ・ウィークエンド 「米国新大統領の外交政策課題」 | 外務省 | 2009.03.06 ～ 2009.03.07 | 1995年に外交問題評議会の米国西海岸におけるパートナーとして設立されたパシフィック・カウンシルのメンバー向け会合として開催される2日間にわたる催し。メンバーは西海岸のみならず、米国全土、カナダ、メキシコ及び太平洋沿岸諸国に広がっており、政策決定者、オピニオン・リーダー等約300名が参加 |